拾年紀念号

外科問司

刀林五

JUBILÄUM

恩謝

茂木先生

19 20

19 30

MUSEUM
多賀城
宮城県
19 20
19 30

祝開局拾週年

KUJYUNEN

△刀林第五號・開局十週年紀念・昭和五年十一月二日▽

表紙……瀬尾賓三　漫画・カット……吉野天朗　田村信介
版画（扉・六清會）……瀬尾賓三
版画……木村　博　寫眞（宮田画伯）……志田元秀

開局十週年に際して……犬養六郎（一）
日本外科發達史……佐藤太平（一一）
信州の思出……（一八）
昭和四年度學會紀行……（二七）
學術的方面より……（三七）
大阪學會より……（四四）
南米便り……（五四）
偉大なる哉自然治癒力……（七一）
長壽法……（七五）
男兒のほしい方へ……（八二）
大便に開口した話……（八三）
我医局の体格……（八四）
メリケン漫文……（八五）
モンアサヒカハ……（九三）
支那漫談……（九七）

GEKAIKYO

第八回生入局沼津歓迎旅行……（一一〇）
謝恩観劇會……（一一七）
茂木先生御招待國府津船遊ビ紀行……（一一九）
スポーツの外科……（一二九）
富士救護班座談會 附富士救護の歌……（一三五）

文藝欄

羅紗若葉の頃……（一四三）
紙……（一五一）
刀祢雑草……（一六四）
西病舎小唄……（一六九）
外科医局の歌……富田……（一七一）
病院新行進曲……沼生……（一七四）
岳麓に遊ぶ……（一七六）
精心から肉体へ……（一四六）
母を失へる児の詠へる……（一六七）
西病舎にて……（一六三）
……兼故人……（一六七）
……一九三〇流行小唄……（一七三）
……外科の歌……（一七五）

先輩及軍隊よりの通信……（一七七）
医局の人々……（一九五）
医局だより……（二〇二）
小野たか子女史と語る……（二一三）
救護便り……（二一七）
病院近況……（二二二）
整形だより……（二二五）
新入局員運勢判断……（二二七）
戒名考……（二四〇）

△特別附録……銀座案内……三羽烏編▽

◎我々の十週年を迎えて◎

月日の経つのハ早いものである
我々の外科醫局が開始せられてから
はや十年になると八全く夢のやうである
併しその長い間に我々何をしたろう
果して学術界に貢献したものがあったろうか
又た病者への實績はどうであったろうか
追想すると此の悔恨たらざると得ない
併し人間にハこれで満足だとゝふ気があったら
もう進歩ハしないものである
幸にと
我が胸中にハこれでいならぬと云ふ気が湧いて居る
イザヤ我々の十週年紀念に当りて
スタートを改めて斯界に精進しやうでハないか

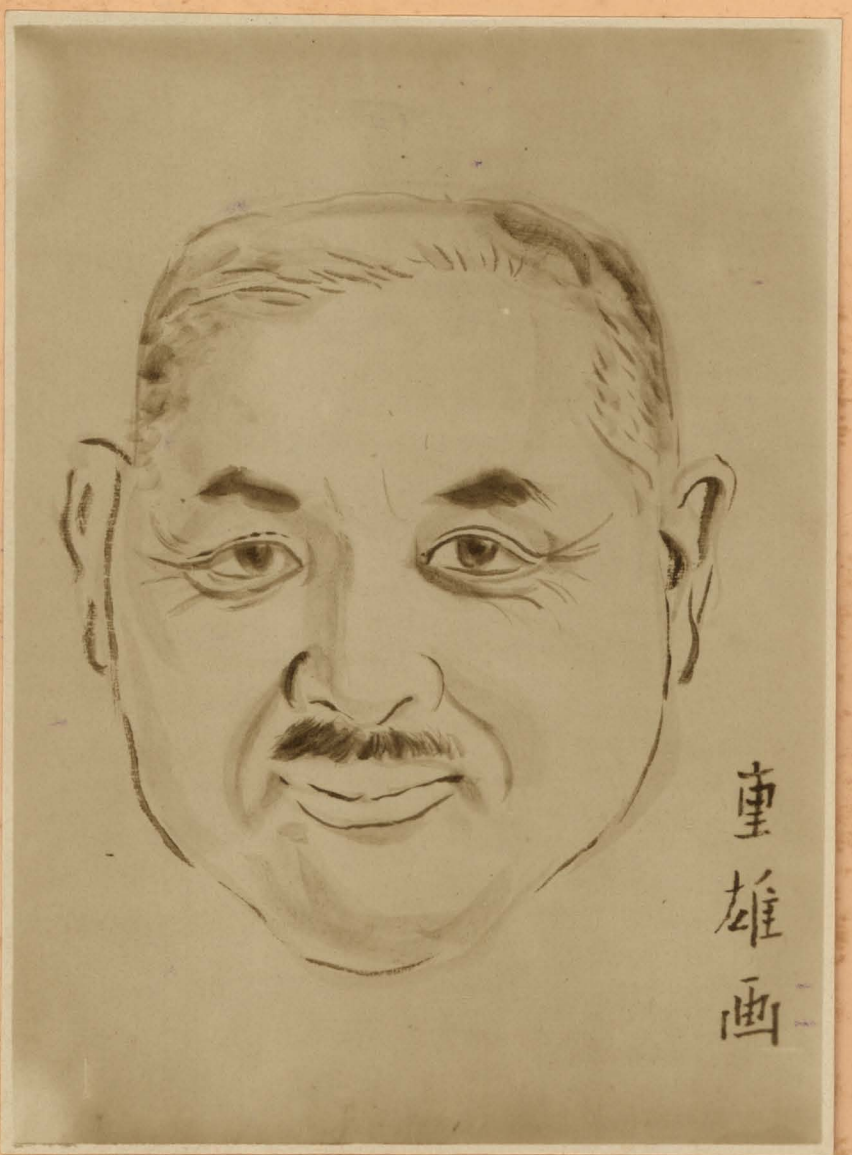
武本藏之助

開局十週年を祝ふの辞

芽出度開局十週年を迎ふる小隆し
茂木教授の御健康を祝し
併せて医局員一同の此後
益々發展せらるんことを祈る

昭和五年十一月吉日

前田和三郎


重雄画

十週年を祝して
義本多生に捧ぐ

新年頌に
初霜置きて
いつも変らぬ
不死山

大腹庵主

祝　賀

論文通過　山本順君

仝　町田謙二君

特選研究生　渡邊治生君

講師昇任　岩原寅猪君

歓迎新入會

伊藤由比君
堀田善二郎君
小方則太郎君
田村信介君
武藤々太郎君
寺田恭三君
酒井欣郎君
細江静男君

蓮江英男君
富田勝郎君
小澤武雄君
辻岡元君
布留文夫君
相見三郎君
森豊明君

送別

戸田四郎平君
中村次郎君
橋本文吾君
佐藤盛二君
澤江六太郎君
細江静男君
今井金治君
生田幸喜君

亘理祐邦君
弓削中君
八木勝郎君
松井八郎君
村上晋君
山本順君
田中周吉君
森下貫一君

昭和五年度同窓會役員（いろは順）

會長　茂木藏之助

評議員

犬養六郎　大庭國紀　大曾根幾太郎

上石英造　竹下貫一　梅村六郎

柳　壯一　山本　順　前田和三郎

木村　博

幹事

町田謙二　神山敏雄　渡邊治生

横山虎雄　藤原道紀

會計

横山虎雄

開局拾週年に際して

大養六郎

我々の外科医局が甫めて開かれた大正九年六月七日から本年迄に恰度滿拾ヶ年を経過したのである、当時を追懐すると僅ゝ数年前のような氣持ちしかしないのに、最早春風秋雨拾星霜をけみして居る。

此の拾年間には社會的にも世界的にも、思想的にも色々の方面に於て著しい変化のあつた事は今更事新らしく云ふ必要もない事であるが、我外科教室に取つては、それにも劣らぬ目覺しい変化、発達の跡を刻して居る事実は、我々此医局に居る者として真に愉快に堪へない感激を覚えるのである。

開局當時を顧ると教室の人としては、茂木先生を初めとして、柳、成松、大

庭、梅村、中村、西田の諸君と私との都合八名に過ぎなかつたのである、そして医局丈けは出來たが、診察室も、手術室も出来て居なかつた状態であつて、セッセと開院準備の為めに諸設備を整へるべく精進して居たものである、そして兎に角愈〻開院といふことになつたのが仝年八月二日であつたのである、開院はしたものの、現在の外來診察室のように、新來と再來とを別々にわけてあつたのではなく、新來も再來も一つの室でやって居たのであつたが、又患者も初めは少数であつたから只今のような再來は押すな〳〵の盛況などは當時想ひもよらない事であつたのである。けれども當時の我々は極めて緊張した、そして洋々たる希望に溢れた氣持ちで誰も彼も愉快であつた事は今思ひ出しても愉快な感じである。之れは我々外科教室の者許りでなく、當時の我医学部全体に漲つた暖かい潮流であつたのである。

六月七日に医局は出來た、八月二日からは外来診察は始まつた、仝九日からは入院もとり始めた、十日からは手術をし始めた、その

夜から初めて当直もするようになったといふ譯けで、次から次にと仕事が目に見えて展開して行くのだから、張り合ひがあり、愉快にならざるを得なかった。

病室も初めは階下の二病棟丈けを各科で使ったものが次にその階上を使用し始め、追々に全病棟も使用するように患者が殖えて行くのだから、活氣に富んで來るのも無理はない。開院迄には相當に設備を整へた積りではあったが愈ゝ実際に當って見ると不足して居るものも出來て來る、又人員も僅か八名やそこいらであるから各自が餘程努力せなければならない点もあった、開院の年の秋であったが入院患者に重症者があって、食塩水注射を行はねばならなくなった時である看護婦は実地には未だ慣れては居ない、殊に食塩水注射はどうしてするかその方法も知らないものすら有った時の事だから止むを得なかったでもあらうが、茂木先生が外來にあった「イルリガートル」臺をひっ提げて、外来から大廊下をドシ〳〵と病室迄運んで行かれた事があった、今ではそんな事が本当にあったのかと怪し

まれるかも知れないが、然し此れは当時あつた事実の一端である、之によつてもその頃はどんなものであつたかを想像が出來はしないかと思ふ。

當時は外科医局許りでなく他の各科医局も人員は極めて少数であつたから、各医局員が殆んど一ッの医局員と曰つた形で互に親しみが深かつた、尚東西両校舎の諸君とも親しく相識る事が出來て居た。（慶應出身の同窓が教室には入るようになつては之れとは別であるが）現在のように人員が非常に増して來ては、到底其當時のような訳けに行かないのは無理からんことである。

開院式は仝年（大正九年）十一月六日に行はれた、式場は現在の西病舎のある處が広ッ場であつたので、其処に假式場を設け、天幕を張り盛大に行はれたのである。鎌田塾長が司會者で、多数の名士が参集せられ極めて盛大であつたのである、開院當時の病院の「モットー」は曰く「患者本位」といふ事であつた。当時の三田新聞は殊にそれを高潮して記載してあつたと記憶するが、都下各新聞紙も

此開院式の寫眞や記事を載せたものである。

病院の研究室は初めから綜合研究室システムであつたのである、從つて各教室附屬の研究室は設けてなかつた、そして研究室の出來たのは最も後れて開院した年の十二月一日からやつと使用が出來るようになつたのである、それも第一研究室、第二研究室と別れて居た、第一研究室は医化学方面に、第二研究室は病理細菌学方面に関する研究の出來るような設備にしてあつたのである、然し現在では此の両研究室は無くなつて、新たに食養研究所と合体してすばらしいものとなつて居る、第一研究室の跡は現在の皮膚科泌尿器科蠟製模型室、神経科教授室、神経科医局がそれであり、第二研究室の跡は整形外科治療用諸器械のある第二治療室と整形外科教授室とがそれである。(第三研究所は之れとは別個のものである。)

慶應義塾大学医学部が第一回卒業生を出したのは大正十二年三月である、此第一回卒業生が医局に入局するようになつて生え抜きの慶應ッ子が医局に生れたわけである。爾來毎年新卒業生諸君の入局

で医局は益〻はぎやかになつて来た。

此の第一回卒業生諸君の入局した年の九月一日が例の大震災のあつた時である、あの大地震があつた其時から直ぐ様慶應病院には救護所を設けて救療に従事したのである、續いて其当夜からは大火災の為めに救護班を組織して各方面に出張、救護の実を挙げたのである、又病院内では病室丈けでは間に合はないので東校舎の二階の大部分を病室代用にして之れに患者を收容したものである、其後になつては芝に協調會病院が出来、下谷や四谷には済生會臨時病院が出来、深川にも上野にも横浜にもそれ〳〵臨時バラック病院が出来て之に慶應病院から医員を派遣して救護事業に従事したのである。そして其先頭に働いたのは主として我々の外科教室であつた、現在の慶應病院西病舎と称してゐるバラック病棟は此の時に出来た済生會臨時四谷病院そのものなのである。

大正十三年十一月四日には茂木先生は救護班長として医員三名、看護婦四名を率いて、満州奉天へ救護に赴かれたのである。それは

此の年に奉直戰爭があって非常に多數の負傷者が出来たので、その救護の爲めであったのである。医学の発達未だ遲々たる支那に於て極めて優秀の技能を発揮せられて我日本医学の爲めに萬丈の氣を吐かれたのであった。然るに不幸にも先生は手術時に負傷せられた手指より、化膿菌浸入して瘭疽から敗血症を継発し一時は危篤を報ぜられて、茂木先生の奥さんと一諸に、医局からとして私が奉天へお見舞に赴いたのである。幸にして先生は全快せられて、非常なる感動を彼地に與へて、翌大正十四年一月十六日歸られたのである

爾來年々の出来事を認めれば數限りもないが、それは他日に讓るとして今一度過去を追懷して見たい

医局の初めて出來た時の医局員は前にも述べたように八名に過ぎなかつたのであるが、現在の医局は全部で四十七名であり、医局を出た人々は六十名になって居る・故に医局初まって以来今日迄の総人員は百〇七名を数へるに至って居る・

さて此の我外科医局員であった諸君は何れも、有ゆる方面に於て

重きをなして居る事は曰ふ迄もないが、その内でも、慶應大学医学部教授となつた人に木村博、草間良男の両君があり、北海道大学教授に柳壮一君あり、慶大医学部外科教室助教授に佐藤太平君、仝講師に町田謙二君、岩原寅猪君あり、日本大学医学部助教授に篠原静夫君あり。東京女子医学専門学校助教授に大槻正路君あつて、我々の同僚の活躍は大に意を強うするに足る。

又開業せる諸君は有ゆる方面にあるがその中でも、濱松の梅村六郎君、鎌倉の大庭国記君、小田原の戸田四郎平君等を初めとして、何れも成効せる諸君が二十餘名に達する状態である。実に多士濟々である。

又職を奉じて社會的に地歩をしめつゝある人には、福岡縣の赤池鉱業所医務課に成松清敏君あり、済生会病院外科部長に鎌田竹次郎君あり、満州満鉄開原病院に高木宗吉君あり、北海道小樽病院に山本順君あり、樺太大泊病院に三橋弘君等あつて、北は樺太、北海道より、南は九州に及び、更に海を渡つて北満の地に我々同僚の士の

活動を續けて居る事は我々の誇りであらねばならぬ

又我々の医局が初まつてより今日迄に、医局員で学位を得た人々は合計十六名を数へるのである。盛んなりと云ぶべしである

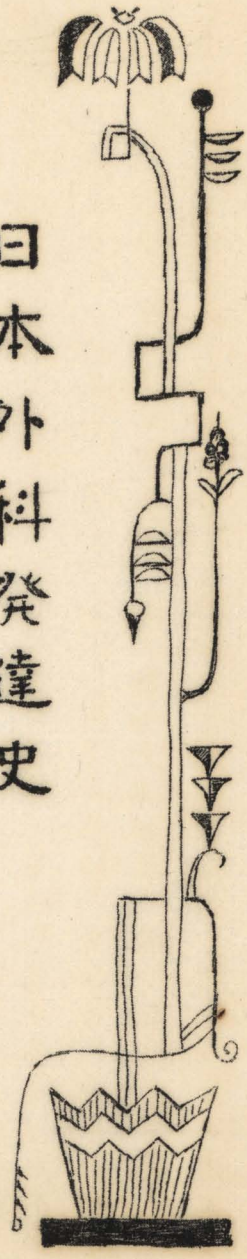
此の十年間を回顧し発展の跡を忍ぶ時、轉た感慨無量である、慶應大学主脳部の人々が慶應医学部を設けて其の病院に果たして患者が一杯になるだらうかと疑懼の念を抱いたものだと仄聞した事があつたが、開院すると最初から、好評嘖々急速の発展を遂げたものである。我外科医局は最初から発展するものだと云ふ事丈けは信じて居たのであつたが、十年後にどういふ変化発展があるだらうかと云ふ事になると、それ程深く豫測したものではなかつたのである。

けれども十年の歳月のたつた今日には前述のような著しい発展を遂げたのである。然し斯る結果を招來したのに就ては、医局の諸君の不断の努力と熱心との結果である事は曰ふを要せない事であるが、それにもまして、恩師茂木先生が我々の為めに如何許り心労せられて、指導し啓発して下さつたかは、我々の深く感銘する処である。

之れから更に拾ヶ年を経過した後の、開局式十週年記念式を行ふに当っては、果たして如何程の向上、発展を来たすであらうか、それは全然豫測を許されない処である。

十週年記念式は本昭和五年十一月二日に盛大に行はれるのであるが、それにも増して二拾週年記念式は更に一層盛大に行はれるであらう、その時には恩師茂木先生も還暦に當たられる頃であるから、二重の祝意を表はす事を今より期すべきである。

（了）



日本外科發達史

佐藤鵬山

余は、此回、我慶應外科教室に於て、開院満十週年紀念事業の一として、刀林の特別号を発刊するに当り、欣快黙するに忍びず、不適を顧みず、敢て本題の如きを掲げて祝奠の意を表するものである。

第一、神代より平安朝末期に至る所謂上古時代

我国医術の開祖は、素盞嗚尊の後裔なる大穴牟遅神と高皇産霊神の御子なる少名毘古那神であって、外傷其他の病苦を癒し、蒼生を済生せしめ給ひし由が傳へられて居るが、勿論、如何なる術であったかと知るによしない。

本統の発達は支那との交通開始によって起ったのである。即ち、漢医の漸く

行はれるに至ったのは、欽明天皇十一年（西暦五五〇年）佛教の渡来するに及んでからである。

次で、唐との交通繁くなり、文武天皇の大寶元年（西暦七〇一年）「医疾令」なるものが定められ、外科（其當時は創腫と云ふ）も亦其一分科として存在したのであるが、其の術は、多くは、鍼灸或は藥物の塗抹等であった。

奈良朝時代となっては、唐との交通は益々頻繁となり、医術も其影響を受けて隆盛に赴いたのである。而して平安朝時代には、創腫の制が確定せられ、保元平治以後には外科を主とするものも多くなったのである。

第二、鎌倉、室町より安土、桃山時代に至る中古時代

鎌倉時代は、禪僧等の支那に渡るもの多く、從って当時の宋より新知識を輸入して、外科の術も大いに発達したのである。而して、南北朝の頃には、戰乱の為め、支那との交通も疎くなり、一時衰微したが、古來創腫と名づけたものが、此の時代に及んで始めて、外科の名称を取って来たのである。次で足利時代に入りて、支那（明）との交通は、再び繁く、明医方の輸入を見るに至った。

安土、桃山時代には、外科に瘍科と金創医との別が生じ、瘍科にも二流あっ

て、一は鷹取流、他は南蠻流と云つた。天正、慶長の頃に、鷹取秀次と云ふ人、外科に勝れて一派をなし、南蛮派に對峙したのであるが、是れが即ち鷹取外科である。南蛮流は葡萄牙人の外科であつて、後奈良天皇の天文十二年（西暦一五四三年）葡萄牙人の始めて我国に來りて医術特に外科を以て、キリスト教布の具としたので、秀吉が南蛮寺を破壞し、葡人の入国を禁した結果、南蛮流は頓挫を來して了つた。

第三、徳川幕府時代、是は第十七世紀より第十九世紀に至る二五〇年間に渉るもので期間が長い丈けに其初期と末期とに於ては非常なる差異がある。

1. 徳川初期及び中期の外科

慶長十六年（一六一一年）徳川秀忠は禁教令を布き、寛永七年（一六三〇年）欧文書の輸入を禁じ、亦、我国人及び邦船の外国渡航をも禁じたが、たゞ和蘭及び支那のみは通商を許したので、長崎が當時唯一の開港場となり、同地に和蘭流外科が輸入せられ、爲めに医家の長崎に留学するものが多くなつた。

2. 徳川末期の外科

文化、嘉永の頃、紀州の人、華岡隨賢、此の人は有名な人であるが外科に通

じ、通仙散なるものを用ゐて麻醉を行ひ、多くの大手術を行ひ、又、此の門下生にも名医多く、蘭流外科に對峙して遜色なかつたと云ふ。

次で、文政六年（一八二三年）シーボルト氏が長崎に来りて初めて、泰西に於ける當時の最新外科を傳へた。氏は獨逸ウルツブルグ市の人で、一八二二年和蘭軍医となり、バタビヤ總督に隨行して我長崎に渡來したのである。そして鳴瀧村と云ふ所に校舎を設けて医学及び植物学等を講義した。當時、氏の外科術の名声は天下に冠たりであつた。故に、洋医に志す者は竟って長崎に留学するの有様で、其門下より輩出した外科医も多かつたのであるが、後ち長崎に於て、蘭船顚覆事件起り、氏は国外に追放せらるゝこととなり、一八三〇年独乙に歸り、我国に関する書を著述するなどして居つた。而して、安政六年（一八五九年）再び我国に渡來し、幕府の外交顧問となつたが慶應二年歸国後ミュンヘンに於て七十五才で死んで居る。

時代が少しく後戻りするが天保年間には蘭流外科が益々盛んとなり、外科に関する著述も少くなかつた。次で、幕府は、蘭学を禁じ、嘉永六年（一八八三年）米国よりペルリが渡來すると共に、国内騒然として攘夷を説くもの多かつ

たにも拘らず西洋流外科は漸次勃興し来り、漢医方外科を壓倒するに至つたのである。

安政四年（一八五七年）伊東玄樸、戸塚静海、林洞海、坪井信良、竹内玄同氏等相はかつて、江戸和泉橋に種痘館を設けて種痘を施すと共に、医学教育を開始した。其後三年にして之を官立とし、文久元年（一八六一年）「西洋医学所」と改称した。之れが即ち今の東京帝国大学医学部の最前身である。

長崎にも長崎養成所なるものがあつたが、是れ亦、文久元年「精德館」と改称して大いに内容を充実して西洋医学を教授したが、これは今の長崎医專の前身であつて、我国外科の発展に貢献する所少なくないのである

第四　明治以後

王政維新と共に政府は蘭流外科を廃して英流外科とした。戊辰の役には英医ウイリス氏親しく從軍して銃創其他の治療を行つて大いに彼れが妙技を発揮して居る。

明治元年、和泉橋医学所を改めて海陸軍病院とし、医学校を之に附属せしめた。翌明治二年蘭医ドードイン氏大阪に來りて始めてリスター氏防腐法を唱

道した。

明治二年五月、東京に於ては、昌平校を改めて、大学校と称し、医学校及び病院を之に附属せしめた。大学校は後に大学と改称し、医科は東方和泉橋にあるを以て大学東校と改称せられた。

其後我国の外科は、岩佐純、相良知安氏等の建議にて、英流医学を廃し、独逸流となったが、当時恰も、普佛戰争の際であったので、独医を招ぎ難い状態にあった。然るに、明治四年七月に至って独乙よりミュルレル氏及び木フマン氏來って独乙医学を教授した。特に、ミュルレル氏は外科を擔當して種々なる新手術法を行って当時の邦人を驚したものである。同氏の任期満了後はシュルツ氏代って來朝して外科教師となったのである。次で、明治十四年スクリバ氏来朝し、実に二十年間の久しきに渉って東京医科大学の教師として我国外科の発達の基を成したのである。

此頃より、邦人にして、独乙に留学し、独乙流外科を学んで帰朝する者多く明治十七年には、宇野朗氏東京医科大学の教授となり、同廿年、佐藤三吉先生教授に任ぜられて外科学を講じた。次で、各地に医学校又は病院等の設立を見

漸次其組織及び内容が改善せられて今日に至ったのである。

日本外科学会は、明治三十年頃に其設立の協議起り、明治三十二年四月、東京に於て第一回日本外科学会開会を見た。而して、第一回会長は佐藤三吉先生であった。

爾来毎年四月を期として開会せられ年と共に隆勢に赴き已に回を重ぬること三十一回である。而して来年は、我教室の茂木先生第三十二回の会長となられて、一九三一年の最尖端の我国外科学界をリードせらるゝことゝなったのであるが、誰が我等同人の名譽して喜び、延ては慶應大学の為めに祝福しないものがあらうか。

（了）

信州の思出

竹生

皆々様御機嫌麗はしくお目出度う存じます。

新緑を競ふ若葉、いと濃やかに降る春雨、初夏の趣きも亦捨て難いものが御座います。

外科医局も早や十週の誕生を迎え十週年記念祝賀の催しあるにあたり茂木先生始め皆々様益々御壮健に、いよ〳〵御発展のお喜びを申し上ぐる光榮を持つものであります。　十年一昔とも申します・又十年一日の如くとも形容いたします様に十年と云ふ月日はそんなに短いものでは御座いません・その間本當に先生には十年一日の如く生みの苦しみから育ての苦労と隨分と御心痛のことだったと思ひます・漸く医局も十才となりました。

十才と云ふ年令はもう幼年期ではありません、勿論完成の年令で

はありませんが、これから大成し様とする一つの階段に他ならないのです。その意味で今回の十週年記念祝賀は過ぎし十ヶ年のお祝であると共にこれから進まんとする門出の祝盃とも申したい。先生には益々お息災に渡らせられ医局の大成に向って御示導給らんことをお願ひ申ます。

小生は昨年三月以来信州にて製糸女工相手に比較的呑氣な生活をいたしてゐましたが、家庭の事情及び自己の都合上本年四月信州を辞し再び帰京K○の薬物教室に入室いたしてゐます。御挨拶を差上ぐべき所当時何やかやで取まぎれ何とも申訳なく貴重な「刀林」紙上にて一寸御挨拶いたします。

外科医局を出て信州下り迄出掛けましたが田舎で御座いましたが又其処に色々な思ひ出が浮びます。医局におりました時と遠ひ何をやるにも勝手が遠ひました。けれども亦別な意味で色々医局にて学ひ得ないことを知りました。一人で心細いと云ふ感じもありました。又自分一人でも何とか出來るなあと云ふ自信もつきま

した。

又そんなことの他に医局を出て一人でやってみると云ふことは兎に角自分と云ふものの値踏みをして貰へるのが面白いと思ひました。五のものは五、六のものは六と周囲の人々に依って自然と價値づけられる。自分ではたしかに自信をもってゐるのに案外それ丈け人が値をつけて呉れなかったり、又自分では五だけの自信すらないものが人が八にも九にも十にも見て呉れたりいたします。一度自分と云ふものを他人ばかりの前にさらけ出して値踏みをさせるのも決して無駄ではないと思ひました。

そんな色々な意味で私はこの一年を自分にとって貴重な一年であったと信じてゐます。

田舎へ行きますと色々変ったことが御座います。所謂所変れば品変るで人情風俗も大分変ったところがあります。信州は海無しの山国の為に色々悪食をいたします。御承知のイナゴは悪食の部には這入らないそうですが、蛇を喰ふ、蛙を喰ふ、蜂を喰ふ、蚕を

喰ふ蛹を喰ふ、少し山の方へ這入って行くと蟬やらかまきりを喰ったりするそうです。まるで蜘蛛みた様な所ですね。

又私は信州で不思儀な人を知りました。あちらでは神様として大分拜んでゐる人がありますが、四才にして四書五経を讀み、習はずして英、独、佛を語ると云った様な多才の人で何でも出来ないものはない。語学は勿論、書、画、音樂、彫刻、何でも一つとして出来ないものはない、しかもその一つ一つがその道の專門家も及ばないのだそうです。學歴は中学二年迄だそうですが七才にしてすでにその親は吾子を神様として拜んだと云ふことです。

尚運動方面も剣道、柔道、馬術、水泳何でもその道の達人だと云ふから恐ろしい人です。しかも新聞も讀まず本も讀まずして世の中のすべての事件をことごとく知ってゐると云ふ不思儀な人であります。食物は一日二食殆んど肉食しない野菜でしかも牛蒡と人参とを生の儘噛る。睡眠は一日二時間にて足るのだそうです。

まだ〳〵世の中には不思儀なことがある。自分の考へが及ばない

時にはこれを不可思議とする。不思議は神の業なりとして之れを神様にするのは何処にも同じであります。昔生殖器を神様として拜んだ所があるのは生殖作用を知らなかった當時には確かに不可思議のことであったに違ひない。

最近文化が進み、科学が進歩した現在でも尚現在の科学では説明出來ない事柄が澤山ある。所謂不可思議に屈すべき事が澤山ある。この人もその一人ではなからうか。

世間によく孤つきだとか神かくしだとか巫女だとか云ひよく予言やら讀心術と云ふ様なことをやる特種の人間がゐる。この種の人は皆一様に語らずして人の思ってゐることが解るらしい。皆様も必ずこの様な才能をもってゐる人を御存じのこと、思ひます。

たしかにこの様な人が世間にはありますね。又よく気合療法とか指圧療法とか云って長年の宿病を全治させる様な才能を有する人がある。この種の人の内にも矢張り同様な才能を持ってゐる人がある。患者が其処に治療に行って何とも云はせず術者の前に坐る。

とお前は何所が悪いと云ひ當てる。少くとも當る。そうすると患者は十分その人の力を信頼する、神様にする、神様ならどんな病氣でも治せる、そうした信念が出来れば病氣は治ってしまふ。それに反し現今吾々の様な医者はそうは行かぬ。何処が悪いか、何時から悪いか、昔病氣したことはないか、それで足りないと親兄弟まで引張り出してくどく尋ねる。それでも尚解らないことがある。そう云ふ所から籤が生れるのであるがどうも始めつから割が悪い。甚だしいのになると指圧療法で癌をも治ると云ふ信者もある。けれども機質的の変化が起ったのはそう簡單には行かないだらう。

けれども人の考へてゐることが解るのは事実らしい。私共の不思議な人も同様に人の云はんとすること、考へてゐることを感じ得る或る独特の能力を持ってゐるのです。この様なことを現在の科学者はどう説明するのであるか。少くとも私共は一度目の前で見せつけられると矢張り不思議として神様にしたくなる。

そんなことがあるものかと云ふ人があるかも知れない。けれどもロンドンの若槻全権の声を東京で聞いたり、大阪にある寫眞を東京で見たりする世の中、若しラヂオと云ふものに全々無知の人があったとしたら今大阪で浪花節をやってゐると云っても誰れが本當として信じ様か。そうした意味で今人の心を讀むと云ふこともすぐ嘘だと云ひ得る資格が何処にあらうか。俗に虫の知らせと云ふことがある。近親の者に災難があったりした時によく何か異変を感ずる。そんなことがある以上総ての人間には或る種のエンピンヅングがあるのではなからうか。それが特別に鋭く感じ得る才能をもってゐる人が俗に云ふ狐つきだとか巫女だとか神様だとか云ふ種類の人間ではなからうか。近頃・超。と云ふ言葉や
と云ふ字がよく使はれる・超モダーンだとか、例の超特急だとか。仮にこの様な言葉を借りて云へば恐らく人が考へたり思ってゐたりしてゐる時即ち腦細胞が活動してゐる時には超電波が出てゐるに違ひない。超電波とは余りに俗っぽくなるならば超エーテルの

波動としておこうか・その様な波動が出てそれを第六感として感じ得るのであらう。否恐らく総ての生活作用に際して各々エーテルの波動を送り出してゐるのであらう。心臓が動き肺臓が呼吸し腎臓が尿を排泄する、総てエーテルの波動を発してゐるに違ひない。そして又病気になればその波動に変化を起すに違ひない。アッペはアッペの波、気管支カタールは気管支カタール独特の波が出て各々エンピンデンされるに違ひない。こうなるとこの次の時代には科学はエーテルの波動に対する受信器を作るに違ひないそして吾々医者が現在やってゐる打診やら聽診やら色々な補助的操作による診断法などは全るでまどろっこしい稚戯に他ならない。患者が来る、黙々としてその患者はある大きな素晴らしいアパラートのある部屋に導かれる、寝台に静かに横臥させられる。と一方医者はエーテル受信機のハンドルを廻せば患者が訴へんとしてゐる事がはっきりと讀まれる。お腹が痛いと云ってゐる患者のアッペを見れば炎症を起してゐるアッペの波としてはっきり示され

すぐアツペだと云ふことが解る。

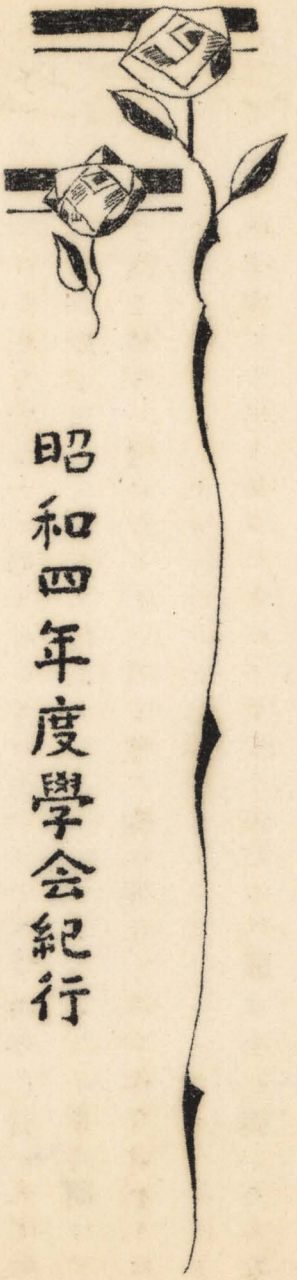
又一方テレビジョンが素晴らしく発達して同時にアツペの像がはつきりと撮される。すぐ手術場に運ばれて手術をされる。ところが現在の様なつまらないノボカイン注射などはとうにすたれて矢張り或る種の電波を送りその波により昭射されてゐる部だけの神経の興奮は全々麻痺されて仕舞ふ。患者は無痛で手術を終る。

現在の様な不便なメスは用ひられないで何か大きなマグネットと云つた様な装置で切開せんとするゲウェーベは両方に引かれて組織は細胞間隙からお互に離れ殆んどブルーツングなく單時間にて手術を終る。縫合なども、或る種の糊の様なものが作られデイヒトにくつつけられすぐウンデは治癒してしまふ。こうなると名医も医学博士も何もあつたものではなく現在の竹藪は全々跡かたもなくなつて仕舞ふのであらう。その頃になると竹藪も国宝として診重されるのであらう。せい〳〵長生きすることですね。

○書いてゐたらつまらぬことになつてしまひましたがこれで私

の責任をはたした積り。皆様御機嫌よう。

四・二〇



昭和四年度學会紀行

春魚生

今昔陽春追憶（いまはむかしはるのおもひで）

前号に載せる筈だったのを、ふとした誤から、原稿が間に合はなかったので一年遅れた今日、憶出して書けといふ御命令。

一年と言へば、短い様でも三百六十五日、入一倍記憶力の乏しい筆者のこと

故、大方は忘れ果てて居る様なものの、中には忘れ様としても忘れられぬ奇談珍談・順々に手操り出して誌して見るつもり。事実相違の点があらば、皆々筆者の脳味噌が足らぬ為と、一重に御勘辨を願ふ次第。先づ振出しは上野に始まる。

一、上野より飯坂まで……第一日

太いの、細いの、長いの、短いの。どれを見てもレディーメードは合いさうも無い面面。そのくせ汽車は、三等二割引です。一寸待ったり、三等五割引といふのが居るのです。五割引は即ち½、とりもなをさず半額の事、つまりは子供なみの訳です。子供なみで、奥州は仙台から、佐渡の見える新潟まで廻って来様といふ圖々しい先生が、誰あらう、一行中で最も太く、最も目方のかゝるハ先生なのですから、なんと皆様呆れたものです。

無駄話ならひけはとらない顔ぶれなのですが、何しろ汽車といふ奴、いつまでたつても停車場に來れば停り、動き出せばゴトン、ゴトンと鉄のひゞきをたてるばかりですし、三等室向ひ合せで、同じ顔ばかり見て居るのでは、流石に退屈を覺えて來た時、誰の用意か、將棋がとり出されました。此の將棋一組の

おかげで、旅行を終るまでの長道中、大きな坊や達が機嫌よく遊んだものです。

それに好な人といふのはどこにも居るもので、やつてゐるうちに、隣の席から一人立つて来る、向ふ側からも一人、便所に行つた人が歸りにつりこまれて立止る、U・S・W・といふ訳で、我々の席の周囲はいつの間にやら眞黒な人だかりになりました。

指手は天下の名人揃ひ、奇手續出ですからたまりません、見てゐる方で気が気でないと見えて、とう〳〵声を出します。

「アッ、そりやいけない。」

「惜しい手があつたのに。詰んでゐた。」

とに角愉快になつて来ます。話は先に飛びますが、仙台から歸る時、茶目気百%のト先生、一行中の横綱ハ先生と八百長將棋を指して、最も熱心なる弥次馬の一人を誘ひ出し弱さうに見せかけたハ先生の奥の手で、お気の毒にも弥次先生、頭から湯気を出すのを皆で楽しんだ事もありました。

飯坂温泉は佐藤先生の御郷里です。宿の御心配から、見物の御案内、何から

何まで御世話になりました。それでなくても、東京の塵ッポイ所から、湯の山に來たのですから、ハシヤギ氣味の所へ、佐藤先生の御好意で陣立てがそろつてゐるのですからたまりません。おまけに内科のク先生といふ名將が一座されたと來ては、騒ぎも大きくなる訳です。あげくの果は、飯坂名物、若葉町見物に押出すといふ訳。気の進まぬ筆者も、恐る恐るお供したのですが、御承知の通り此所の一廓は、敵將自ら街頭に進出して、文字通り、全く文字通り、手とり足とり、腰を押したり尻を押したり、無理矢理降参させる所で、余程堅固な者ならでは、無事に帰れぬ難所です。一行も散々揉みに揉まれ、金剛力で振切る者、電信柱につかまつて助けを呼ぶ者、果ては敢なく捕虜になつた者もあつたとか無かつたとか、此の辺筆者の健忘症、特に著明な所です。

二、飯坂より仙台へ……第二日

朝の光が斜にさして、櫻に遅い山国も、春霞が立つて居ります。細い田舎道を、後になつたり前になつたり、一行はのん氣に歩きました。今宵の評議員会までに、仙台に入ればよいので今日の行程は楽です。大声で歌ふ者もあります。

行く事半里、穴原温泉といふ、渓流を控えた静かな部落があります。こゝに落着いた一行は、晝食をとる事になりました。こゝの名物「なめつこ」といふ怪しげな名のついた、小さなきのこの形をして、じゆんさいの様にヌルヌルしたものを、八先生盛んに召上ります。

土地の名妓を総揚げにして、とろりと醉いました。総上げには違ひないのでこの土地でほかに藝妓の鑑札を持つ者は、確かに無いのださうですが、其の数は、正に二名です。一行中、老年の方はその年増の方、若い連中は、田舎らしく丸く肥った方を、それと言はねど奪い合い。中には「おれは評議員会に用はネエ、仙台は明日でいゝんだ」などと不らちな事を言ふ者もありました。

それでも、土地の大元締佐藤先生の命令一下、ヒヨロつく腰を持上げ、お別の握手やら挨拶やらよろしくあって、先は目出度く出発致しました。

汽車に乗ると、あちらでもコクリ・こちらでもコクリ。

仙台駅頭には、上石先生が、わざ〳〵御出迎へ下さいました。一行は大喜び、直ちに、指定旅館、豆屋といふ家に落着きました。……と書きたい所です。旅の夕暮、そゞろ郷愁の湧く頃、温い宿を得て落着くのは、當然の事なのですが、その旅館たるや、一寸落着き兼ねる代物でした。

お察しの早い方は、此奴！又ぞろよからぬ癖を出しをつたな、と思はれるでせうが、事実、床の間には上石先生の御心盡しで、ビールが山の様にあり、目的地仙台に来たのだし、景気よく一杯といふ所なのですが、どう言つてよいかつまりその、座敷と言ひ何と言ひ、下宿廻りで大低なボロ部屋には驚かぬ筆者すら、陰気に、滅入つてしまふ様な変な家でした。

木村佐藤両先生は、すぐに評議員会に行かれました。鎌田先生は、お気の毒にも風邪をひかれて「誰かうがひ薬を買つて来て呉れ。」と、余程お苦しさうです。加ふるに雨が降つて来ました。附元気で一寸町をぶらつきましたが、勢も出ず、変な調子で一行床にもぐり込みました。

夜中に氣がつくと、雨戸を開めてありません。みちのくの風は一重の障子に防ぎ兼ね、シンシンと身に沁みます。いよ〳〵妙な宿だなと思つて、戸をたて

る樣に言つて見ましたが要領を得ません。とうとう朝まで野宿した気で眠りました。雨戸を開めぬ宿屋へ泊り度い方は、仙台の豆屋旅館がよろしうございます。

三、外科同窓会……第三日

學会第一日です。佐藤先生と原先生との御発表がありました。一同パチパチと拍手致しました。

夕方は仙台市長の招待会に出席して、ハツトセ踊りとサンザ時雨とを遠くから見ました。

其の後をすぐに、上石先生の御盡力で、同窓会としての集会を致しました。非常に好都合に、盛会でありました。皆上石先生のお骨折で、厚く御礼申上ます。

豆屋へ帰ると風邪をひくので、他所へ泊つた人もありました。これは保健上止を得ぬ事です。

四、松島泊り……第四日

風邪の為御出でになれるかどうか心配してゐた戸田先生もお見えになり、今日御発表になりました。そして皆揃って松島へ参りました。塩釜のソバ屋の娘がシヤンだと言って大喜びされたのは、風邪で元氣の無い筈のト先生でした。成程ソバは風邪の薬だと感心しました。

松島の宿は静でした。島々も眠って居りました。

五、松島より東山温泉へ……第五日

東山までの汽車の中は、例に依り將棋です。前に書きましたが飛入りまである仕末で、仲々賑かです。

戸田先生は風邪の為、一行と別れて、歸京せられました。

東山温泉では、木村先生の御案内で、氣持の好い宿に泊れました。此の日のスターは、飯坂では大変おとなしくいらしたサ先生でした。同じ福島縣ですが藩が違ふので、いくら騒いでも叱られないのださうです。先生の高笑ひは、夜の東山にひゞいて、何時までも止みませんでした。当時我国は、未だ金の輸出

を禁止して居りましたが、先生は、熱心なるきんがいきん論を御発表になりました。

六、東山より新潟へ……第六日

今日も好天気。ずっと天候に恵まれた旅行でした。

一行は自動車に分乗して、白虎隊の墓に詣でました。それからは又鉄道省の御厄介になりました。

新潟の手前で、木村先生の御兄様が御乗りになり、一同御紹介に預りました。

評議員会がすむまで、八先生の昔馴染のソバ屋に屯してゐた一同は、鍋茶屋で、木村先生の御招待を受けました。女の都新潟に、粋を選った美妓にとり巻かれて、有頂天の連中、筆者など、とうとう小間物屋開業といふ、どうも大変な失礼をしてしまいました。

十二分の御馳走になって御暇したのは夜更けでした。腰が效かなくなって、往來の眞中にエンコしたのは、誰だったか忘れました。親類へ泊るとかとおっ

しやつて、一人どうしても別行動をとつた先生もありました。

橋の新潟！　海の新潟!!　夜の新潟!!!

七、解散……第七日

此の日整形外科学会もすんで、その晩に解散致しました。東京へ帰る者、他所へ廻る者、思ひ思ひに別れました。従つて此所で筆を置くのですが、飯坂で御世話になつた佐藤先生、仙台で御盡力下さつた上石先生、新潟で御好意を頂いた木村先生に、改めて厚く御礼申上ます。

医局が始めて出来ましてより早や満十年となりました。當外科教室も内に外に目ざましく発展してゆく事は誠に喜ばしい次第であります。これ迄研究せられた諸先輩先生方の澤山の業蹟は既に慶應医学雑誌其他の雑誌にて発表され、御存じの通りでありますが我教室に於ても本年は又十六名の新入局者を迎へて全員四十七名毎日愉快によく遊びよく學び孜々として勉強いたして居ります。殊に開局十週年紀念祝典も十一月二日に盛大に開催されるにつき紀念論文集も發刊されますから遠からず皆様の机上に置かれる事と存じます。其れ等の事は省略致しまして第四十九回以後の抄讀会、外科集談會、学會の演者及演題を左に掲げます。

第四十九回（四年九月二十七日）

一、腹腔内出血ノ診断ニ就テ　高橋君

一、鎖骨々折ノ治療ニ就テ　松橋君

一、虫様突起炎アル腸間膜膿毒症及肝臓膿瘍ノ一治験例　井上君

第五十回（十月廿四日）

一、機能不全ト疼痛　百溪君

一、日本住血虫卵ニヨル横行結腸狭窄ノ二例　横山君

一、屈曲位ニ於ケル指副木　神山君

第五十一回（十一月廿六日）

一、慢性膝関節疾患ノ病理並ニ手術　瀬尾君

一、手指新鮮創ノ植皮法（チール氏変法）　松井君

一、頭部フレグモーネ並敗血症ニ於ケル局部麻醉ニ就テ　玉置君

一、欧米視察談　町田君

第五十二回（十二月十八日）

一、腰椎蔕骨交感神経節索状切除術々式ニ就テ　弓削君

一、「デリンゴミエリー」ノ手術的療法　森君
一、虫様突起炎ノ病因トシテ蟯虫ノ役目ニ就テ　井上君
一、化膿性骨及ビ関節疾患ニ於ケル脾臓療法　君塚君

第五十三回（昭和五年一月廿四日）

一、小児ノ真性腹膜炎ニ就テ　志田君
一、膝蓋骨々折ノ療法ノ遠隔成績　土方君
一、虫様突起炎ト「マーゲンクリーゼ」　澤江君

第五十四回（二月十八日）

一、異種血液ノ輸血ニ就テ　吉岡君
一、運動競技種目ニ依ル心臓ノ大サニ就テ　神山君
一、オペラチオンス、ショック　岩原君

第五十五回（三月廿日、四月学会ノ予行演習）

一、紫外線照射ノ血液ニ及ボス影響　志田君
一、化膿性乳腺炎ノ石炭酸療法　原君
一、血漿中「フイブリノーゲン」量ト赤血球沈降速度トノ関係並ニ

外科的結核患者ニ於ケル診斷上ノ價値　（前田君　百溪君）

以上三題ハ四月大阪ニ於ケル学会ニ提出セル演題ニシテ其ノ予行トシテ演説セルモノナリ、コノ外

一、「ウエスターグレン」氏法ニ依ル本邦健康人赤血球沈降速度ノ基準特ニ血液型トノ関係ニ就テ　（前田君　寺本君）

学会ニ於テ述ベラレマシタ

第五十六回（四月廿五日）

一、膝関節ノ内側S字状切開及其成績　瀬尾君

一、存續性顔面神経麻痺及療法　土方君

一、散弾ニ依ル銃創ノ一例　原君

第二百八十回外科集談會

（五月二十二日神田学士会館ニ於テ）

一、虫様突起炎ト誤ラレタ「メツケル」氏憩室炎ノ一例　高橋君

一、粘膜下掘鑿著明ナルS字状部癌ノ一例　塚君

一、慶應病院ニ於ケル虫様突起炎ノ小統計　河内野君
一、副睾丸内腫ノ一例（標本供覧）　横山君
一、日本住血吸虫卵ニヨル横行結腸狭窄二例（標本供覧）　鎌田君
一、胃並ニ十二指腸潰瘍ノ急性穿孔例ニ就テ　町田君
一、嚢胞肝ノ一例　町田君
一、眞空標本貯存法（標本供覧）　佐藤君
一、「リポーム」ニ因ル小腸重積症ノ一治験例（標本供覧）
一、標本供覧
一、穿杖創内ノ異物　二、重複陰莖　木村君

第五十七回（六月五日）

一、瓦斯「ガングレン」ノ健康馬血清療法ニツイテ　君塚君
一、癌悪液質ニ就テ　横山君
一、手術時ニ於ケル先天性股関節脱臼ノ非観血整復術ニ対スル整復並ニ固定障害。　伊藤君
一、血球凝集反應ニ就テ　岩原君

一、「バセドウ」氏病手術前後ニ於ケル沃度療法ニ就テ　鍋島君

第五十二回整形外科集談會

（六月十二日当整形外科教室ニ於テ）

一、外傷ニヨル硬腦膜外血腫ノ一例　土方君

一、分娩時外傷トシテノ初生児四肢骨折ニ就テ　井上君

一、脊椎内皮細胞腫ノ一例　志田君

特別講演

一、結核患者ノ食餌療法綜説　大森憲太君

第二百九十回外科集談會

（六月廿七日鉄道病院ニ於テ）

一、慢性下腿潰瘍ニ續発セル癌腫　林君

一、男子ノ乳腺「フイブロアデノーム」　河内野君

一、初期脛骨内腫ノ一例　川田君

第五十八回（七月一日）

一、畸形性脛骨々端炎　蓮江君
一、輸血ニ對スル一考察　田中君
一、無固定上肢骨折療法　吉岡君
一、虫様突起炎ト植物性神経系統（リツケル氏ハ正シキカ）　百溪君

第五十九回（九月十八日）

一、人間ノ体勢ト其ノ脊椎トノ関係　堀田君
一、血液型ト植皮ニ就テ　藤原君
一、手術後腸閉塞症ニ就テ　河内野君
一、哺乳児急性敗血性股関節炎　吉野君

以上

大阪学会畫の記

素月生

いつもなら上野の櫻も綻び、飛鳥の山には気の早い人々の花見の宴が開かれやうとする四月初旬今年はどうした事か変にうすら寒い陽気で、集って来た名醫も籔も、まだ合着の人は少なかった。冬服にスプリングコートといふギゴチない姿であった。

大阪へ立つといふ前の晩に、少しお神酒が過ぎて、まだ乘ったことのない三等特急の切符と、暮れに買った帽子を行方不明にした僕は岩原君の病気で臨時出張？を命ぜられた吉野君と二人で一同より少し遅れて、夜汽車で出立した、馬鹿に凄い雨に見送られて車中の人となったが、お互に甲乙のない酒嫌い？それに恰度皮膚科の人〻と一緒だったので、食堂のビールを一本残さず飲んでしまま

つたので、流石に参つたと見えて、吉野君は一時頃から、朝八時大阪に着くまで、僕の膝に抱かれて白河夜舟ときめ込んだ、旅は道連、世は情、併し僕よりも遥かに太つた君をだいての車中は相当に情けないものであつた。

勿論可愛いいあの娘を……なら下関迄行つたつて大して苦にもならないのだが、同性は何処までも反撥するものよ。車中で樺太の三橋先生と一緒になつたこれが又滅茶に口の悪い人で、その方では如何なる江戸っ子にも未だかつて負けたことのない僕も少なからず悩まされた。

「世の中には恐ろしい口の悪い人があるものだ」とつく〴〵と先生の顔を見上げ見下ろした。併しこれは酒の上でのことで平常は、そんなでもないことを後で知つた。三人で顔も洗はず、先発隊の宿つてゐる梅田駅前の金龍館を訪ねた。朝食を済ました所へ、そして宿酔に苦しめられた吉野先生は早速床にもぐり込んだ。

大阪の朝もうすら寒く、宿屋も可なり小汚いので、佐藤、原、百溪、志田諸先生の顔も餘り冴えてはゐなかつた。間もなく町田先生も見えられて、愚にもつかない與太話を此処まで持ち寄つて賑げた。九時頃、僕と志田君が佐藤先生に

連れられて、先づ総会場へ敬意を表すべく出掛けた。

大阪は広いやうでも、東京とは比べものにならぬ、尤も大大阪なるものは東京よりも遙かに大きいのださうだが電車は東京のよりも立派で車台数もずっと多く、後から後からとやって来る。自働車の数は東京よりは遙かに少い、唯だ到る所橋がある。それが皆立派なもので、流石に水の都といふ感が深い。併し美しい女は殆んど見当らない。どの人も〳〵何だか間の伸びたやうな顔付で、それでも忙しさうに右往左往してゐる、唯大朝新聞社、大毎新聞社の素晴しく大きいのと、ビルデングには大きいのが多いのには驚いた。大阪医大病院を見学したが五階の鉄筋コンクリートで、その設備の完備してゐるのにも一寸羨ましい様な気がした。

やっと公会堂を尋ねあて〻、会員のマークやプログラムや、何やかやゴタ〳〵貰った。流石に此処には全国の名医が集まってゐると見えて、どれもこれも一癖あり相な人間ばかりだ、併し或る口さがない人が囁ってゐた。

「此処へ集まって来てゐる殆んど凡ての医者は人の病気を治す親切な医者ではなく、口ばっかり発達した喧嘩の好きなお医者様ばかりだ」相な。

午後から公会堂で佐多学長の開会の辞、それに諸外国から御出張になった。
某々博士の祝辞があった。
英語あり、独逸語あり、佛語は勿論、支那語まで、要するに一切合切分らない祝辞だった。その間に燃すマグネシウムの煙で会場は濛々たるもので、まるで靄を通して、あの世の人と話をしてゐるやうだ。会場には数千の迷医がまるで蛆のようにうごめいてゐる。
ホフマンの特別講演、東大の橋田先生の特別講演、この中で何人が理解してゐるのやら、熱心は聞いてゐる。
殊に橋田先生のは滔々三時間、恐らくこれが分った人は一人もあるまい。講演してゐる先生にもどうが分るまい。
大森内科教授の話では「あれが分ったといふ奴は余っ程のえらい奴か馬鹿な奴だ」さうで到底凡くらな我々とは脳膸の構造の違った人々が聞くものらしい。
それでも人間て馬鹿なもので立錐の余地もないまでに傾聴してゐる、たゞ中には僕等と同じやうに居眠りをしてゐるのもかなりゐたが、西野先生平井先生のお顔も見えた。偉大なる勉強家揃ひである。我々は此処を素早く失敬して、う

ららかな春の光に浴しながら公会堂の前庭でテニスをやってゐるスポーツマンの姿に見入ったり、公会堂を背景に町田先生の名写眞の中に入ったりした。

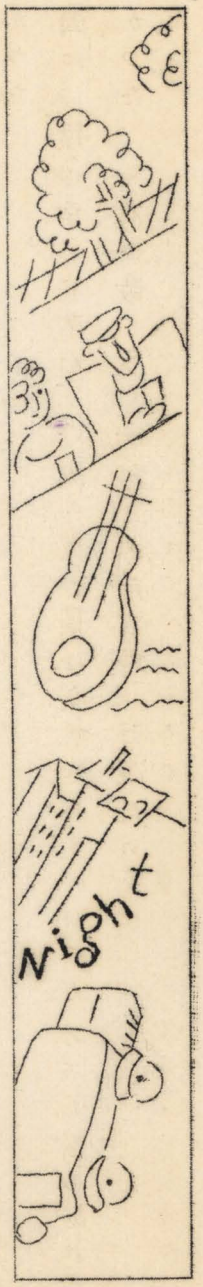
その夜茂木、西野両先生御招待の宴会に臨んだ、北新地の河田屋といふ待合の大きいやうな家で、ゆっくり、打ちくつろいで大阪の藝者の美しさに胸を轟かした。

両先生の陰し藝、前田先生の素晴しい珍藝などに驚異の眼を見張った。これは吉野君の記事に譲る。

翌日は外科学会に臨み、志田君の演説に敬意を表し、吉野君と有名？な渡邊橋畔の「かき料理」に満腹して僕は宇治へ、吉野君は京都の祇園へ向った。

翌日早く僕は大阪を立って阪神急行で神戸へ出て帰郷の途に向った。途中甲子園で中等学校選抜野球大会で大変な賑ぎやかさだった、併しこれを観る暇もなかった。

因に、僕は幸か不幸か、大阪の夜の景は全然知らず一軒のカフェーをも訪れなかった。これは最も多く活躍された吉野、百溪君の筆に……。



大阪学会夜の記

私は刀林の編輯係から本年四月大阪の学会に於ける学問以外の事を書いて呉れと頼まれましたが何分文才が無いのと約半歳前の記憶をたどって書くのですから其の辺は宜敷く御願致します。

御承知の如く大阪と言へば日本第一の生産地で総ての方面に於て材料は豊富である殊に女は煙で御日様の見える日は数へる程しかない土地でありながら色は白く其の上いやはりますさかいにと軽くやられる酒は灘の生一本と來てゐる悪かろう筈がない。

三月廿九日私は丁先生と共に夜汽車で東京出発汽車中デルマの一行と一緒になり痛飲ビールが無くなりましたとボーイに断られた。

翌早朝大阪梅田駅に到着した驛前の金龍館と云ふ旅館に落つく佐藤先生、町田先生、原先生、百溪先生、志田先生が先着されて居た三橋先生が樺太から来られて一緒になった志田寫眞班長により紀念撮影をなす午後一時頃総会場である中央公会堂に行きマークをもらって会員となる。晝間の勉強の事は高橋先生が御書きになるそうですから私は專ら夜の方を受持つ、外科学会場である朝日会館をみて宿に歸る丁度甲子園に於て全国中等学校選拔野球大会があったので腰本監督も同宿だ。今晩は北の新地河内屋に於て茂木先生及西野先生御招待の内科外科懇親会が有る早目に宿を出て会場に行く元内科に居られた池口先生が種々世話されてゐる。美型が並ぶ、宴將に酣、ダンスが初まる、大森先生前田先生盛んに足のさえを見せらる、書きおくれましたが此の席上に於て西野先生茂木先生が次回の内科及外科学会の会長となられたことが発表せられ両先生の爲に乾盃して御健康を祈った。内科と外科との対抗競技が初まる渡辺先生が居られないのが癪だ然し安心して可なり。

前田先生の鮪すくひ鼻糞藝に至っては堂に入ったもの玄人はだしである、内科を唖然たらしむ、茂木先生の声のよいところで明の鐘が初まるアンコールがあ

る高橋先生も声自慢だけあり十八番の磯節を盛んにやられる原先生の手品あり等々で酒は少しも頭に來ない盛会や推して知るべし・大阪の姉さんだちは一般に家庭的であり親しみ易い様だ、皆さん同感だらうと思ふ、敢て慾目でも無からう。散会後大阪に来てカフエーを見落しては男の恥とばかりに道頓堀に出掛ける赤や青五色のあかりが点滅する其れが河面に浮んで碎ける丁度彼女等の戀の破綻を暗示するかの如く私は道頓堀行進曲を小声で歌ひつゝ歩くともなく歩いて居る、堀辺は晝間の見にくさと異って男の心にこびる様に華美に御化粧してゐる。

先づ一行はカフエーユニオンに入る女給は美悪取混ぜて五十名位居るエロとサービスを搗きまぜて賣って居る

正面のステーヂでは薄物を着た女が恥しさと云ふ事は生れつき持たないと云ふ顔附きで跳ねたり蹴ったり踊りぬく正に世を忘れた歓楽境である見たいものは充分見せる主義らしい、中にはズロースを忘れて来たのかそれとも綻を繕らはないのではないかと思はせる様な危険なのも居た。御客は大部分商人であるさすが大阪と思った。然し学会中は医者が大部分であった様だ。ビール一本一円

とはいささか驚いた勿論レビユーの見料もビール代の中に入つて居るのだらふと思ふ兎に角カフエー気分を満喫する、次は赤玉に入る前者と略同様である女給の数も大差ない様であるが頭の格好が皆んな変つて居る丸髷あり、束髪あり、耳隠しあり、娘あり、盛りあり、年増あり、中には角隠しさえ着ければすぐ嫁にもらへる様なのも居る、独身者は一度行かれんことを切望するエロは一〇〇パーセントであるあまり詳しい事を書くのはよくないから遠慮する。次は美人座に行く最早十二時過ぎである醉歩慢策同行四人（特に名を秘す）南の新地に向ふ以後の消息は残念ながら公開をはばかる。

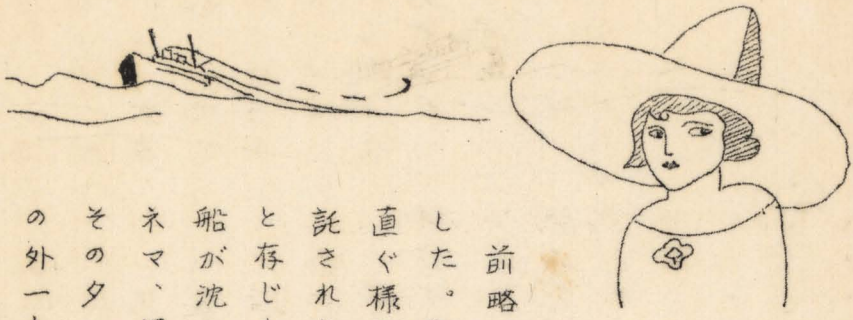
明くれば第二日目午前中無事に済み午後から私と丁先生とは京都見学に出掛ける。鴨川のせゝらぎを聞きつゝ祇園の気分を味ふのも又格別である。其の晩大阪に於ては諸先生は文楽や招待会や見物等御忙しかつた様である。

第三日目日中は無事に済む今晩は前田先生の御招待日である大阪府会議員中島氏の御案内で後をついて歩く夕食を御馳走になり浪波踊を見る誠に華やかな踊である。美妓約二十人花にたわむれる蝴蝶の如く踊る私はモダンガールが人形とダンスする處など今猶印象に残つて居る。此処を引き上げて阪神国道をドラ

イブし一路尼ヶ崎キングダンスホールに向ふ、薄暗い照明五色のテープは虹の様に飛ぶ絹のストヅキング、エナメルの靴行きつ戻りつ踊り狂ふ前田先生も其の道の大家だ約半時間の後此処を辞して歸阪し新大和屋に行く塩田先生が女に送られて出られる遠慮すべき場所でない吸込まれる様に入る此処はカフエーと料理屋を兼業して居り多くの妓生を学校式に養成して居る私十田生よ私十二田生よと云ふ料理屋では一寸聞きなれない言葉だ其れだけ新味があってよい酒が出る幾ら呑んでも頭に来ない眼の玉は座るバインはレーメンする。前田先生の健康を祝して解散する。参々伍々宿に歸る落伍者三人物足りなさそうな顔をして居るユニオン、赤玉、美人座と歩く時は午前二時女給達は各々愛の巣に歸るらしい急いで歩いて居る。さて我々の寝床は一たい何処だらう。

翌朝は三人の満足した顔を見た。

一、一〇、一九三〇　Y生



南米便り

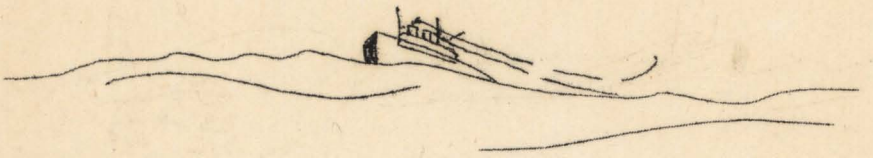
猿太郎

前略、いろ〳〵冷汗珍談を残しつゝ無事南米ブラヂルに着きました。御安心下さい。

直ぐ様御通報と存じましたが書くこともない程平凡に着、且つ囑託された移民地調査に向ひましたので定めし忘恩的行為に御怒りと存じます。

船が沈み行く夕陽を傾にうけてリオ港に入港するときは、自らキネマ、アクターを気取ってゐました。

その夕八木君を訪問夜十二時迄話しつくして後大使館（但し当直の外一人もなし）に敬意を表し自分の任地サンパウロ市に向ふべ



く船にかへりました。

八木夫人も至って元気差当り医局費三十円のお目出度の由承りました。

サンパウロ市は目下春、内地の四五月の氣候名もしらぬ黄、赤の花が蕾をもって綻びそめんとしてゐます。

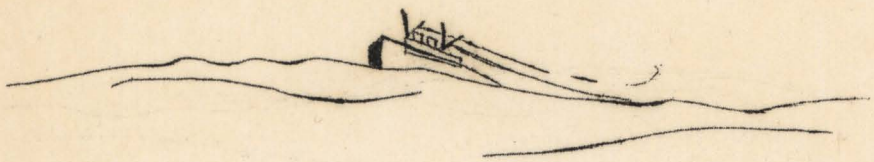
温度は夜が五十度日中が八十度乾燥期ださうですが夕立も來てから二、三度あり、至極良気候と存じます。日本で考へてゐたと来てみたと余りの差はありませんでした。只ブラヂルも医者過剰とならんとし、仲々萬端、苦しい様です。但し、外科医、婦人科医、歯科医等、腕で生きる方面は有望とされてゐます。日本人は上手だとの評がありますので、殊に歯科医は日本人萬能断然他国人を圧倒してゐます。御承知の様に当国は人種瀉見さらになく全国人の七割は日本人の様に浅黒い顔をなし、ペチャンコ鼻ですから、來てしまへば日本人かブラヂル人かわかりません。とにかく日本人がのび行くにはよい所だとの第一印象を得ました。

私達の船でも移民が二百人近くも送還される由承りましたがこれは日本の當局が悪いと思ひます。原因は皆トラホームですが余りにブラジルの医学を馬鹿にして大抵知らずに通すだらう位に考へては反って日本の医学が馬鹿にされます。トラホーム一人もなしとの移民局の発表に反して八十名もトラホーム患者が上陸に際して発見されては大抵愛想が盡きます。尤も今度の八十名は感情問題もからまり少し無理でしたが矢張り病気のないものは皆通ってゐますから充分の注意が必要と存じます。（こんなことは書くではなかつたけ）

野口博士、藤浪鑑先生、石原先生、宮崎先生、等々々日本の医者が南米によき印象をのこして下すつたことは感謝に余りあります。やかましいサントスの税関でさへも"Doctor Japonese"と云へば懐しい好意を以てポン〳〵荷物をとおしてしまふ。

何はともあれ日本の医者のどん〳〵のぶべきは南米と存じます。

（但しこれは私の第一印象でこんな意志を持ってゐるわけでない）



次ぎに道中の医者の数を挙げませう。

一、香港、日本人数三千人。原、牛島氏二名の日本官許医師あり、巨萬の富をなす由、今後医者の入る余地尚有り。

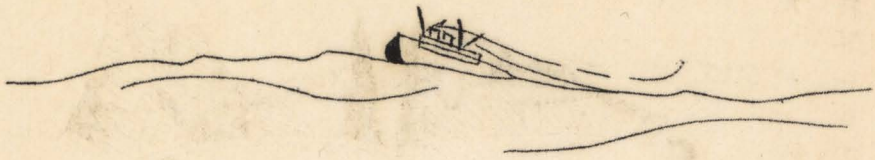
一、シンガポール、同胞三十万位、市内の医者十名近くあり、半島には十二、三名あり、金を残すに医者にかぎるとのこと、先づゴム園の嘱託医として渡るか、又は市内日本人病院にやとわれて患者を別けてもらふかして、後は腕次第とのこと、今後医者の入る余地充分にあり。

一、コロンボ、日本人のモデルこと道中第一也、日本人数約二百人日本人歯科医一人のみ、仲々に繁栄、今後日本人医師の入る余地百パーセントと承る。

一、ダーバン、ホートエリザベス、キープタウン、日本人少なく、日本人医師は尊敬さるゝも恐らく入ること不可能ならん。

何れ詳報申上げますが取敢へず右まで

九月十一日



二伸

婦長さんに、いろ〳〵御世話様でございました。残金は今月末にリオ市に行きますから、その際送金いたしますよろしくおたのみいたします。先は右まで

不一

『伯拉爾児よりの』

リオデジヤネロにて

八木勝郎

拜啓　思出多い医局を離れて早や半歳も過ぎました。在局中は特別に色々と御指導下さつた事を厚く御禮申上げます。

八月二十八日午後二時頃細江氏夫妻を「リオ」の埠頭で御迎へ致しました。非常な元気で夜十二時出航の近くまで、其後の医局の様子を伺ひ時の過ぐるを忘れました。同氏は組合の方の都合で「サントス」に上陸し「サンパウロ」まで直行することになつて居ります。

我等「リオ」に着いてより今日まで満四ヶ月と半に成ります。八月の始から「リ

オ」の医科大学と慈善病院の Santa casa と稱する病院へ見学に出かけて居ります。草間先生の招介状を持って行きました所、教授連が非常に歓待して下さって、医科大学の病理の講義を聽いてゐますが、学生と同席でなく特に教壇に椅子を運んで呉れてそこで聽講しております。聊か恐縮しております。また完全にきゝとれませんので教授が何か面白い事を言って学生を笑はす時には、一人すましてゐる事が往々あります。Santa casa と称する慈善病院の方は内科の第一講座の Oswalds de Oliveira と云ふ教授の病室に行って学生と一緒になってやって居ります。

語学修得が主眼ですから務めてこちらから話を出して行きますが、未だ充分意見を戦はすまでには行きません。当分こんな生活を続ける考です。

こんな風ですからまだこちらの珍らしい疾病の研究には手がとどきませんので医学的方面の事はこの稿ではお知らせ出来ない事をお許し願ひます。

至って血の循環の悪い方ですから、面白く書いて行く事は出来ませんが唯事実のありの儘に書いて行きます。中には耳新しくない事も出て來ると思ひますが何分にも悪しからず。

今住んでゐる下宿生活から話します。下宿をこちらでは「Pensão」と称しております。日本の安ホテルに屬する類のもので「リオ」で「ホテル」と云ひますと、主として旅客の爲に作られたもので「リオ」で仕事をする人例へば会社員とか教師とか学生とか云ふ連中は皆この「Pensão」を借りております。下宿生活と言ひますといかにも貧弱なきうくつな、ゆとりのない生活の様に内地では考へられますが、こちらでは中流の人々は殆んど此の生活してゐるものもあり、自家用自動車を持って居る者でも、此生活をやってゐます。ですから下宿屋の看板には「Familiar」(家族的)と殆んど書いてあります。

此の「Familiar」の字の起りにはこんな話もあるのです。それは「リオ」の華かなりし頃に於て此の下宿屋が盛んに悪用されて、其のいまはしい下宿屋と区別する必要上かく「Familiar」と大書し始めたのが未だに残ってゐるとの事です。しかし現今は「Pensão」は絶対にこんな風に利用されてゐませんので家族的と云ふ文字は親密に皆一家族の様に生活して行きませうと云ふ意味になって居ります。　女一人男一人の下宿を余り歓迎しておりません。私等の居る下宿屋には三十人位の客がありまして皆夫婦者か親子暮しです。

此の様な下宿屋が頗る多く私等の住んで居る附近には軒並にならんでおり、其の中に時々ホテルと書いた家があります。

斯く一般に下宿屋が利用されてゐる原因を考へて見ますと大体次の様なことになります。即ち市の中央近くは事務所と公園とで殆んど全部が占められてゐて住居を作る土地が少なく従って家を借りるのに相當の家賃を取られる事、次に召使を雇ふ事が之又相当困難で、先づ財政的から来る原因と、他方面は家をあけてぶらぶらと遊びに出かけるくせになってゐる。「ブラジル」人が家をあけるに便利な爲との事らしいのです。しからば何故郊外に住所を定めないかと申しますと一歩市を離れますと、まだ未開の土地そのまゝで、水道下水の設備はなく最も必要條件である交通機関がお話しにならない程ひどいものです。電化等は夢にも思はれず。石炭も日本なら貨物列車にしか用ひられない様なお粗末なものを用ひ、二十分も此の汽車に乗ってゐますと膝の上に砂をまいた様に石炭の粉がたまります。等級は「1a classe」と「2a classe」に別れてゐて二等は労働者に占められてゐて、一寸した用達しの人々は一等に乗らざるを得ないのです。車台の動揺はものすごく、話によりますと「リオ」から「サンパウロ」

に行く急行車の寝台車の上の方には乗手がないそうです。それは「サンパウロ」に着くまでに三四回は揺り落されるからとの事です。之は大袈裟でせうが確かに車中で新聞や本などを讀み出そうなんて気持ちは毛頭起きません。この様ですから郊外に住むには自動車位持ち度くなるのですが之も日本で考へる程安くはありません。先づ日本よりも高いと云って差支へないと思ひます。こんな具合ですから市内に住む人が多く、それにつれて「Pensão」即ち下宿屋が沢山ある訳です。

次に此の下宿屋の一日の様子を話しますと、朝七時半頃から八時半頃までに、牛乳、「パン」「コーヒ」の四品を部屋にはこんで来ます。起きるとすぐ湯殿に行って「シヤワー」を浴びます。眞冬である八月の中頃でも冷たい水を浴びる事が出来ます。時々私など冷たすぎて出来ない事もありましたが「ブラジル」人は常にやっております。之が日本の風呂の代りをなします。勿論湯を沸かす事が出来ますが之ははいる度に金を取られますが、水の方は幾度あびても「フライ」です。斯くして日本ならおみおつけにおしんこうといふ所を「パン」と牛乳、「コーヒ」で朝飯をすまして、それ〴〵働きに出かけます。

「ブラジル」人は一体に朝寝坊かと思つてゐましたら、中々そうでなく早い人は朝薄暗い五時頃起きて郊外の学校に教鞭をとりに行く人もあります。勿論中には十一時でなくては起きないと云ふ人も居りますが、奥様連は日本で云ふ寝巻姿で中食の始まるまでぶら〳〵して居る様です。中食は十一時半より十二時半までであります。中食はこちらの言葉で「Almoço」と云ひ之を訳すると朝食となります。此時には飯と他に二三おかずがつきます。更に必ず中食夕食共に「ヘヱイジョ」と称して日本の田舎汁子の砂糖抜きにしたものと「ホモゲーン」の物を出します。之に飯を加へてどろ〳〵にして喰べます。飯も炊き方は日本と全々異り「バタ」と塩でいためた様にしたもので一粒づゝポロ〳〵に離れます。副食物は主に肉で鶏肉、豚肉は珍の中に属します。更に野菜類が出ますがこれは必ず火を通したもので、聊か「ヴイターミン」欠乏を恐れます。

総て油氣たつぷりに作られてあつて日本で支那料理をたべる感知がします。我々も到着した二三日は腹一ぱいに喰べられませんでしたが近頃は頗るうまく、たまに日本人の家に遊びに行つて日本料理に出されますと何か張合のない様な氣がします。夕方は六時から七時頃まで、中食と殆んど変りがなく唯「スープ」

が一つおまけです。夕食の時には勤人も歸り三十人が一つ食堂に集って、ガーガーワーワー（今の所は未だチンプンカンプンで先づ唐人の寢言の感ありで実際こんな風に聞えます）と話し合って、こゝで「Familiar」（家族的）を大いに発揮します。食事が終ると殆んど総てが客間に集って文字通り雑談に耽けります。又小供と一緒に遊び事（「カルタ」や「ダイヤモンドゲーム」の如きもの）をする人も「ピアノ」を弾く人もあり、中には三々五々組をなして下宿の近くの海岸通りに散歩としやれ込む者もあり、又八時頃からある活動寫眞や「Theater」に出かける者もあります。やがて夜の十時になりますと、下宿屋の規則で客間を始め廊下の火は消され今迄の賑やかさは静まり、それ〴〵部屋に歸ります。斯くして十時過ぎは戸口もとざされ、下宿屋内に話声一つ聞えず、眞に静寂さに歸ります。始めの中は我々が勝手が分らないで時々何かに當って大きな音をさせると遠くまでひゞいてはっと驚いて悪事でもしたと考へる程です。斯く共同生活に慣らされてゐる事は羨ましい位です。

此の大学は「リオデジヤネイロ」総合大学の一つに属し少し前までは單科大学の形式だったそうです。年数は六年で中学校を出てすぐ入学が出来ます。「グル

ンド」の方は、あの有名な「Pão de Assaeir」と称する「ケーブルカー」式の車で上る石山の下にあり。「クリニック」の方は市内にばら〳〵にあります。例へば「Hospital Santa Casa de Misericordia」「Hospital S. Francisco de Assis」等他に二三ありまして其處にそれ〴〵教授が担当して教へて居ります。「グルンド」の学生にやらせる実習は中々贅澤なもので「アナトミア」の方でも「ライヘー」は充分行き渡つてゐて第一年から第二第三年まで引き続いて解剖実習をやつてゐます。教室も堂々たる構で各室に「シネマ」器械を備へてあります。設備は立派なものです。

「クリニック」は今通つてゐる内科の事しか知りませんからこの事に就いて書きます。

「Hospital Santa Casa de Misericordia」の第八号病室が内科の第一講座を担当してゐる「Prof. Oswalds de Oliveira」に屬し日本の医局の如き室は特別になく其の病棟の一番端に同室で一つ「テーブル」と椅子があつて教授が週に三度来られ、其他は毎日「Chefe de Clinica」と称する主任が診察して居ります。室の構造は日本の三等と同じで三十位「ベット」があつて総て「フライ」

です。

教授はその患者の「ベット」の側で必ず「御免下さい」と挨拶をします。又老母が乘車する時には、其近くの人は手をとつてあげてやります。運転手も老母の乘車して坐はるのを見届けてから発車します。

教会の前を通る時には男子は脱帽し、女子は十字を切り、電車、自動車の運転手まで運転しながら敬礼します。

割合に人なつかしく時々我々も「ブラジル」人に道を問はれる事があつて閉口することもあります。又車中に於ても何か話しかけられる事もあります。特に同じ「Pensão」(下宿屋)に住んでゐる人々は我事の如く面倒を見て呉れます。

次に一寸「ブラジル」語で面白い事がありますから二三述べて見ます。

日本語の魚「サカナ」はこちらでは此の発音と同じで教育のない下等社会の人間といふ意味になりまして喧嘩でもした時に相手を下げすんで云ふ時に「サカナ」を用ひますので、余り大きな声で「サカナ」と言へません。

次に「此處」「コヽ」と云ふ言葉がこちらでは小供の大小便を意味するので例へば我々が「こゝでは魚を何と言ひますか」と言ふ問を「ブラジル」人が聞く

と「コヽ」といふ言葉丈けはつきり解って「カンラ〳〵」と笑ひます。といふのは、こちらでは、後から出る物は言葉にしない様に務めてゐるからです。この「ブラジル」に「Coco」と称するうまい飲料水がありますが之を「こヽ」を下さいと発音したら狐にだまされたわけでもありますまいが、小供の大小便を持って来られても止むを得ません。「ブラジル」旅行者は注意された方がよいと思ひます。「Coco」は「コーコ」と発音します。

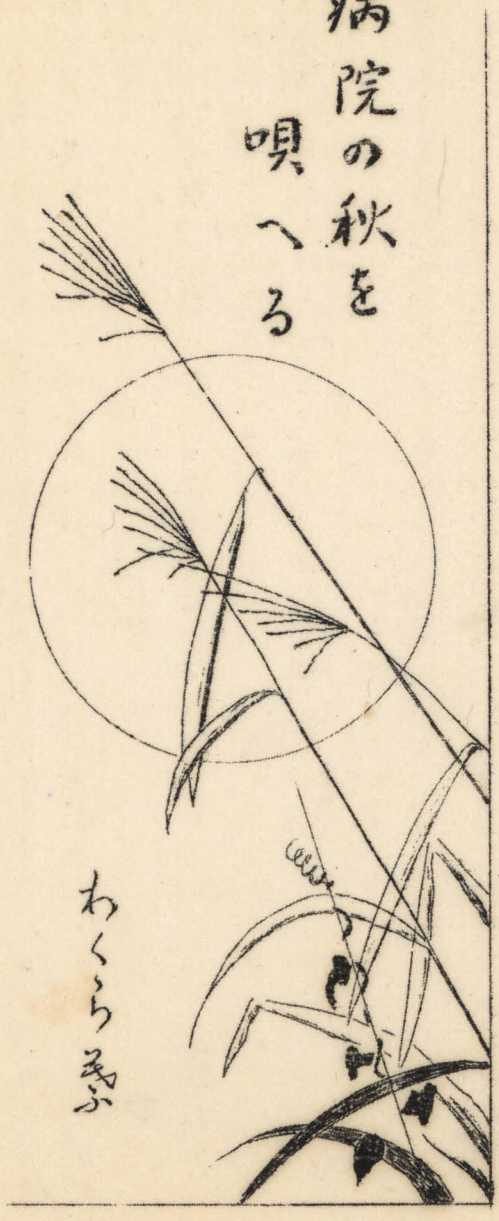
鏡「カガミ」之が「Cagar-me」の発音に殆んど類似で「Cagar」は脱糞する、「me」は「私に」で命令形で私に糞をせよと「ブラジル人」には聞えますので、余り使ひ度くありません。こちらに「中川」(Nacagara)と云ふ人がおりますが、之が「Caga」にきこえて上と同じ様な関係で間違へられ易いので「Nacacaura」と讀ましてゐる人もあります。

国語はそれ〴〵特徴を持っておりますからこんなにまで心配する必要はありませんが、郷に入っては郷に従へで「ブラジル」はやはり「ブラジル」式が通りですから、我慢して服従してゐます。

以上雑然と書いて来ましたが、未だ日が浅く、誤報に落入る事が往々あります

からこれからおい〳〵お知らせする事をご容赦下さい。
皆様の御健康を祈ります。

一九三〇年八月廿日。



フラスコの草などつめし中にたゞこほろき一つ鳴きもせでぬる

今日も又暮れてゆく日に窓ぎはの葉鶏頭ひとりあかく照り映ゆ

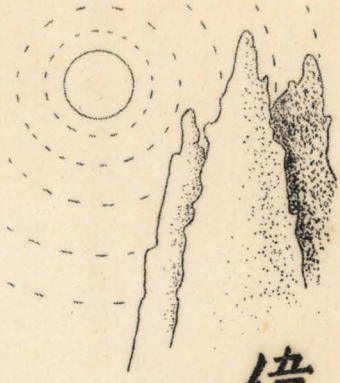
秋かほる病院の庭に青白き病み上りの人そゞろ歩きぬ

看護婦の若き笑ひに淋しくもひとりほゝえみ落葉をば見る

病みし人を慰むる気か蟲の声しばし休めよねむりつくまで

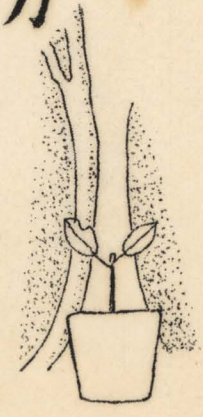
氷かく音のまに〳〵きこえくる遠きラヂオに宵はふけゆく

診て廻る秋の夜更けにうと〳〵と病みて寢れり白きベットに



偉大なる哉 自然治癒の力

八王子ニテ　四條　龍作



六月十二日午前十一時頃孤々の聲をあげた一男児があった。二時間後に私は家人の驚きと産婆からの知らせでこの小児を往診した。発育中等度の元気のよい初生児で他に何等の異常はないが只一つ手拳大の臍瘤が臍部に突出して周囲の者を驚かせた。

稀に見る大きな臍帯「ヘルニア」であった。膨脹して薄くなり透き通って居る飴色の臍帯被膜が「ヘルニア」嚢を作り内容は殆と全部に腸でウネ〳〵として一塊をなし呼吸毎に動くのさへ見へて居る。「ヘルニア」門は直径約三・五糎の圓い臍窩で腹圧の変化毎に腸管が多少出入して居る。臍帯甫余の部は嚢の頂天から四糎程残して産婆が已に結紮切断してあった嬰児が號泣すると内容は更

に腹腔内から「ヘルニア」嚢内に壓出されて腫瘤の大さは殆と二位にもなるかと思はれ今にも破裂して腸管が外界に露出しはせぬかと心配された。腸管の一部が臍帶の内面に癒着して居るので之を完全に腹腔内に還納することが困難であるばかりでなく腹壁の緊張の為に直に押し出されるので始末に困った。私は勿論之に対して其の豫後を考へ又手術中の危険を想像して根治手術をする勇気が出なかった。患家及び周囲の者に観念せしめる為めに慶應病院へ行くかさもなくば他に立会醫師を呼んで意見を求めることをすゝめた。

立合医師も確固たる信念なく只手術の危険を考へてか期待的療法に同意して「小供が大きくなってから手術をするがよからう」とボンヤリ逃げをはった。然し私は主治醫として一時還納してもやがて数日後に臍帶が乾固して自然に落ちる時の事を豫想すると何時かは腸管が腹腔外の外界に露出して收拾出来なくなるか或は腹腔内に感染して急性腹膜炎を起すか其の二途の中一つは免れ得ない運命と信じて明い心にはなれなかった。

やがて厚紙で「ペロッテ」を作り無理に還納（臍帶の癒着ある為め其の一部をも）して強く絆創膏繃帶を施し更に腹帶をした。

三日目に繃帶が小便で全く汚れたので恐る恐る絆創膏繃帶の交換をした。厚紙の「ペロッテ」も濕って柔かになった爲め壓迫の效力を失って右側から鷄卵大に膨隆して居った其の上から更に無理に壓迫して絆創膏繃帶を施した

この時已に臍帶の一部は黒褐色となり悪臭が甚だしかった。

六日目に又繃帶交換をした臍帶は殆ど溶けた樣になり腸管は肉芽創の如く変じ突出せる鷄卵大の一塊となり臍窩に固定して一見腸管たるは勿論何の組織が区別出來ない變な腫瘍狀となった。悪臭ある分泌物は屎尿と共に名狀し難い息のつまる樣な感じを與へて居た。其の間尚一名の外科医も診察したが三人共豫後の可良を信ずる者はなかった御七夜になったので父親は何でも強い名前をつけるに限ると言ふて「鉄馬」と名命した。

其の後は「カブレ」を防ぐ爲め絆創膏繃帶を止め二三日目時に四五日目に滅菌ガーゼに「ボールザルベ」をつけて（ガーゼが肉芽に固着して出血するので）其の上から腹帶だけをした其の都度不思議に腫瘤は小さくなり腹壁は次第に腫瘤の上を被って來た

七月二十二日にこの偉大な臍帶「ヘルニア」は自然治癒を営んであれ程腫瘤

状に癒着した腸管も腹腔内に納つて何等異常の腫瘤として触れなくなり全経過間に一二度腸閉塞の症状を起したが浣腸其の他で難なく去つてしまつた。

臍窩は稍「デベソ」の程度になつた。今も元気に発育して居る

三人の醫者も唖然として自然の力の偉大さに感じ合ひ話の出る毎に苦笑して居る。當時父親から自然治癒の可能性を問はれたが三人共口を揃へて否定したが「鉄の馬」には遂に勝つ事が出來なかつた。

小田原は
痛くなるよと
太郎云ひ

横浜で
あてられたのが
居つゞけし

長寿法

衛生係

不老長生は万人の望む所である。而して不老長生たらんには常に養生を守らねばならない。古来長寿養生に関する著述は少くない就中一休和尚、貝原益軒、多紀安元等の所述は人倫道義を基として衛生保健を説き頗る観るべきものがある。多紀安元は旧幕の名医である。寛政六年一橋候の命を受けて養生歌八十一首を作った。

安元は先づ攝生の八要を養気動体戒色少眠省思防邪と為し次で大意飲食閨門起居の四類に分ち翠竹院の養生歌に擬し三十一文

字に綴った。勿論昭和の現代には通用され得ない事項があるかも知れぬ。左に此の八十一首を連ねて見る。

(一) 大意

養生は其身のほどをしるにありほどをすごすはみな不養生
不養生と思ひながらも不養生なさば思はぬ人にをとらん
薬さへ仕方によれば毒となる飯と酒とを見ても知るべし
身のうちのぬしは心よ一身の安危はぬしの心にぞある
心にて怯きぞとをもふこそおほくはためにならぬものなり
若き身のぢやうぶだのみの不養生やがて老後の後悔となる
をのが身に病ありては何の身で君父に仕へ奉るべき
達者だて丈夫自慢の無理わざはつひに病の種とこそなれ
すくこともよき程にせよ耽りては身の養ひは忘れはつべし
心をばつねに静に其身をばつねに程よくうごかすぞよき
兎も角も癖になしなばくせづかんたゞよきくせをつくるにぞある
不養生はこらへ〳〵てすべからずのちには常の癖となるなり

常にたゞ義理の書物をよむか又よませてきけばよき癖ぞつく
慾情は獅子心中のむしなれや心よりこそ身をもほろぼせ
大病となりての後は如何せんたゞつねづゝに養生をせよ
少々は苦しからじの不養生つもり〳〵て後悔をすな
自由なる都人より不自由にくらす山家に長寿多きぞ
目なとめそ耳になふれそ情慾は見きゝにつけて動くものから

(二) 飯食

飯食は我身養ふ為めなるを口の為めぞと思ふはかなさ
目と口の為に食すな唯食は腹の加減を第一とせよ
よほど腹すきて食事は喰ふべしすかぬに食へば八重食となる
食事をばすき過ぎぬ間に食すべしすき過ぬればやまいとぞなる
前の食に厚味食せば其次は味ひ淡きものを食せよ
むましとも八九分喰へば足るとせよ十分ゆゑに身の害となる
一品を偏に食して害なきは飯と汁との一つなりけり
菜の類はその時々に取かゑておなじ品のみ偏に食すな

食事してすぐに寢ぬれば食もたれやがて病になるものと知れ
食後まづ額と両の頰までを自ら数度撫でおろすべし
食後には縱横数間歩むべし食気めくりて養生によし
食事せば立ちはたらきて時を移し一時ばかり過ぎて寢よかし
食物はこなれやすくてやわらかに味はひあわき品のみぞよき
厚味にて重きはもたれ硬きもの冷たる品も多く食すな
嗜けばとて同じ品のみ食すれば偏気積りて病とはなる
飽食は数日続けばたゞまりてついに大事の病とはなる
賤者はおり〳〵厚味食ふもよし貴人は常に麁食まされり
食ひたきも暫時の間こらゆべしのちに益あるほどの久しき
夏もたゞあたゝかなるを食すべし冷物のみを食はゞ霍乱
饑過ぎて食するときはその前に湯桑か味噌汁とくと呑むべし
食こなし持薬にのみて大食の人の脾胃虚は十倍と知れ
渇くとも湯水を多くのむなたゞ口にふくみて数度うかゐせよ
飽食と饑えてものくふ時ならば入湯はかたくせぬをよしとす

百藥の長なる酒もわが分に過して飲めば百毒の長
酒呑めばほろ〳〵醉を程とせよ其の盃の數は限らず
一杯の酒に忍ふ人十杯の酒に醉はぬも其人の程
さなきだに夏は喰物こなれがたし冷たるものを過食ばしすな

三　閨門

腎水は人の命の本なればおしみたもちて大切にせよ
男女こそ子孫求むるためなるをわが慰みにおもふをろかさ
二十才は四日に一度三十才は八日に一度房事あるべし
四十才は十六日め五十才は廿日六十才は房事慎しめ
持まへのよわき生れは定めある房事の數も猶へらすべし
只一度もらすも精氣へるぞかし重ねもらさば大病のもと
大寒と大暑の時に房事せば病を何か起すとぞ知れ
日と月の蝕と雷電大風雨地震の時は房事慎め
色念をこらゑて情を遂げぬには腰湯に下を暖めてよし
房事あらば胸と腹とをさすりつゝしばししてのちいねるよしとす

房事以後しばらく歩行するもよし必ず直に寢入る可らず
色念の起るまかせに房事せば陰虚火動となるぞおそろし
腎藥を呑でたのみの不養生はてはあごにて蠅を追ふべし
灸治せば前は三日に後七日きびしく房事慎んでよし
やみあがりよきに油斷し房事せばこれ労復の大病となる

(四) 起居

家にあらば程よく身をばつかふべし食気めぐりて藥にもます
行往の座臥も久しくすべからず久しきときは皆毒となる
わけもなく晝寢度々すならく寢気血をふさぎ病とはなる
大風雨雷電雲霧深きには雨戸をさして其気避くべし
閑ならば常に手足をつかふべしたゞに座しなば気血めぐらず
ひや〳〵と冷気おぼへば唯はやく衣服かさねよこらへべからず
枕元に火の気はおかぬ事ぞかし逆上の氣をたすくればなり
寢つきにはまゐねと腹とをいくたびも自身静かになでさするべし
夏はそのほどよくすゞみ暑をしのげすゞみ過せば病とぞなる

寒気より暑気に中ればすみやかにはげしき病やむものと知れ
夏の夜の更けゆく迄に涼み居ば夜気に中りて大病となる
夏の夜の夢のかり寢に寢冷せばこれ大病の基ならまし
ねむりなば風吹くところさけぬべしあふぎうちはの風もよからず
冬は先づ日の出を待って起つべし夏のあしたは朝起きぞよき
冬の朝氣寒きはねたく厭ふなりゆふべ夜中は殊に避くべし
冬寒に中れと冬は目にみえず春にいたりて大病となる
老は老若きは若きほど〳〵にその養生を心得てよし
貴と賤と身のならわせの違ひなりとりちがゆれば病とぞなる
八千代ふる椿も伐らば枯れなましのこる氷室も人の手わざぞ
年と日のめぐるが如く我業をつとむる中に養生もあり。

男児のほしい方へ

近藤宗彦

(一)男児を生む法

水百乃至三百瓦ニ重曹ニ瓦ヲ(不姙症の如く腟分泌液の酸度強き者には五瓦を)溶かしたる液にて腟洗滌を施すか又は陰茎頚腺部に二分ノ一瓦の重曹粉末を塗擦して後に然るべく云々。之は独逸人ウンターベルゲル氏の実験五十三回に悉く有效であったとか。

(二)頑固な呕吐のバンカラ療法

屋根瓦の如き瓦を灼熱して冷水中に投じ、その水を余り冷却せぬ内に飲むと呕吐治ると云ふ多分水素イオン説に基いたものでせう。

大便に閉口した話

梅村六郎

貧血を主訴とする外來患者に蟲（アンキロ）でも原因してゐるのではないか、明日便を檢査してみるから御持ちなさいと云ったら、患者はハイと承知して歸ったが翌日来ないで不審に考へてゐた。ところが中一日隔て来院したので昨日は何ぜ来なかったと尋ねたところ、先生昨日一回分では便（量）が足りないであらうと思ふて昨朝と今朝の二回分を合せて持参しましたとサモ大事そうに可成り大量の便をツボに入れた紙包を出されたのには閉口した。（終）

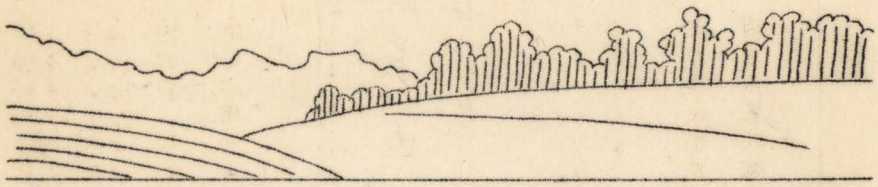
我医局の体格

平均
身長！五尺五寸四分
体重！十六貫六百匁

身長（尺）	
渡辺	5.90
酒井	5.84
百溪	5.80
富田	5.80
茂木	5.75
瀬尾	5.72
君塚	5.68
堀田	5.67
木村	5.65
森	5.65
古川	5.62
林	5.62
蓮江	5.62
寺田	5.62
志田	5.61
藤原	5.60
佐藤	5.52
町田	5.52
河野	5.52
井上	5.52
原	5.51
田村	5.50
相見	5.47
吉岡	5.46
伊藤	5.46
前田	5.45
小沢	5.45
神山	5.44
岩原	5.43
川田	5.43
横山	5.41
鍋島	5.39
吉野	5.38
辻岡	5.36
中村	5.35
布留	5.34
高橋	5.24
土方	5.22
武藤	5.21
小方	5.20
犬養	5.08

体重（貫）	
木村	23.500
富田	22.500
茂木	21.800
原	20.750
神山	19.900
瀬尾	19.200
佐藤	18.900
林	18.700
吉野	18.000
酒井	17.900
犬養	17.700
渡辺	17.380
君塚	17.300
河野	17.100
藤原	17.100
森	16.900
町田	16.800
前田	16.500
志田	16.500
堀田	16.500
横山	16.200
百溪	16.150
伊藤	16.100
蓮江	16.000
古川	15.900
田村	15.800
岩原	15.700
吉岡	15.700
鍋島	15.700
辻岡	15.500
小沢	15.400
寺田	15.100
井上	15.000
川田	14.200
土方	14.100
相見	13.900
高橋	13.600
中村	12.700
布留	12.700
小方	12.500
武藤	12.000

MENS SANA IN CORPORE SANO

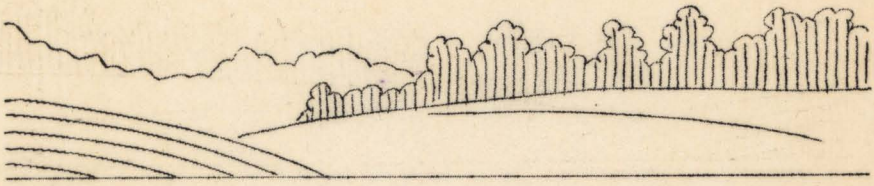


『メリケン』漫文

町田生

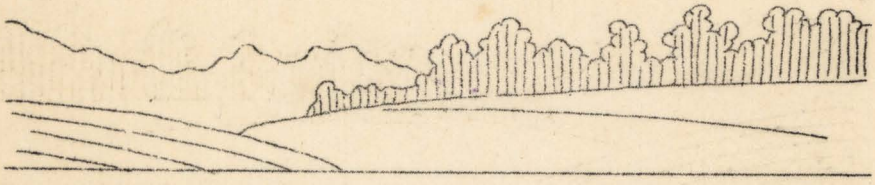
此度開局拾週年記念号発刊に際して何か書けとの幹事よりの命により何か名文をものしたいがさして文才もないので古い話だが滞米中の雑感を漫文って責をはたしたいと思ふ。

一、米国に於ける日系移民。布哇及カリフオルニアを主として在住して居る日系移民の数は約廿数万に達して居るとの事であり、彼等は排日移民法案通過後四囲の圧迫迫害にも関らず奮闘して居る、在米の移民中には排日をせられても文句のないものもあるだらうが初期の移民以来奮闘努力せる割合に社会上の地位を得てゐる人の少数なりしも排日法案通過に関して居はせぬかと思ふ。此れは日本の家族制度の美しい点もあるだらうけれども移民達が故国の父母や親族などに送金するのに窮々として自らの地位を造る余裕がなかったためだらふと思ふ、ある人の



計算に依ると日本に送金した金額が十数億円に昇ると云ふのを聞けば一驚せざるを得ない。私の耳に特に未だに残つてゐるのは在米邦人が外人を呼ぶのに「白人」「白人」と云つてゐる事である、彼等の云ふ白人なるものの吾々日本人を呼ぶのに「黄色人」と云ふのに対して白人なる語は尊称の様に私には響いてならない。何故「毛唐」と云はないだらふか、自らを卑下して居る様にとれる、実際は圧迫も迫害もあらうが在米同胞は一種のあきらめか知らぬが萎縮して居る様だ、社会上の地位も下位に居り勤めるにしても同等の学力あるものが所謂「白人」の給料に及ばない、而し医者だけは左程でもない様に見受けられた元来米国人は日本と異つて医者を尊敬する念は深い医者になるには容易になれないためもあらふけれども社会上の地位は大したものである。

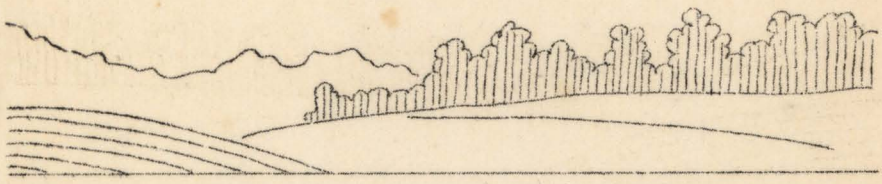
或男の話であるが何ヶ年目かに米国人の圧迫をさけて故国に帰つた所が歓迎してくれる筈の親族旧知は生活上の相異からか互



ひに相いれずして終ひに故国の圧迫よりも米国人の圧迫の方がよいと云つて再渡米する人がかなりあると云ふ。

二、自動車の事　自動車の数は年々高層建築物と共に増加して人々五人に一台の割である。それで自働車の事故も多く大学病院にはアクシデント、デパートメント、なる特別のものが出来て居る、自動車は米国では生活の必需品となつてゐる。日本では自動車の疾走中は車内は必ず点燈しなければならぬが米国では必ず消燈しなければならない。それは後の車の運轉上邪魔になると云ふ。風儀上のコトはどうでもよいからである。小学校の附近は学校の始りより終り迄自動車の通校を許されない又小学生の学校への往復には交通頻繁な所には女又は子供巡査が立つてゐて色々と面倒を見てやつてゐる。深切で中々よろしい。

三、汽車　亜米利加の汽車は国営でなく会社の経営であるためか発著の時間が不正確である早い事はないが遅刻する事は度

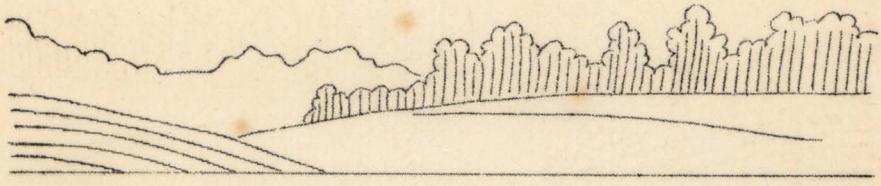


々で雪の日などは殊に甚しい。日本では見られない事である。総体米人は公德心のある国民であるが車中では禁煙を嚴守し必ず喫煙室で喫煙し、洗面所にても洗面後は必ず後の人のために洗面器を美しく夕オルで拭いておくのである。列車には各箱毎に氷水の設備があって紙製のコツプで飲む様になってゐる。至極衛生的なもので病院なども廊下に備へてある。此れは吾々の病院にも設備してもよいだらふと思ふ。

四、衛生上の事ども　米国人は自国を衛生上世界第一だと誇つてゐるだけあって水道、下水、公衆衛生、児童衛生等は完全なものである、約廿年前は非衛生的であって面白い事は結核豫防のため往來にツバをするものは拘留に所せられたそふで当時は警察署が違犯者で満員となったので今度は五十仙の罰金に改めたそうである、今では往来にツバなどする人は見うけられない。衛生的な事で日本の習慣の米人に喜ばれるのは入浴である。廿年位前迄は入浴は一般化されて居ずして入浴を知らずして一

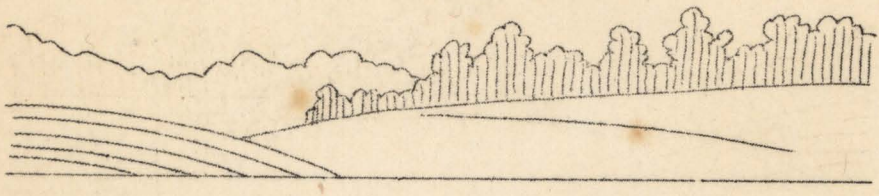
生を終った人もあったとの事である、今では各家庭には必ず具って居り貧民街にも公衆浴場がある。入浴の盛んになりしためワキガをもった人が少くなったと云ふ事である。此のワキガは欧米人は男女を問はず一種の快感をそそると云って喜ばれると云ふことだが眞凝の程は知らない。欧米人殊に米人には禿頭が多い此れは頭を毎日石鹸で洗ふためだと云ふ、頭毛のウスイ人はよろしく石鹸乱用をさけられたい一言老婆心より注意する次第である。

五、禁酒問題　米国の禁酒令が布かれて最早や数ヶ年を経過して居る、昨年の選挙迄は甘党と辛党の智慧比べであったが禁酒党の大勝の結果今後選挙には節酒とかいくらか酒呑党に都合のよい事は政策中に入れられない状態になって居る。此の禁酒令の成功は女の力が與って力があるのは勿論である。米人の酒の上の失敗は吾々日本人には想像も出来ない位烈しいもので、平素圧へつけられてゐる恨みを女房に晴らすらしい。



辛党は色々な方法で酒を手に入れ富豪は法令発生前に買占めをやって一生の中には飲みつくせない程貯藏して居るとの事である・ある上流社会では「アルファルファー」と云ふ会を作ってる此の名は熱帶植物の名であって此の木の根は水を見出す迄は何所迄も進むとのことである・兎に角禁酒令は大成功であって今後久しく続いて次の「ジエネレーション」には絶対的のものとなるだらうと思はれる。米国人は衛生問題といひ此の禁酒問題といひよいと思ふことは如何なる困難を排しても仕遂げんとする国民性を有してゐる・之れは米人の誇りでもあり又大なる強みでもある。

禁酒令は布かれても家庭で釀造するのは差つかへなくデパートメントには葡萄酒の製造を図示して必要な道具を賣ってゐる矛盾な点もある。一面に於ては密賣が盛んに行はれ密賣を一度やればかなりな財産を作るから投獄などは平気らしい。悪いニ三円のウイスキーを十五六円で賣ってゐる・悪いけれども他に



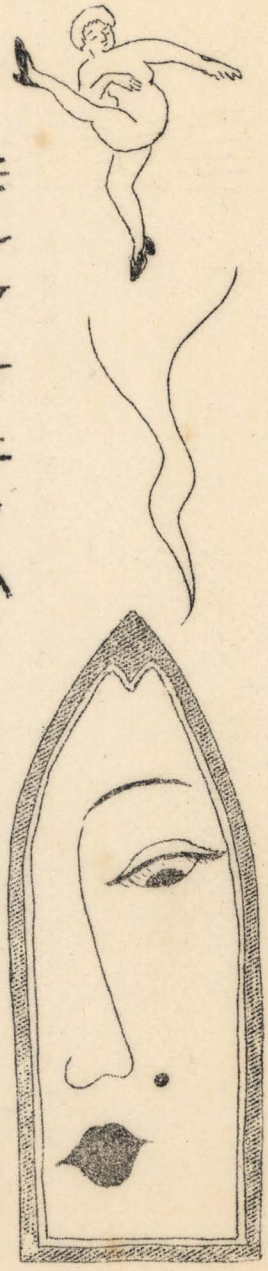
ないとなると仲々うまいものである。

六、人種問題。　排日法案が通過して日本の移民が許されないと同時に欧州よりの移民も制限されて居る、米国の当局者は此の頃国外よりの移民の浸入よりも国内の黒人の増加に頭をなやましてゐる。黒人の現在人口は総人口の約一割一千万人を占めて居る、近年白人間には産児制限が盛んになり出産率の低下来せしに反し黒人は年々増加してゐる。

恐らく百年後か弐百年後には黒人は白人よりも多くなるだらふ。黒人はあらゆる点に於て虐待され圧迫をうけて居るから早晩反旗を飜す時代も来るだらふと思はれる、彼等黒人は欧州戦争に独逸に勝ったのは吾々黒人が大いに與って力ありと云ふ程戦争の時は第一線に立たせられて戦ったとの事である。黒人の外にアメリカインヂアンなる土着の民があるが此れはアイヌと同様に歴史的のものとされ保護をうけてゐる、彼等は亢上の精神なく交通不便な片田舎を好み住んでゐる、人種は東洋人種であっ

て東洋より渡って来たものだと歴史家は云ってゐる。

七、米国へは日本の医者の訪問するのは大低欧州より廻って来られる人が多いそれで日程を急ぐためか長く滞在する人が少ない。今後留学又は視察される方は米国を先にすればゆっくり視察も出来ることだし米国の外科の味のある所も分る事だらうと思はれる。滞在中一番困るのは日本から来られた人の訪問者である。忙しい時には十分に案内も出來ないので気の毒であるが理解のない人は不親切だとか何とか云って居る此那人に限って日本へ歸ってみると話しをしかけても知らぬ振りをしてゐる。今後米国を訪ねる方は名刺にプロフェッサーなる肩書を入れないでドクターで十分である。欧州ではプロフェッサーは幅をきかすが米国の医者仲間ではピンとも來ないとのことである。



モンアサヒカハ

一九三〇年五月十八日 花見の夜

モリジ、サトウ

所謂『近代的色彩』は、東京を、南にしては到底味はれまいと考へた誰もは、モンアサヒカハの尖端的行き方を見る時、其考の余りにも浅見であつた事に想到致す可く候。

東京の文化人を魅惑する銀座の見まぐるしきばかりの尖端的色彩が山海河川を一躍して札幌に……そして直に我等の都、モンアサヒカハに反映し来るとは考ふる可く、余りに不可思議の事に御座候。

モンアサヒカハ！其所には理想的都市街、所謂整然たる、碁盤割の市街制敷かれ、四山雪を頂いて美都市をめぐり、石狩の清流街を斜に洗つて遥に南に流

れ、山系湖川百態を戯して都市人に媚ぶるげに北海のモスコー、モンアサヒカハこそは余等の天国的仙郷に御座候乎。

旭川の銀座、そは、旭川駅を眞直に、第七師團に通ずる十幾間道路にして、これがモンアサヒカハの文化的尺度、其名も『シダンドホリ』と称し日曜、半どん、祭日、休日は押すな〳〵の繁華さ、特に余趣深きは夜の『シダンドホリ』にして、木村先生を先頭とする六清会一味諸兄にはあつらひ向きの天地に御座候。即ち白晝の男性的堂々たる市街は、夕陽旭岳の山の端に沈み、薄暮漸くにして、迫る頃より、燦然たる夜の女性美的、美都市と相化す可く候

赤い灯、青い灯、円太郎、カフエーモンパリ、シヤンデリヤ、女給、カクテル、ジョツキー、キネマ、女車掌、円タク、不良、カフエアボ㊙、ラヂオ、タンゴ、ムスメノブアサヒカハ、ムナタカオビ、フエルトゾオリ、モボ、ヨミセ、バナナノタタキウリ、パラソル、カフエ横丁、キタノホマレ、赤イ酒、ワンステツプ、リキュル、ゲイシヤ、キュラソウ、ゴケ、百貨店、女店員、シヤン、ゴヂョーレン、自動式デンワ、ショウウインドウヤキウ、ソウケイセン、タダシラヂオ等々ミミ　とにかく東京を遠く离るるとも聊かの疲りもなければ不自由も更に御座なく候

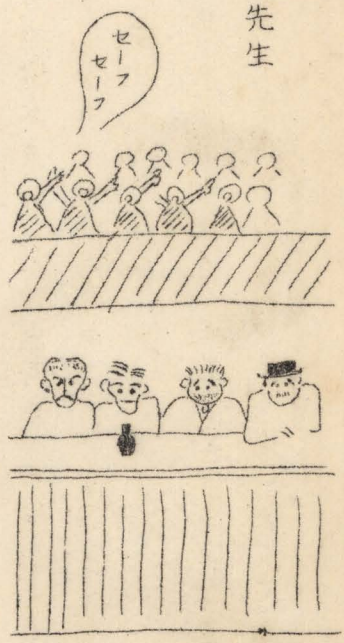
小生も赴任以来既に指折り数へなくとも一ヶ月、入院十五名、外来十五名乃至二十名、アツペの早期手術二名、時には骨折の厚引装置、其に原氏カルボール洗滌法は大成果を納め居り候

良い年をして、勤め人にてもあるまじく患者友人等にて、開業をすすむる向も有之候処、世評はとにかく考慮中に御座候。

開業致しなば、アインコンメン亦遠からず、大いに諸兄と相語りたく存じ矣も未だ憐れなサラリイマン、米びつ銭線異状ありて致し方御座なく、何が彼をそうさせたか、其内金運も開く可く御猶予下され度く候

今日も今日とて、カフェモンパリを訪問仕候、チンメルの彩光趣向とても銀座の及ぶべくもあらず、くやしくばアメリカ仕込みの医局長の御光来を切望に堪えず存候、さるにても敏子関屋の来り唄ふ故なきにあらずと存候、人生の悲惨事、若人の悲戯、失恋の悲しみ、成恋の喜び、野次馬の痛飲、アバヅレの痛煙いやはや面白き限りに御座候。彩光ほの暗き片すみにカクテールの杯をすすり乍らこれも人生の一ヒィルムの一カットを凝視致して、限りなき追憶の情にからるる事一再ならず候。　さよなら。

観戦中の
プロフェサー　神山高橋藤原先生



妾「でべそ」と云はれてくやしいわ
じゃ一しよに入りまーしよう

新年宴会余興
湯治場
環翠楼

支那漫談

Y生

私は刀林第二号に支那の通信を致しましたが又之の十週年紀念号に当時の思ひ出を書かせて載きます私は支那東海岸に於ける港を歴訪致しましたが最も思出深いのは上海であります。眞黄に濁った澎々たる楊子江の支流吳淞江にまたがる大都会大魔境舩泊の出入の頻繁なること將に東洋第一と存じます。私はほんの浅い見物ですから詳しい事は書くことが出来ませんが上陸して先づ感ずるのは世界の人種展覽会場に来た様です。

黒あり白あり黄あり白黒あり黒の中でも光るのも有り艶消もあり種々であります支那人の如きは私は青く見えます中でも白いのが一番威張ってゐる様であります。

私は市内見学の目的で散歩に出かけました先づ銭荘に行き（多く煙草屋が兼業して居ます）両替をなしあの重いドンペイをポケット一ぱいに入れて何処ともなく歩き初めました会ふ人皆んな凄い顔して居る様に見えます道の處々には「当心慢行」と書いてあります日本なら徐行と云ふ処です。又壁には「不准招貼」と書いてあります面白い事は道の中に立札あり虎口と大きく書いて其の下に、馬路如虎口當中不可走と書いてあります。こゝらが支那式と思ひます。私は北四川路に行くべく電車に乗りました、見ますと「謹防尅手」と書いてあります日本ならば掏摸に注意と云ふ所です又「切勿伸出車外」としてあります。面白い文句は限りなく有ります。車掌に怒られてドンペイ一〇やって降りました、其處には上海大戯院として次の様な広告がしてありました。

今天日夜開映　（日戯）三時五時半　夜戯九時一刻

最美備的有聲電影、電影皇后曼麗壁克馥

第一有声鉅片　美国聯美公司一九二九年偉大出品

弄性女子　（本日凡本院顧客每位得贈曼麗壁克馥親筆簽字五照相一幀）

最後に「昨日客満今明両天請各早臨」としてあります、弄性女子とは男子たら

しの女と云ふ事です・私は早速メリービックホードの活動を見てサイン入りの寫眞をもらふべく一元半拂ひ入口で「詳細劇情号印精美説明書」を受取って入りました。映画は日本の様に辯士は居ませんが支那字で一々説明せられて居ます。初め各国のニュースが映りました時日本のミカドが二重橋前に於て新年に消防隊の御親閲が有りました、其の時支那人の或者はヒューと口笛を吹き、(丁度排日の盛んな時でありました勢か)場内騒然としました。拍手も起りましたが多く外国人がやる様に見えました。私の心は一時緊張致しました。映画見物も終って出口まで来ますと扉は堅く閉されて観衆はわい〳〵云って居ります。其の中をマネージャーが飛ぶ様に歩いて居ます・私は様子がさっぱりわかりませんが日本人としては一人でありましたからしまったと云ふ考へが電光的に来ました。約三十分後に戸が開けられました・すると支那の陸兵が五六人実弾を帯につけ剣附鉄砲で出る人を一々誰何する様に見てゐます。

私は若し訊問されたらアイアムジャパニーズしか知らないのでどうしようと思ひ稍ゝ恐れを為しましたが胸の先に銃を突きつけられただけで通過し逸早く道路の反対側に行き此の業々しき警式を見て居ました暫くすると無帽のカーキ色

の服を着た青年を四人の巡警が抱へる様にして鼻の先にも額の先にも胸にもピストルを突きつけて出て来ました直ちに自動車に乗せられて運ばれました。翌日の新聞により之の青年は共産党員であり共産運動中官憲の追及急にして覿衆にまぎれ活動寫眞館に潜伏中捕へられ死刑に処せられたことが明となりました。私は其れ迄はカットしない寫眞を見る野心が有りましたが其れ以後希望は全く無くなりました。

上海の四馬路附近を夕暮散歩を致しますと第一行人の目に附くのは如何に多くの賣春婦が客を得るべく彷徨いて居るかと云ふことであります。私は或日友人と二人で此の方面の勉強に出掛けました。永安公司、新司公司と云へば東京に於ける三越松坂屋です。其の中を歩きますと年頃の娘がマークを附けて居ます彼女等は此のデパート公認のGであります。五階の小部屋を各〻借受けて店の顧客を相手として居ます。店は彼女等より借代を取立てゝ身柄を保証して居るのです。三越の五六階邊にあったらどうでしよう。

私は友人Tと共に之れも修業の一つであると思ひ或家の二階に上りました。すると丁度則天武皇の繪を見る様に頭に刀の様なものを隙間なくさした遣手婆が

来ました。手眞似口眞似で最後に金迄出して見せて漸く値段が定りました。其の頃より恐しさで胸が一ぱいであります（上海の支那人は金を持って居ると見ると殺して井戸の中へ入れるのが通則だそうですから）金を出し澁ると何をされるかわからないので一つ五十戔のカプセルも買ひました。言葉がさっぱり分りませんので朧気なる英語を以て意を通ずるのが精々であります。確か外国人の聲で Did you catch ? と云ふ声が聞へました。Did you catch your husband ? と云ふ意味と思ひます。彼女はイエスと返答するとグレイトと云ひました。私は彼女が Do you get up early tomorrow morning ? と問はれましたが何でもイエスと答へました。其の内に友人Tは見るからに青い顔をして一時も早く此の魔境を去り安全地帯に避難せんことを提議しました。私も同感で遂にカプセルも用をなさずに済みました。後から英國の士官が一ケ月前殺されて今猶不明であると聞き近よるべからざる処に行った事を後悔しました。私は或時、新的青年男女請到新世界羅蘭博士訓練空前絶後之蚤虱串戯蚤虱彩衣跳舞蚤虱施車と云ふ広告を見ました。新的青年男女とはモダンボーイ及ガールの事です。羅蘭博士の訓練せる蚤と虱の乱舞を見に来いと云ふ事です。早速新世

界に行きました。私は蚤風の外に見るべからざるものを見ました。其れはフラウ同志のファキングです、暗い處で懐中電燈をもつてゲナウにベオバハテンするのですが風俗壞乱の惧あり刀林紙上に公開をはゞかります。

我は歸途或藥種商の店頭に次の事が書いてあることに気附きました。

留意帶子

喂！可怕的悪魔「痳疾」！

亦要出現了

若要免除這種危険快々買

藥特靈葯丸

因爲這是等治痳疾菌的

唯一聖藥叮！

これはヤトレンの広告で痳病の特效藥だから買へと云ふことと思ひます。支那ではトリツペルの事を白濁と云ふ樣です白濁に関して次の樣なことが書いて有ります。

青年不愼涉足花柳

致患白濁初起羞諱不言
以致病根白深苦痛不堪
染及妻子即成毒帶為害更甚……

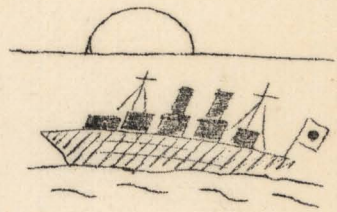
何か詩を読んで居る様です．又或医者の広告に次の様なのが有りました。

打倒梅毒

費軽効速　下疳　初病五元　重者八元
欲注射德國六〇六　毎針一〇元

打倒と云ふ言葉は何処でも使ふ様です
私は或時百十畝(カンジッポ)の豹的競演を見に行きましたが紙数に限りあり面白くもない話が長くなりますので此の辺で止めます。

二〇・九・一九三〇



星八木先生及新夫人

はわい丸

暈ったと云っては

寢てしまひ

印度洋二人

並んで

雛祭り

九月七日夜

のダンス

外科百人一首

讀人不知

空っ腹ふり返り見れば待兼しミカドの小僧カツ持ちて出づ

夕ざれば当直室をおとづれて如何にモテシと大ぼらをふく

宴終へて見しやそれともわかぬ間に雲がくれせし夜半の彼かな

夏の夜はまだ宵ながら明けぬるをさても何処に彼宿るらん

荒木町成駒かけて出かけしと家には告げな女(アマ)の釣船

オペラチオン 済みつるかたを眺むれば唯有明の姿ぞ残れる

戸田六は
いつも御早うと
挨拶し

手術場や
十人かゝって蠅を追ひ

繃帯の交換毎に
小供泣き

よび出しは
婦長の声で
醒がさめ

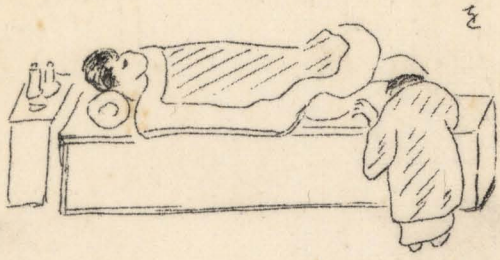
盲腸炎

ガスの出るのを

鼻で

かぎ

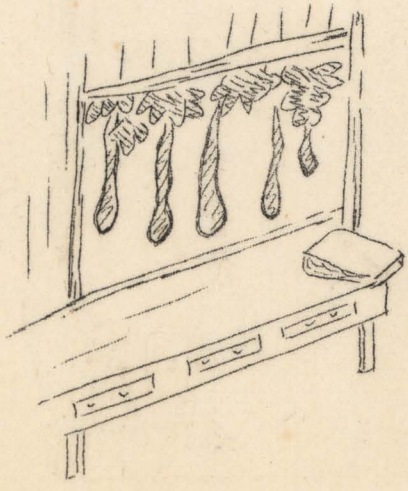
（戸田先生より）



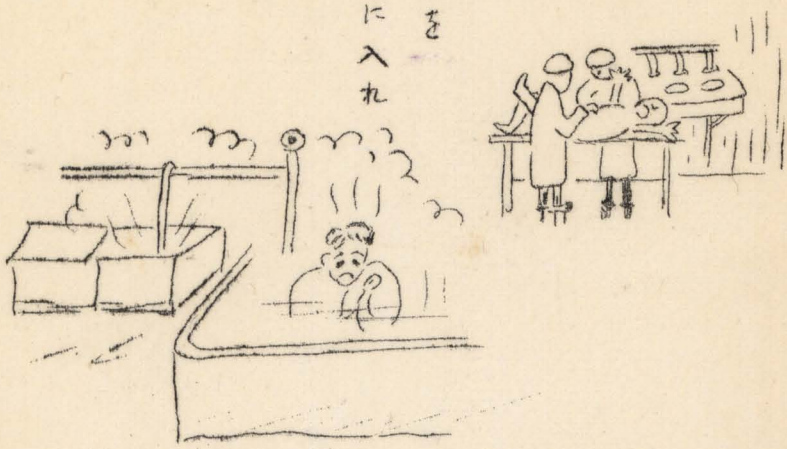
西病舎

へちまが夏の

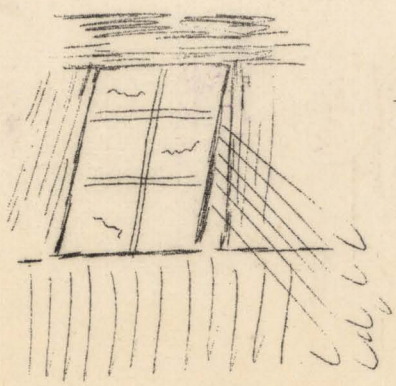
日おひかふ



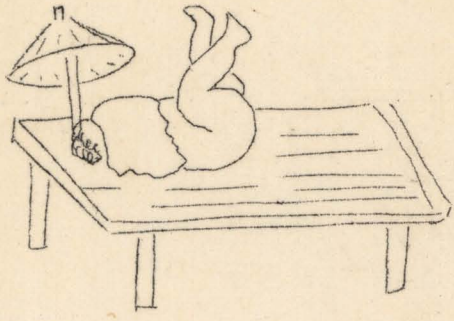
飛込は
不精者を
御湯に入れ

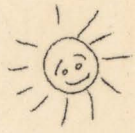


西病舎障子の
すき間や
冬の凡

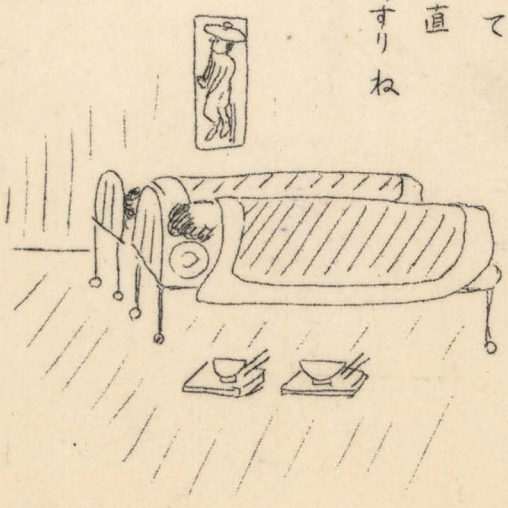


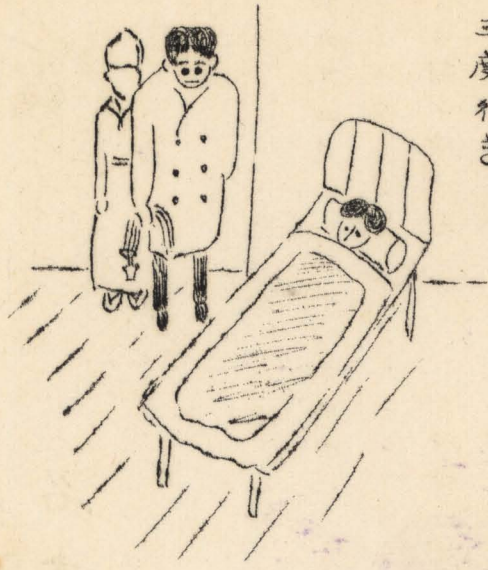
日光浴
お天と様に
シリを向け



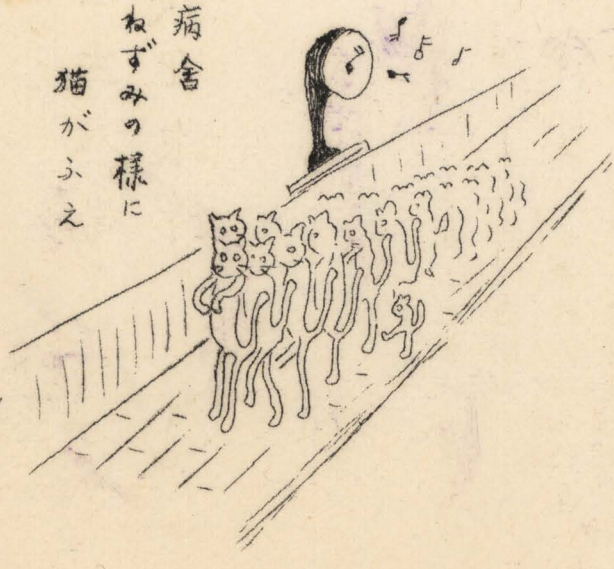


チャシューメン
食べて
當直
ぐっすりね





週診は
シャンだと云かて
三度行き

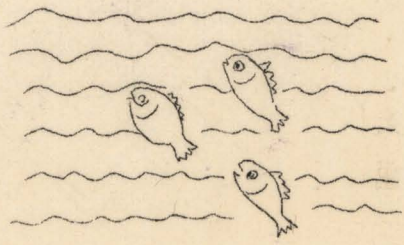


西病舎
ねずみの様に
猫がふえ

文重

第八回生入局
沼津歓迎旅行

―もゝたに生―



昭和五年四月十二日午後丸の内に一大センセーションを起した事件が持上った。各ビルヂングと言ふビルヂングの窓から紅紫とりどりの女書記タイピスト給仕女の類が顔を出して一点を凝視して居る。正しく何等か事件があるに違いない。やがて東京駅の彼方から一大事件がもち上った。今や一大轟音と共に黒色の汽車が現れたのである。この汽車こそ四十人の我等の一團が乘った汽車であったのである。

この一團には女が居なかった。男許りである。各自一升瓶を携帯に及び、内

容は酒である。四十人の男は水の如く此の酒を呑んで居る。酒は次第に男の九十六の関節の緊張度を減じ、それに反して運動力と発声力を増加せしめた。車中の混乱は次第に増加して黒白硬軟理非曲直は何等の境なく一団となつて箱根を越し駿州沼津へいみぢくも着く様な結果を齎した。

この四十人の男が何が故に選りも選つて沼津へ来たのが。最も重要なる且甚しく興味ある問題である。併し乍ら理由は最簡単であつた。十六人の春に目覚めた若人が新に我医局員となりどうにかメスで飯を食はうと言ふのである。此処に於てか古き者が富士を眺めつゝ杯を新にしてその抱負をたゝかんとするに他ならない。

沼津へ着いたのは薄靄富士を包み、箱根颪は三島の紅燈を軽くゆらめかす夕暮時であつた。一同を満載した自動車は、シヤンデリア目を眩すカフエーの沼津を過ぎ、夕化粧に百%のエロを現出せしむる色の沼津を過ぎて、颯爽たる潮風が一升瓶の酔を軽く弄ぶ千本松原を抜けて、惱み盡きぬ松仙閣の石門をくぐつた。

由来沼津は美人の町である。富士の霊容是を培ひ箱根の湯川是を洗つたので

ある。実にや水清く澄み、風軟く松の色艶に、東の箱根は乙女の乳房に似て丸く、静けき海の面は男の子を誘ふ玉の肌に似てキララカであった。

やがて恐るべき夜が沼津に訪れた。松仙閣の大広間は今や大舞踏会の真最中である。紳士と淑女は入乱れて踊ってゐる。壁と天井には櫻の生花が一面に飾られて、足柏子につれて花片は雪の如く散り酒杯に浮くのである。沼津に於ける超特級の美人は一堂に集りその矯艶正に何人の想像だも免さない。目水の如く明らかに、愛嬌溢るゝ者あり、唇朱玉の如く赤くして鶯声鈴を振るが如き者あり。豊頰雪の如く、サスらば花と変らん如き者、背すらりと延び、裾をこぼる眞紅の蹴出し心を飛ばす者あり。乳房二つ丸く列び、細腰押せば転ばん如き者。百花其の嬌を凝らし、その艶を競ふ有様であったのであります。

扨一方紳士諸君に至っても油の如き酒を含みて心良く唱ふ者、心をとかす絃声に足柏子面白く踊り出す者、或は美人を擁して口説くもの或は心荒みてか、小妓を追ふ者、或は今夜の何等かに虎視眈々たる者、其の歓其の喜、酒池肉林が顔負けし相なり。

夜次第に更けて興愈深く、酒を呑むを忘れ、踊るを忘るゝ頃、怪しや一陣の

怪風満座に吹き汎り一同の総身を顫はしたのであった。今や怪風に誘はるゝ煙の如く乱舞せる人は三々五々この宴席から姿を消して了った。怪しき極みである。

消えしものは再び姿を現し一群が沼津の「カフヱ」に現れた。由來沼津は美人の町である、富士の麗容が是を培った。「カフエ」には全く惜し気も無く美人が居る。沼津の「カフヱ」を知らずして「カフエ」を論ずる不れである。サービスに到っては到れり盡せりである。唇の吸感、指頭の接触感は全く充分に満足せられて彼等一群は完全に骨抜きとなり果して満足に歸路を辿り得たるや此の点は不明である。

他の一群は自動車に乗り込んだ。自動車は心持ち小揺ぎし乍ら東北に向って走り出した。異様な緊張が乘る者を襲った。行く先は良く解らない・暗を突いてひた走りに走る。やがてスピードが徐くなると夜の明けた様な明るい場所に自動車はピタリと止った。正に暗夜の不夜城である。

二層の金殿玉樓軒を列ね、煌々たる電燈の光の下には脂粉の香漂ひ、先づ小格

子よりこはごは伺へば是は如何に、紅紫燦爛たる打掛を着た美人がずらりと列んで居るではないか。

一同唖然として夢かと疑ふ許りである。この女護ヶ島名を三島と言ふ。古きを尋ぬれば徳川三百年の大平にその名四海に高く、當時のモダンボーイは上は將軍より下は素町人に至る迄箱根の険を高しとせず通ひ、彼の美人の「サービス」を受けたとある。良きものは滅びず一九三〇年の今日に至るも斯く殷盛を極め彼等はその尖端を休まするの幸福に浸ったのである。

登楼者の言によれば「ホータラミ、ズ」なる珍奇なる講談を聞き淫水肥りなる女を見、拝み倒して堪弁してもらった猛烈極り無き「こすって歩く浅い川」を見たと言ふ。

やがて夜は更け麓野の特有の乳白色の靄は三島を包み安らかな眠りに一夜は静けさを増した。

朝の沼津は静かである。涼しい風が寐ぼけた目を醒し朗らかな波の音が新たな力を與へた。曲折多き思ひ思ひの感情に起き出でた。一団は海の清めを受けるべく船を沖へと乗り出した。富士は昨夜の乱行を知らぬものの如く悠然と大

空に聳え、双翼に似た紫色の山肌は影を紺碧の海に寫して波を切る我船の行手に時ならぬ錦を展開した。

沖には今や逞しき漁師の勇壯なる鯛網の眞最中である。二尺余の桃色の興津鯛は漁られて発溂たる銀鱗の輝きは較ぶべくも無く美しい。併し乍ら荒くれ男に身をまかす桃色の鯛よと涙ぐむ人もあった。

岸辺に寄する波に送られて再び陸の人となった一同は休む暇も無く晝の宴の座に着いた。昨夜の路傍の人今や然らず、昨夜の雛妓既に一本に為れるものあり。一夜の変驚くの外なし。再び夕暗のせまる迫醉ひ且踊り、懐しき沼津、惱しき沼津、美人の町沼津に別離を告げて東京へと後髪引かれつゝ帰った

再び汽車がビルヂングの林立する間を走る時四月十三日の夜は更けビルの窓は暗く閉され迎ふるものは硝子を降りそゝぐ夜露の涙であった。

謝恩觀劇會

春魚生

昭和四年十二月十四日、茂木先生御夫妻の御出席を御願して、歌舞伎座に謝恩觀劇會を催した。集る者は、諸先輩、医局員数十名。藝題は、猿之助主演の「新作赤穂義士快擧錄」丁度その日が、義士打入の晩に當つて居たのも面白かつた。猿之助一流のキビ〳〵した藝に、一同歡を盡した。舞台では、熱心の余り、杉野十平次に扮した訥子が、俵星玄番の猿之助と立廻り中、かつらを落して、ハイカラ頭を出してしまふ騷があつた。中幕は「幻浦島」大喜利は歌劇「墮ちたる天女」、皆それ〴〵に面白く、先生も最後まで皆と一緒に見物して下さつた。

（裏に漫画あり）

茂木先生御招待國府津船遊び紀行

坊顕記

語に云ふ「地の利は人の和に如かず」と。茂木先生が例年全局員を擧げて一日の舟遊にお招き下さるのも、蓋しこの辺のその最大の目的を置かれて居られる事と信ずる。

時もよし、昭和五年九月七日の日曜日、恰も満月の日を卜し、國府津附近丸川の漁場に、一同恒例の御招待に預る。徳を慕ひ、風を望んで來り加る者、全医局員は勿論、藥物のSAW先生、TAK先生、寄生虫のMUR先生、それに赤羽よりも、KUW、TAM、CHIBの諸先生を加へ、午前九時東京駅發熱海行列車の人となつて、この日のスタートは切られた。

碧空の下、明快の陽光の中に、帝都を発つて、一路國府を指して疾走する列車、その先頭の大ボーギー車の、殆んど全部を占有して、談笑する我

全医局員の威容を見よ！　開局十年にして此の盛大、彼の声誉古りて愈〻
発剌たる外科、齢五十を越して益々旺んなる先生と（十年紀念統計の原稿
整理に示されたる先生の意氣に感ぜぬ医局員が一人でもあるか、あつたら
手を挙げッ！）共に吾人の誇りであらねばならぬ。

車は走る、景色は廻る。先生は白髮の頭を撫しつゝ、木村先生を相手に
盛に棋を戰はし、前田先生は、玉の如き温容に絶えず微笑を湛えて低声に
談じて居られる。

國府津驛頭に、TOD先生のいつに変らぬ童顔と、先發して万端の準備
にあたられたるKAW、MOR、両先生の、一つは三分の隙もない軽快な
る青年紳士、他は抜目なき敏腕の事務家然たる御姿を發見したのは、陽も
漸く高い十一時前であつたらうか。幹部車を先頭に、三台のバスに分乘、
將に爆音勇ましく、丸川の漁場に向けて出發せんとして咄！（危難は何時
発生するか予測を許さず、自慢のもの、ことに美しきものは時に持主に災
禍をもたらす）あごとスポーツで有名なるMOM先生、バスの窓から顔を
出したまではよかつたが、忽ちその美しい長大をほこるあごは、箱頃して

還納不能、悲鳴をあげて「おいッ！窓が小さいッ！」。

土煙をあげて東海道の松並木を走ること十分、目的地丸川の漁場に着して車をすて、砂山を上れば海だ！　蒼碧の空と紺青の海と、強風にかへる波の穂先の白浪の勢、快適の氣分に早くも子供の樣にハシヤギ出したのも無理とは云はぬ。ましてや舟の小影、小屋の後で、「ウリニーレン」した人々が多かつたけれども此の場合科料に処さうなどゝいふお巡りさんの居なかつた事は幸であつた。

見よ！　沖合遥かに点々つらなつて円形を忍がいたうき、暫時の後に彼処で動地の活劇、人と魚との命のやり取りが開始されんとして居る。隣地山本権兵衛伯の邸内の設けの席に、渋茶をすゝりながら、網元の先生の長講一席。「こゝ丸川の漁場は我相模湾内一流中でも一流の漁場で……」「ぶり網の期節には八十貫もあらふ大物が一網にザツト二万匹……。」と盛んに凄い所をきかされて、一同ついその氣になつてたとへ今は時期でなくても、百や二百の獲物は確實と有頂天になつた所へ、「いづれ詳しくは沖へ出て実施について御説明を……。」と、漁りにかけては自他ともにゆ

るした先生までがクリニックのプラクチカント程にアツサリやられたのだから、ましてそんぢよそこらの馳け出しにも足りな面々が、褌を締め直して我れ勝に乗船したのも無理はない。一同大漁と赤く染め出した手拭を景氣よく頭にかぶり、頸にまき、三艘の漁船に便乘し、晴朗にして浪高き洋上に、我こそ今日の東郷大將と飛沫にぬれつゝ、浪頭乱るゝ彼方をハツタと眈んで、鴎立ち立つ沖合に船出せるこそ勇ましけれ。

さるにても老練なる小父さんと、元氣一杯の若者とが、氣を一にし、声を揃へて手繰り上げる景気のよさ、ともすればくつがへりそうになる荒浪の最中にあつて、吾をわすれてのび上り〳〵、今し網を曳かけて突貫する魚群もあるかと、一心に水面を見つむる諸先生のその顏その顏。

緊張の極、漁師達が肢間に一切をふられ〳〵と漾はしたる光景も、つい見落したといふ注意散漫なる不心得者も少からず、或は賢しくもこの壯觀をカメラに收めて末代までの語り草にせんと、物凄い動搖の中に屁ぴり腰もおぼつかなくファインダーをのぞく仁も多く、中に天晴れ医局ずい一のカメラマンへと自称するSEW先生、十六ミリのぜんまいをヂヂ、ヂヂ

ーッと乙にひゞかせたるなど、スクリーンを見るまでは正に百%のモダン振にてもありけんかし。

さる程に〈〈、とう〈袋までも引き上げたけれど、（ハテ、素人は話せぬえ！）とれたもとれた、とび魚その他二十匹あまりの未曾の大漁、（二十匹でも一人で糸を垂れるとなれば大漁に違ひあるべからず）この費用大約三百両、飛び魚一尾が大枚十五円とは、不景氣なせの中に、イヤ豪勢なもの、流石に一流漁場の代物はチトお値段がはりますわい。

何しろ荒れがひどいので、大分黄色くなつた東郷大將も多く、船頭さんを急して、山本邸の先きの一座に直つて、握り飯に、鰹のなまり、それにおしんこエトツエトラ。腹　出來たらいざ一戦と、最寄りの小學校にバット片手に我外ナインは、こゝに小田原隨一の強チームO.Bを迎へての野球の試合は、公平無私のTAK先生のチーフで開始せられた。日頃外苑椋鳥チームに稽古をつけてやる腕前も、今日は午前中からの活動に折角の先生の御馬前もどうやら旗色面白からず、前半を押されながらに、フー〈言へば、敵は勝を一氣に制せんと新入りの強打者TOD先生をピンチに送つた

りなどした時しもあれ、小田原からの樂隊がしやなり〳〵とあらはれて「慶應の先生勝って頂戴よ」とも言はなかつたが、そこは苦労人の医局員所謂以心傳心、無声の言にはげまされ、ラストインニングも早や終りかけてからの猛撃猛打、忽ち慶應十八番の大量得点に試合は九対九のタイとなつてそのまゝ惜しくもドロンゲームとはなつた。

舞台は引移つて又も青松白砂の酒匂海岸、強風いつか收まつて沖の鷗もはや去れど、金の明月尚ほ光らず、夕潮騒のとゞろきもそゞろ愛しき宵ともなれば、優にやさしき人々は三々五々に漫歩して、好きな小唄を口にするもあり、或は持参の水着を一着なし、ひやりと触る海水を、鮮かに蹴つては泳ぎ、蒼穹に汐を吐いて心ゆくまで浩然の氣にひたるもあり。

こゝに先の小田原よりの姐さん達、三人よれば喧しい女人の本性遺憾なく発揮し、笑ひさゞめき、腰高にからげ上げたる衣より、赤裳を砂に曳きほのかに匂はすエロは大凡六〇%とも見えたり。その姐さん方まで一緒になつて今度は地曳の二條の綱に、エイヤホイヤの掛声かけて、手繰り寄せたる袋の底にこれは又何とした事、名さへ判らぬ雑魚一匹、銀色の腹を光

らしても、取り上げて見る者もなく、あはれは此処に極つた。（月明ければ雙肥えず、女混れば魚かゝらずとはものゝ本にも書いてある）

いよ〳〵松原にかへつての大宴會はじらかれた。風全く落ちて三基の大かゞりびに、炎々ともえる赤き焔は、黒松の幹立をけざやかにしてらし出し、満く光を添えた満月は斜にこの席まで深くさし入つて、美形一段のうるはしさを加へ、差しつ押へつ酒杯は巡つて、医局より持ち来たつた四斗の清酒（實は前晩折から當直のＹＯＳ先生、少しの毒見ではほんとの毒の強さは判らぬと一升何ぼを吟味して、人畜に絶対無害なることの証明を与へたと云ふ）も忽ちのみほし、更にそこばくの清酒、ビールを追加した程如何に愉快に、上機嫌でのみつゞけたか御諒察あつて然る可し。かゞりに映えた諸先生の顔が、いよ〳〵赤味を増して來るにつれ、座は漸く乱れて手拍子、民謡、小唄、足ぶみに、藝妓の踊もつゞとんで、唯ひゞく陸の王者の大歓呼、近所の子守や鼻たらしが十重二十重とまはりを取り囲んで、物珍らしげに見守つたのも無理ならず。木村先生が最先に音頭をとられ應援歌をどなつたのもこの頃、茂木先生がばあさんを引きよせて赭顔をくず

して手拍子打たれたのも正にこの頃。さあこうなると何で黙って居られよう、HAY大覚院殿、KAW圖書頭、K-M研究所長の三先生、盗人冠りよろしくあって、他の面々の歌に合せて得意の舞踊「十五夜の晩」に宴會は遂にクライマックスに達し、茂木先生までかゞりを廻って、引く手差す手もあざやかに、女まぜての佐渡おけさ。月下かゞりをたいての乱舞乱唱、萬掬の涼、満々の野趣。

一人減り、二人立ち、お手々つないで何処行った。空には月が笑って居る、前には浪が光って居る、續く松原は銀の砂。漸く冷える初秋の夜氣に風流男が露にぬれ、今宵の手筈を定めるには、恰格の時節で御座る。

ましてや先生から明日の総回診は午後一時とするとの特別の御沙汰も有った程、此処の根元や彼処のくぼ地で、飛んだランデブーの鉢合せ、どうせ旅なら恥かき捨てろと、（つひだまされた恋心）打ち込んだ口説の始終を、隣の組にきかれたうかつ者などもあって、落ちつく先は小田原、箱根。

七時何分かの列車で先生始め大幹部級が御立ちの後は、思ひ〳〵に巣を求めたとか、勿論事は秘中の秘、どんな調子でどう運んだか、皆目様子も

知れないけれど、文責記者にありとしてその一端を御披露すれば……

先づ老練のMAC（MAC、BURNEYに似て非なり）先生は近來とみに薄くなり、先日もさる席上にて引退を薦められたる仁なれど、頭禿げても何とやら、但しこれはお静かにOBチームのHAS先生と小田原第一の料亭清風楼に於て酒杯を重ねられただけといふ。第一回の資料調査では、「七時の列車で幹部と共に帰京した」と仰せられ、第二回目には「十時何分とかの終列車でかへつた」とも云はれましたから、今一ト押し押して見たら、どんな種がこぼれ出る事やら。

次に近來まず〳〵円熟の境に入られたYOK、KAW、HAY、MORの諸先生と、軍服御持参の中尉TAN先生、それにNAK先生を一枚加へた一團は同じく小田原花菱に、感激の余威をかゞやかし、この中一部は即夜帰京したとも云ふが、又一両名のものは遂にあくる日まで小田原辺に英氣を養つたともいふ。

最も盛な三人は、円轉滑脱神出鬼没、早くも某所に一ト風呂あびてから

長駆して箱根一ノ湯に遊び翌日正午すぎ帰局されました、赤して烏の湯あみと云ひ、一番喝采を博した一團でした。

次に小田原梅松には漸く場狎れて、油の乗ったYOS、NAK、MOM、INの四先生、この中にはすでに花菱にて一杯かたむけんとして門前拂を喰ひたる者も混じ、而もある者は一と先づ國府津の駅のプラットホームに現はれながら、感激ついに押へ切れず、又小田原まで逆戻りしたといふ全く以て今をさかりの花形ぞろひ、然も中には「いや戸田先生の所に泊つたよ」と白を切った方もあったとか。

ずっと飛んで東京は銀座、赤玉のカフエーに現れたのが、新進OZ、TAM、TOMと西洋のやんちゃ坊頭の様なお名前の先生方、この組は後をどう過したか、遂に史料が手に入らない。

獨立自尊で行ったのにTER、先生が居る・彼は渋谷の某所で何とかすごした。此の先生書間は小學校で我チーム唯一のホームランを飛ばした方それだけ言って後は讀者の御推量におまかせする。

× × × ×

かくして一日乃至二日に亘る茂木先生御招待も、極めて愉快に、グラットに終ることが出來た。筆者は今更めて先生に萬腔の感謝と尊敬とを捧げ、尚ほ一方ならぬ御世話を頂いた小田原のTOD先生、又医局KAW、MORその他の諸先生に感謝の意を表するものである。（一九三〇―一〇―五）

スポーツの外科

もゝたに生

外科の先生は由來スポーツがお上手である。手術台の患者の足持ちをするにも相當の力が要る。やれ救護と言へば外苑に馳けつけるのを初めとし、習志野の軍事教育、さては夏の富士、菜山の救護に至っては、正に生優しい事ではない。從って皆そろってスポーツマンである。此處には目星しい對外試合の概要を記す。

十一月　三四會運動會医局対抗リレー神宮外苑トラック

出場メンバー十名、一人百三十米、皆良く奮戰したが土方君

過ちて轉び土がついて内科が一着となり惜しくも三着となつた。茂木先生親しく應援さる。

十一月　神宮外苑チーム対抗野球戦

第一回第二回戦共外科優勝す、藤原先生（當時玉置先生）ホームランを打つ。

十二月　医局にラグビーチーム編成せられ、一同森先生の肝煎で七円五十戔（原價十円）の蹴球靴を買ひ西病舎の裏庭でポカンポカン蹴る。球時々賄ひの窓に飛び込み杓子で追かけられる。寒い日はキャプテンとマネージャーの二人が練習す。

昭和五年一月　元日のお雑煮を食つた勢で赤倉へ行く。瀬尾先生は金が無いので二月にお延し。弓削先生中村先生百渓先生等すばらしいお姿で出かける。弓削先生スキーは始めてとてあの大きな体で大変な穴を道々お開けになるのを他の人が面白がるので大不平。但し宿料はガツチリお値切りになつた上、一日つけ落しがあつたのを知らぬ顔で御下山。

二月三月　專ら夜間練習

四月　庭でボチ〳〵球投げを始める。

六月二日　対外苑チーム野球戰、第一回、十一對九惜敗、場所外苑競技場。新人が這って大分強くなつた筈だに、叔は上つたな。

野	中	田	溪
吉	田	堀	百
溪	島	中	田
百	鍋	田	富
P	C	IB	IIB
IIIB	S.S.	LF	CF
RF			

方置　島田田富

土玉　鍋富

ホームラン　三塁打

六月三日　外苑チーム第二回戰　七對六復仇

場所競技場

六月十四日　午後青山外科對抗競技會（當番本医局）

◎第一競技野球　場所濟世會球場　九A対二で負け。

P　吉野、河内野
C　寺田、
IB　森文
IIB　林
IIIB　田中、吉野
SS　布留、田中、河内野
LF　井上、富田
CF　百渓
RF　桑野、田村

ホームラン　百渓

◎第二競技庭球　三者連勝後二者接待試合を為す
場所予防学コート

◎1)　田野
　　町桑

◎2)　野文
　　吉森

◎3)　中
　　田林

×4)　田
　　堀河内野

×5)　山
　　横山本

◎第三競技競走千二百米リレー優勝　差百二十米
タイム二分四十五七　場所外苑競技場　一人百米

1)　相見
2)　玉置
3)　布留
4)　古川
5)　河内野
6)　田中
7)　田村
8)　岩原
9)　吉岡
10)　寺田
11)　井上
12)　百渓

◎第四競技水泳　三百米リレー優勝　差二十米　タイム三分五十秒四　場所神宮未完成プール　一人二十五米

1	村田	山神	岡吉
2	上井	溪百	野吉
3	村中	原前田教授	川岩
4	塚古	村君	田
5	6	7	8
9	10	11	12

是にて茂木、青山両教授盃は我軍の頭上に飾られる事となつた。第五競技は猶是を行ふ

◎第五競技　九対六優勝

◎1	田	才	部
◎2	野	留	
◎3	富	小	桑
◎4	吉	布	森
×5	田	中	林
◎6	中	村	藤
◎7	伊	河内	野
◎8	河	町	田
×9	町	堀	田
×10	堀	木村教授	田
×11	木村教授	前田教授	田
◎12	前田教授		
◎13			
×14			
×15			

競技後新宿宝亭にて軽く晩餐をとり、餘興競演會を為す。青山軍顔色なし。

七月十日

外苑プール開き。外科の先生救護方々盛に泳ぐ。跳込も手に入つたもの。誰だ女の水着姿を見に行くんぢやねえかと邪

推するのは。

八月十六日　対神宮チーム野球戦　優勝盃西瓜
　　十対八にて勝ち。

九月七日　対小田原OB野球戦　五対五
　　小田原軍戸田四郎平博士手と口とで奮戦す。

九月二十三日　内科対抗七十五米メドレーリレー
　　神宮プール
　　第一回　外科一着　タイム五十五秒六　差六米
　　第二回　仝　タイム五十四秒七　差十米
　　背泳古川　胸泳百渓　自由型瀬尾
　　百渓のスパートもの凄く、断然引離す。問題に非ず。

千両万両でまげな意地も
キッスされては弱くなる
カフェーMiNATOの紫煙の中で
男百の定の郎……

富士救護班
與太座談會

幹事「今晩は一つ富士救護班の漫談を御願ひ致します。まあお茶でものんでゆつくり御話を願ひませう。一つ出かけた順序に御ひ致しませう。先づ小方君どうぞ。」

小方「俺は先發を羊つて出かけたが、荷物は多いし樣子はよく譯らないしつくづく先馳者の惱みを味つたよ。」

田中「うそつけ」

小方「まあ待てよ。しかし新宿まで皆に送られて殊に念の入つたビール、コツプさてはタオルまで寄贈に与つたのには感泣したよ。お蔭で乘り越して仕舞つたつけ。」

田中「あれは元がかゝって居ねえものなあトミ。」
富田「餘り大きな声をするなよ」
幹事「その辺はまあその位でいゝでせう、餘り詳しく羨ると差支へがある様で
すからハハ、、、、」
小方「吉田へ行ってからは大して面白い事もないよ、、、、、」
幹事「女馬子はどうでした」
小方「いゝですな情趣があるね」
田中「はてな」
小方「まあいゝよ、それから話は違ふが医局から送られた救護班数へ歌、殊に
……恋し三島の燈が見える云々……は大変嬉しかったぞ、まだ覚えて
ゐる、」
布留「それはそうだらう印象が深いだらうさへへ」
小方「馬鹿」
幹事「志田先生は如何でした」
志田「僕の時はそうですねーまあ動物登山競争位のものでした」

幹事「紫外線の方は如何でした。」
志田「あれも一通りやつて見ましたが、未だ発表に至りません。」
幹事「新聞では大したものでしたね……因に志田學士は語る……と云ふた様な具合でね。」
志田「いやどうも。」
幹事「次は田中君でしたね。」
田中「俺はそうだな、大した事はねエな。」
小方「そうは云はさんぞ。医局へ來た礼状に曰くさ、文文字で〝先生の御親切は身にしみて忘れません〟はどうだ。」
田中（右の腕をたゝいて）「これだよ。」
一同「ダー。」
田中「俺の行つてる時便秘のクランケが有つてな、所がミツテルがないんだ、仕方がねえから志田先生と相談して豚に付いて來た獣医君から豚用のカルヽス泉塩を貰ふ事にしたが、そんなのあるか。」
幹事「トン智と云ふのはそれから出たんですね。」

一同「ハハハハ。」
田中「五合目から八合目までのレコードは二時間フラットさ、どうだい。」
幹事「志田先生の日記で見ると大部時間に誤差がある様ですな。」
田中「おや〳〵。」
一同「ハハ、、、。」
伊藤「僕は田中君と引継ぎましたが、そうですね、そう〳〵和光に泊つた女客が腓腸筋の痙攣でね、僕は見兼ねてマツサージをしてやつたがね。」
一同「ヒヤー。」
伊藤「僕は迷惑だつたが救護班の責任上やりました」
堀田「僕のお株を奪りましたね」
伊藤「申し遅れましたが出發の時はお見送り下すつて有難うございました」
幹事「それはどうも連中が強いて君に見送られる様たのんだのでせう。チヤンスを得るために」
一同「そんな事はありませんよ」
伊藤「それから僕の居る間はよく雨が降りましたね、僕の様なおとなしい者の

時に山が荒れるなんて変ですよ」

富田「俺も考へて見たが、どうしても之は山荒れにも一定の潜伏期間があるらしいよ、小方田中なんかの影響が不幸君の時に現はれたものと見るんだね」

田中「そんなのあるか」

布留「僕は次に行つたが全くつまらなかつたなあ、ダンサーはゐないし、食物は不味いし。まあおきんちやんと差向ひで將棋を指した位のものだな」

一同「あれ〳〵」

幹事「布留君と山嶽とはどう見ても合性には見えませんなア、御苦労でした、武藤君は如何でした」

武藤「僕も面白い事は有りませんでしたね、自分が高山病になつた位のものです」

一同「それは振つてるハハハハ」

幹事「次は堀田君ですね、如何でした」

堀田「そうですね、僕も別にお話する様な事も有りませんね」

富「いや僕が一寸説明しませう僕が堀田君の次に吉田に着いた朝假寝を僕は堀

田君の大声に破られたんですがね、外を見ると一台の自動車が止ってゐてその上に一人の美人が乗ってるんだ、後でわかったが、それがおみつちゃんだった、僕は堀田君の腕に敬服したね」

堀田「いや君こそ彼女と一所に登山したぢやないか」

幹事「いや爭ってはいけませんな」

堀田「僕の行ってる時和光の昔の娘おきんちゃんと云ふ人が來ましてね、先輩の逸話を祭りましたがね」

幹事「之も詳しくは差支へが有りますから、次は富田君」

富田「僕は時期は遅いし、寒くはなるし、毎日山中を松茸とりに駆け廻った外は寢てばかりゐた」

小方「寫真はどうした」

富田「あれはなぐさみに撮ったまでだよ」

相見「僕の時も尚寂しくて、そうですね、おきんちゃんがパナリチュームになったのを「ベハンデル」した位のものです」

幹事「隨分親切にしてやったでせうね」

一同「残念したなあ、俺達も時期さへよけりや栞を送つて貰へたものを。」
寺田「僕はね殿りとして登山したお蔭で荷物はあるし、小方君と共に一番苦労した一人だよ、おまけに山にはマージヤンは無し、カフエーはなし、おきん氏のナツハベルンデルングだけさ、尤もお蔭で栞は貰ふたがね。」
一同「へ――。」
幹事「大部時間も長くなりましたからこの辺で散會としませうか、どうも御苦労様でした。」

冨士救護節（ヨサホイ節）

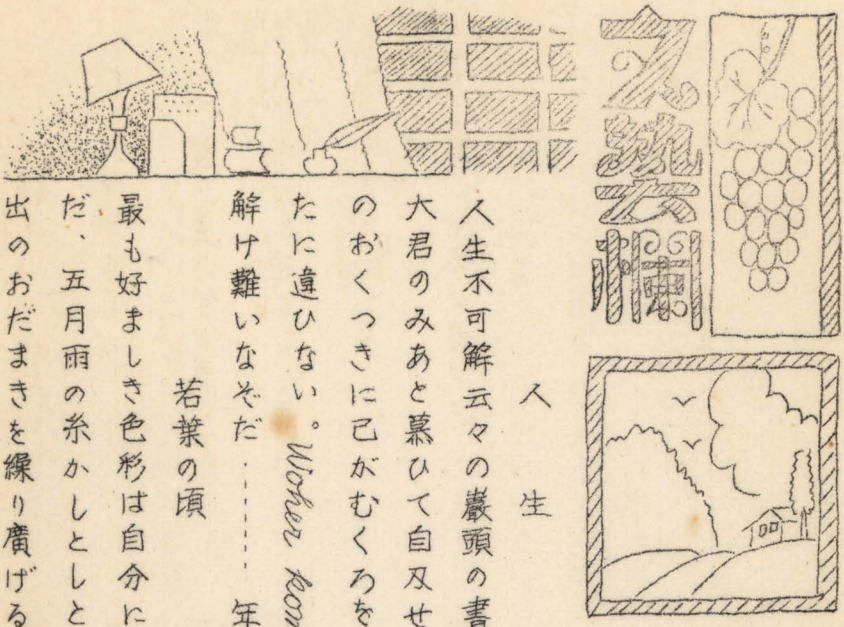
一、人に知られし慶應の　獨立自尊の救護班
二、日本一の冨士の山　外科の先生腕揃ひ
三、三浦半島見下して　下界の便り雲に聞く
四、夜中の登山も何のその　美男揃ひの救護あり

五、御殿場口に吉田口　　續く数多の登山隊
六、六根清浄唱へても　　恋し三島の燈が見える
七、夏の盛りも此處は冬　　圍爐圍んで夜は夜は更ける
八、やつと登つた八合目　　雲をつらぬく御来光
九、苦労の数々多けれど　　善男善女のそが為に
十、尊い任務を果す迄　　勝子からへて獨りねむ

△

萩桔梗咲きてはあれど若人の
心は寂し　三島を思へば

八・二〇　　生



雜俎若葉の頃

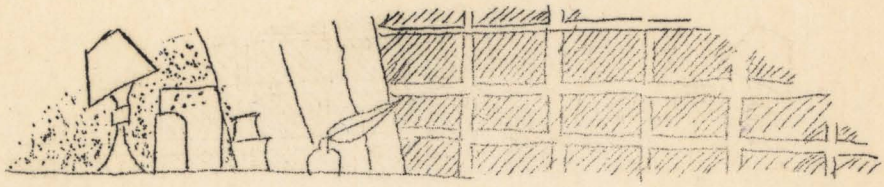
石筍峰

人生

人生不可解云々の巖頭の書を遺して華嚴の藻屑となつた彼藤村にも、大君のみあと慕ひて自刄せし蓋世の英傑大將乃木にも、亡き師抱月のおくつきに己がむくろを托せし窈艶須磨子にも人生の問へはあつたに違ひない。Woher Kommen?, Was tun?, Wohin gehen? 解け難いなぞだ……年々歳々花同じけれども人同じからず……

若葉の頃

最も好ましき色彩は自分には緣だ、黄色のかつた若葉の頃は尚更らだ、五月雨の糸かしとしと若葉にそゝいでるのを見ながら昔の思ひ出のおだまきを繰り廣げるとうつとりとして夢現の樣な氣持にもな



り得る。

春雨に濡れて色ます柳かな。

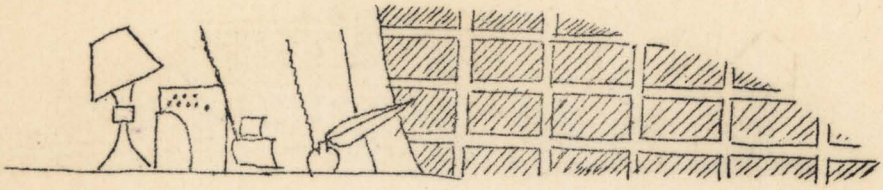
い弱病煩のプロメメードから春雨に煙る御苑や外苑の若葉いとも艶になやましい眺めでは有る。

思い出し追憶

自分には追憶と言ふものが好ましいものの一つだ、「思ひ出し笑ひは罪が深い」と俗には言つてる。追憶は決して他人を煩はさない、それが笑ましいものでも涙ぐましいものでも歳月が流れるにつれて込み上げて來る様な嬉や悲しみが新らしく湧いて来る其の時の氣分か此の上もなく自分にはいゝのだ。故意に形づくつた事程不自然なものはない、潺々として流れてる谷川の様に石を避け叢のすそを洗つてまどらかな想い出を多く持ち度い時に激して飛沫奔る瀑布か有れば更に曲折があつて興が深い。

自　惚

自惚のない人はよもあるまい自惚か有ればこそ人生は花やかなのだ、



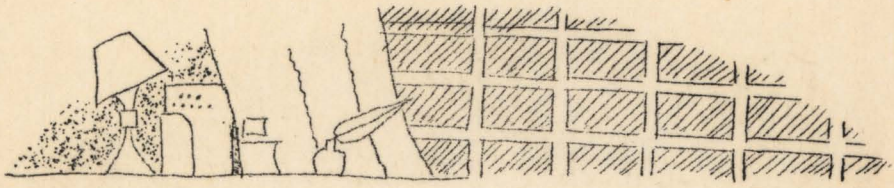
美しく見へるのだ、自慰の無くなつた人は自殺も出來るのだ、水自慰も過ぎたるは尚及ばざるが如しの諺に漏れず破滅か來る自殺か來る、心すべき事にこそ。

自然と文明

自然と文明は何時も反比例するものだと自分は思つてる文明の尺度は自然の破壞にある……歐洲の文明と言ふもみんな自然を破壞した程度が大きい丈だ、文明人と自称するものと所謂文明を知らない人との間に人としての價値の相異がどれ丈有るか、文明人と言ふものは人間の自然性をより少く持つ樣に見せかけるもので有るらしいそこに多くの虚偽が生れるのも當然な事だ、世の中は段々と純な所がなくなつて七色を回転板で見る樣な灰色になつてしまつてる、七色から三原色と自然に歸れたらどんなにはつきりとして美しい事であらう。

銀座

若葉の頃の銀座の漫ろ歩きも亦好ましいものの二つだ、自分は街路



樹としてはプラタナスよりも銀杏樹の方が一つ一つの葉の形から言ても秋の色づき方から言っても好きだが、鈴懸の芽ぐみか一雨一雨に目に見えて行くのも楽しく若い人々の色彩のはつきりした漫ろ語を漏れ聞くのもそこここと飲み食ひ歩くもよく、窓越しに欲しきものの足定め、何れも已独りの心にまかせて悪からず、やがてうるさき電車線路の取り去られて、花壇の設けらるゝ日の早からんことを冀ふのみ。

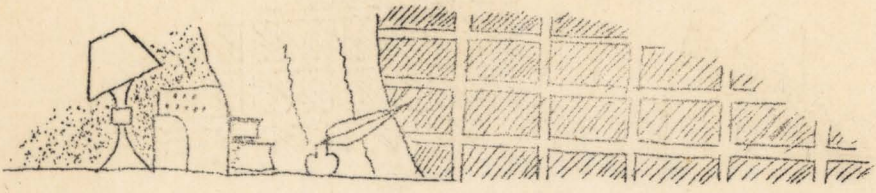
――春雨煙る四・五・一九・――

精心から肉体へ

素　月　生

人間として思出ほど楽しいものはあるまい、それが悲しかつたり、苦しかつたりする程強くもあり、深味も増して來るものである。心理學者もこの点を肯定して

「過去のいたましい経験は將來に愉快な思出となるものである。そ



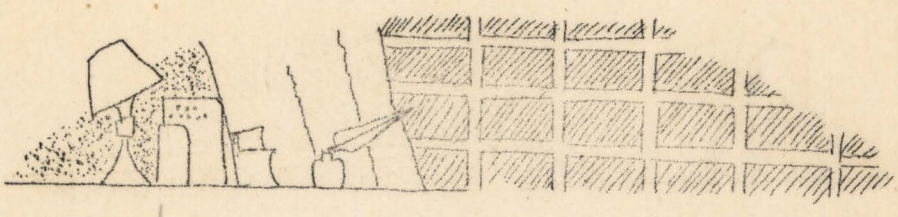
・してその經驗の度が強ければ強いほど、思出も強いものである」と言つてゐる。

夢のやうな思出、子供の時の未來への憧憬、それはまるで雲をつかむやうな、空想と理想のこんがらがつた、併し非常に華かなものである、男の子で我々の年輩のものは、當時戰爭の影響もあつたであらうが、殆んど凡てが三軍を叱咤する陸軍大將を未來に想像したものであらう。

「坊は大きくなつて何になるの？」この言葉は幾千年來、又幾万年後も等しく大人たるもの、口から吐かれるに違ひない。それは恰度年頃の男と女が

「僕は貴女を愛してゐます」「あたしは貴方が好きよ」と囁く言葉と同じやうに。

その時「僕は陸軍大將になるんだい」と意氣昂然と肩をそびやかしたに違ひない、然るに年齢の加はると共に凡ての子供の時代の望みを望みを小さくしてゆく、それは社會といふもの、又自分の社會に



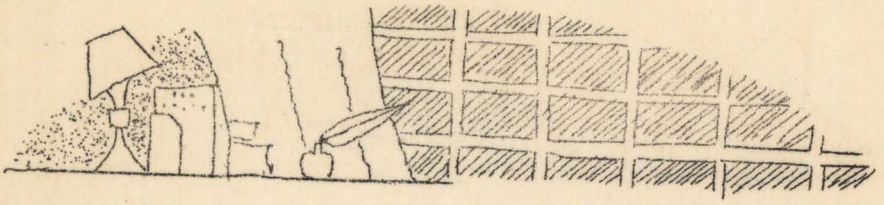
於ける位置といふものが、分つて來るからかも分らない、又自分の才能の價値が分つて來るからかも分らぬ。兎に角豊臣秀吉の華かさよりも德川家康の質実が目について來る。

それは非常に淋しいものである。併しどうする事も出來ない、それが社會の成行きだ、自分の當然守るべき道だと觀念するより外にない。

「國乱れて忠臣表はれ、家破れて孝子出づ」と言つてゐる。併し乱れなくつても忠臣が表はれ、破れなくつても孝子が出てもいゝ筈だ、また事実出てゐるに違ひない、然るにそれが割合に認められない、少くとも國が乱れ、家が破れた時代程には。

「何故だらう？」それは華やかさがないからだ、刺戟が少いからだ。吾人は比較的少年期の事をよく覚えてゐる。

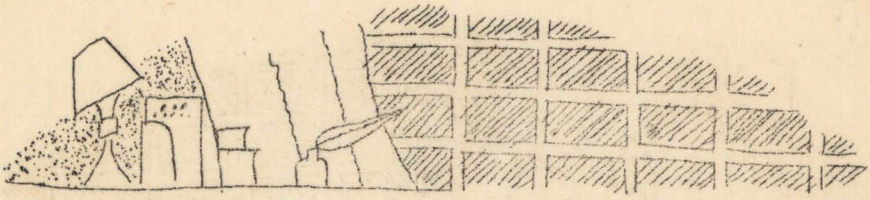
そして青年期の事は唯だ一色の性の眼覚め時代の事を除いては割合記憶が少い、中学時代よりも、小学時代の記憶の方が年の經つた割合に強いものだ、それは智識が多方面に向つたからかも分らぬ、刺



戟が復雑になつたからかもしれぬ。併しそれは生活に華かさが減っていつた證據である。空想が現実化したからだ。

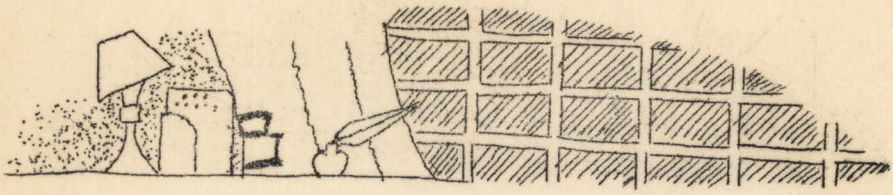
人の性はその割合現化した時代に目覚めて來る。

そしてそれが人生の未知の世界を覗く第一歩なのだ、恰度生を此の世に享けて人生一の旅立の第一歩と同じやうにそこに非常に華かさと憧憬がある。そして初恋の味は、人生終時忘れられぬものである。人には大小、深浅の差はあつても、初恋の味を知らぬものは滅多にあるまい。僕も御多分に漏れぬ一人である。その時代にはまるで物につかれたやうに対手の事を考へる、それが何よりも嬉しく、何よりも重大事なのだ、併し其處には肉体といふものが全然入つてゐない、全く精神的なものだ、少しの濁りのない、全然純なものである、「ライン」といふ言葉や「プユーア」といふ言葉は到底それを言ひ表はすことが出來ぬ、日本語でも勿論ピンと來る言葉がない、唯だ對手の顔を見、対手の言葉を聞けば満足なのだ、その一頻一笑がどんなに強く頭惱に響くか、「眄の高鳴り」人々はこの言葉を初恋



の人に不意に會つた時の形容にのみ用ふべきであらう、その時代には恋愛小説が非常に興味がある。そしてその主人公に自分を擬し、対手を擬すものである。併し決して肉体には触れない、一寸考へるだけでも対手を汚辱するやうに思へる、またこの世の中に肉体などありとも思へぬ、例令外の人々にあつても、自分達の間には絶対に考へられぬ。夢遊病者のやうに、その人の事を考へ續けてゐる。

「その動機は？」どうしても分らない、年と共に希望が小さくなるように、併しそれとは少し意味が違つてゐる、精神ばかりでは満足出來なくなるのだ。恋の殿堂には、精神的よりも尚遥かに美しい、華やかなものがある、それを捜し求めやうといふ思が増して來るのだ、そして漸次に精神的が官能的に変つてゆく憧憬が失はれてゆくその際自分自身が非常に淋しく悲しくなる、段々汚れてゆくやうだ。神の世界から悪魔の境に墜落してゆくやうな恐ろしさに迄襲はれる併しそれも間もなく薄らいでいつて、それが當然なやうな氣になる、今まで精神的の事ばかり見つめてゐた自分が馬鹿らしかつたやうだ



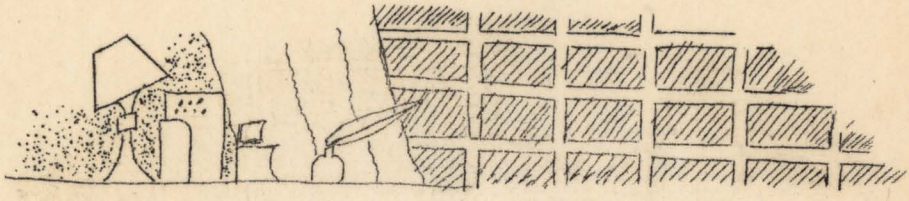
とまで思はれる。

「精神から肉体へ」これが果して良心の麻痺であらうが、人生の墮落であらうか、不幸にして、現在それを「然り」と答へられぬ位置にゐる、勿論その事が嬉しい事だとは思はぬ、少くとも「俺も精神的になれぬか」と思ふ時悲哀はある。女性を見る時先づ第一にその肉体を考へる自分の浅ましさが慨かはしくはなる。純な初恋の時代が懐しくはある。併し今更どうする事も出來ぬ、これも人生の一經路に違ひない、退歩か進歩かは分らないが、少くとも自分も社會的動物になれたのだと思ふ、でもまた、肉体を第一に考へぬだけの誇りはあるやうに思ふ、これで其処までゆけば人生も終りに違ひない。

紙

蕪　故　人　生

一枚の紙にも裏表がある。人の心にも表裏のないわけには行かない。時によると、白状したいと思ひながらも云へなくなる事がある。否



むしろ、その方が多いかも知れない。兎に角世の中はむつかしいものである。うるさいものである。

「あら先生!!」

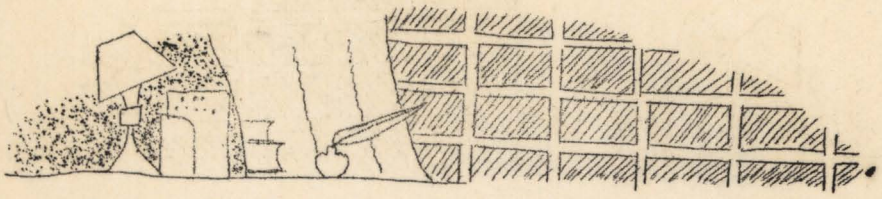
「おい!よして呉れよ、その昔看護卒をしてゐて、たまに腹痛位直してやるからと云つたつて、そう先生、先生と云はれちゃ恥かしくならァ」

「まあいゝぢやありませんか……でも……と……先生は一体何処へ行つてたの?」

「何処へ?何処へつて、きまつてらァなァ、向ふの部屋でKの奴と話してたのさ」

「へえ?そうですか!! 嘘云つたつて駄目よ、Kさん、さつき先生は何処行つたつて探しに來たんですからね、白ばつくれるのも程になさいよ、あすこの部屋の娘と散歩に行つたつて云ふぢやないの、眞実(ホント)に仕方のない人ね!」

「いや、嘘なんか云ふもんか、実はその散歩に行かうと思つた事は



思ったんだがね、後が恐ろしいからやめたのさ」

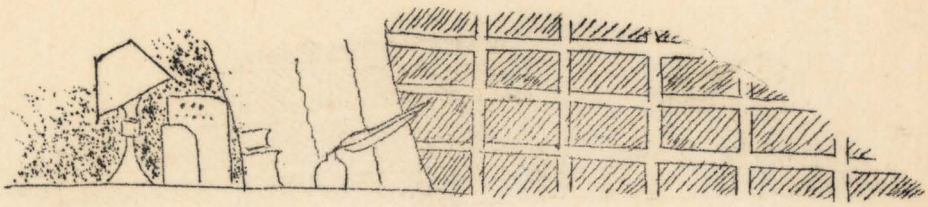
「でも、愛さんが先生が正ちゃんと小はるちゃんと散歩に行ったのを見たって云ってたもの、隠したって駄目」

「ほう？　愛さんがかね！　こりゃア驚いた、あんなのが何と云はふとかまうもんか、事実が何よりの雄弁と云ふ事を君は御存じないと見えるね、事実そんな事なんかあるもんか、第一ある道理がねえじゃあねえか、君は愛さんに擔がれてゐるんだ！　然しね、一所に散歩に行かうと云ふ意志の動きのあったのは事実だがね」

「いやにむつかしい事云ふのね」

「いや、意志の動きは確かにあったんだがね、散歩でもして、若し見つかりでもして見ろ、面倒な事になるじゃねえか、そんな事が出來るかどうか、御自慢の頭の好い所で考へて見るがいゝや、正ちゃんと、小はるちゃんとは、S公園の方へ行っちゃったんだよ、俺も実はそっちへ行きたかったんだが」

「それで行っちゃったんでせうよ！」



「よせよ、俺は小屋の裏の廣場の方へ行つてたんだよ、独りぼつちでさ、御蔭ですつかり露でぬれちやつてさ、ほら見ろ、おやもう乾ひちまやがつた、さつきKの奴と話をしてゐる時にや靴もズボンもぐつしよりだつたがなあ」

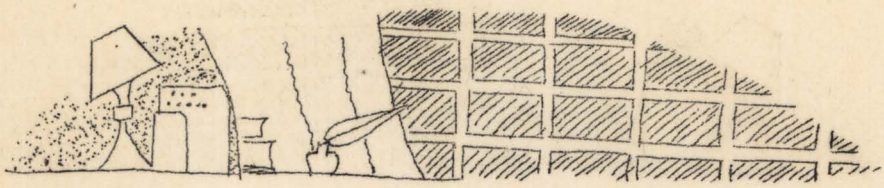
「心の熱が高いとぬれてもすぐ干くつてもんさ」

「又か、もうよせよ、つまらない。あんなのが何んだつて云ふんだい、冀面白くもない、好うちやんならまだ外にいくらでも君達の目のとゞかない所にころがつてゐるつてもんだ。」

「向ふの部屋にね」

所はS公園　くの新界地に小屋掛けをした見世物小屋の一室である。

「でも、それならいゝんですよ、若し此の服装(ナリ)であの娘達と公園なんかを散歩でもして御覧、小屋の奴はがあ〳〵云ふしさ、世間様の眼は光るし、恐い小父さんの劍はがちやつくしさ、折角蓋を開けた此の小屋に、何時営業停止と云ふ馬鹿神が飛びこんで來ないとも限らないじやないか」

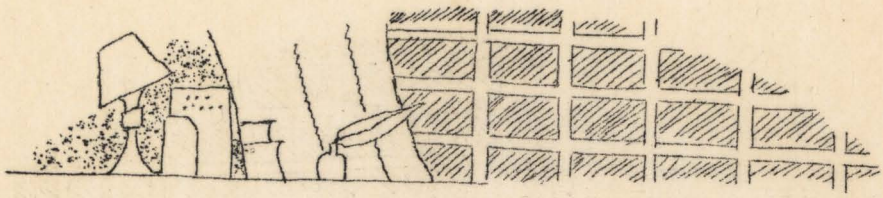


「いや大きにそうだ、全くだな、だからさ、さつきからも云つてる通り一緒に行かうと思つたがやめたのさ、わかつたらう」

「えゝ、昔ね、妾がやつぱり小屋の人に手紙を書いてもらつた事があるのさ、それもその人と前から、どうのこうのと云ふ事は無かつたんだがね、その代筆して貰つてゐる所を見られてね、さも〳〵妾達が付文でもしてゐる様に思はれてしまつてさ、小うるさいあの梅干婆に陰口をたゝいた奴があるんでせうよ、とう〳〵呼び付けられて御叱言さ、然し妾その時はほんとに親に出す手紙の代筆を頼んだんだからその手紙を見せてさ、やつと納得はして貰つたものゝ、ずいぶんうるさいもんさ」

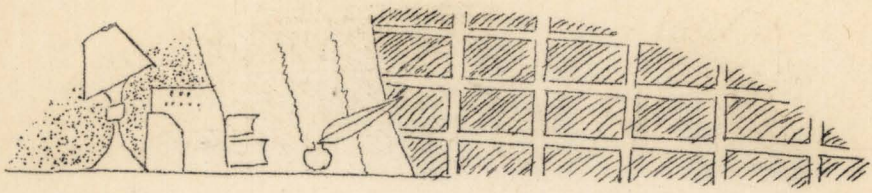
「何故そうなんだらうなあ、俺達だつてずふの素人でもなし、片揚付けた子供じやなし、いゝ加減にしてもらひたいもんだなあ」

「全くね、だから妾もこんな商賣もつまらないから、もうぢき脚を洗つて國へで帰つて両親と一緒に百姓でもしようと思ふのさ、馬鹿々々しい程うるさいんだからね」



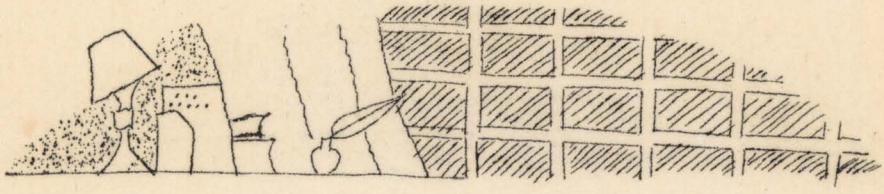
「大体……又君がむつかしい事を云ふなんて冷やかすか知れないがね……昔の日本人が馬鹿なのさ、男女七才にして席を同じうすべからず等と云ふ支那だか印度だか知らねえが、下らない道徳なんて奴を眞面目に輸入しゃがつたもんだから、今日まで我々を苦しめてやがるんだ、そりやあ昔長い奴を二本腰にさして「御無理御尤」「さらばさ」等と云つてゐた時代で西洋文明が這入りこんで來ねえ時代の事よ、今ぢや男女同権と云ふ時代じやねえか、そんな徴のはえた様な、何んでえ、え　道徳律なんてもんでよ、締められてたまるもんか、何處が悪いんでえ、男と女が話をしやうが、散歩をしようが、ちつとだつて、これんばかりだつて悪いことなんかありやしねえじやねえか、間違ひを起すといけねえたつて二十世紀の人間だあ間違ふ氣付けえはねえし、又間違つたら自分達で結構仕末を付けて行かあ、子供じやねえんだあ、それだけの自信もあらあ、馬鹿にしてやあがらあ」

「いやにいきんでるんだねえ、然し先生の憤慨するのも尤さ、実際



少しひどすぎるよ、外出する時には二人以上でなければ出さないなんて、あんまりだよ、妾達いくら親しい友達だつてさ、一寸一所に行つて貰い度くない所だつて、あるんだからね、だからそんな時にやねえ、仕方がないからS公園のあの高い榎の下で時間を謀し合せをするのさ、然し是はもうう〳〵あの監督の禿の頑固爺に氣付かれてゐるらしいのさ、ハハア馬鹿にしてるはね」

「然しまだ待合せ位はいゝ方だぜ、今日は一日休ませて貰らつて、叔父の処へ泊つて來ますなんて出て行つてさ、何処へ泊つてくるんだか知らねえが、外泊証明書にはもう小屋を出る時にちやんと叔父さんの印が押してあるんだ、俺が此の間何んの氣なしに、或部屋をのぞいたと思ひねえすると……その或人がさ、外泊証明書を書いてゐるんだ、それで黙つて見てゐたら、書き終つたら、ちやんと印すで押すじやねえか、俺だつたから、いゝ様なものの、あいつと仲の悪いTにでも、そんな処を見付つて見ろ、君じやねえが早速大叱言もんで、禁足つて処だらうよ」



「そのあいつて誰一体」

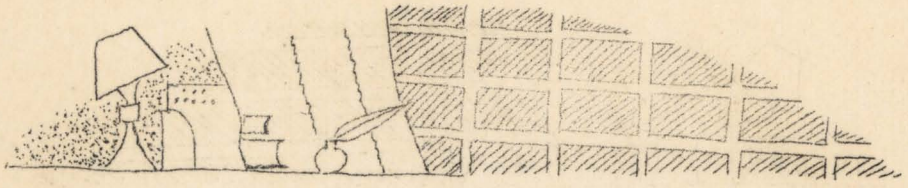
「いや名前は一寸氣の毒だから云へねえがねK、K、つて云ふもんさ、K、Kなら此の小屋にもたくさんゐるからあまりさしさわりもあるめえ……然しそれはまあい、としてよ、若し又俺が散歩したなんて、他の奴が云つても別に否定するには及ばねえぜ、そんな他人の噂をすぐ信ずる様な奴は誰が何んて云つたつて、云ふことをきくんじゃねえんだからね、そんな奴に限つて他人の悪い噂でも聞き込みやあ、まるで鬼の首でも取つた様に、世間に云ひふらすんだからそんな唐変木に俺の云ひ訳をして呉れたつて無駄だし、云ふだけ野暮さ、云ひたければ云はしておくさハハア」

「でも妾は否定するわよ」

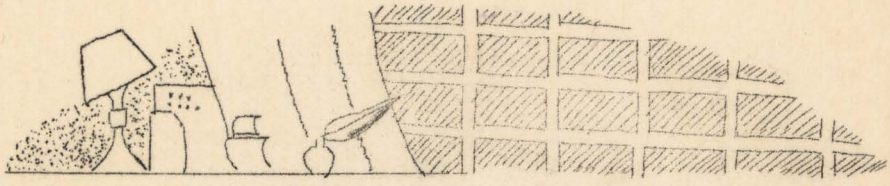
「あら先生もとう〳〵來たわよ」

「ほんとだわね」

「どうだい、此方へ來たら、小屋の奴に見付からないだらうね」



「えゝ大抵大丈夫よ」
「正ちやんはもうすぐ御暇が出るんだね」
「えゝ十三日からですの」
「小たるちやんはもうすんだんだね」
「えゝ、妾もうすんじやつたの、つまらないわ」
「ふん！　休んで來ておいて、つまらないか、勝手なもんさ……
あゝ涼しい好い月だなあ」
「向ふへ行きませうよ、池のそばにはベンチがあるわ」
「あ!!!　自動車が來やがつた、あのヘツドライトで照し出されたら
旅順口じやねえがたまらねえ」
「あら先生大丈夫よ、此処は公園じやないの、先生も隨分非常識ね
此方へなんか這入つて來られるもんですか、彼方に車止めが立つて
るんですもの……ほら左へ曲つたでせう」
「あゝそうか、びつくりさせやあがる、……処で正ちやん！　御休
にはやつぱりあすこへ行くのかひ？」



「え、だつて親類のものが小型蒸氣をやつてゐて載せて行つてやるつて云ふんですもの」

「あの小さい蒸氣は正ちやんの親類の人がやつてゐるのかい？」

「去年も連れて行つてやるつて云はれたんですが、小屋の方がいそがしくつて、とうく行く暇がなくつてさ、断念したでせう、だから今年は是非連れてゐつてやるつて云つて、親類から親方の方へも手紙を出してくれたらしいの」

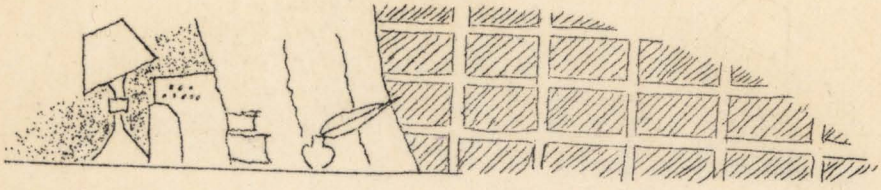
「そう、正ちやんとなら俺も一処に行きたい処だが、正ちやんと一所に行くと云つたら勿論の事、そうでなくつたつてとても御許しなんかは出つこはねえや、まるで休のいゝ篭の鳥さ」

「先生もう帰りませうよ、別々に帰らなくちやならないんですから」

「そうだね、もう十一時半だものね、然しいゝ月だなあ、惜しいね

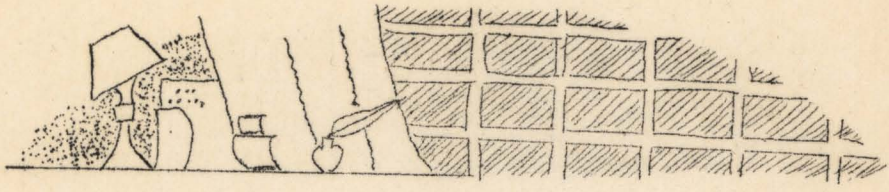
今月今夜の此の月を
僕の涙でくもらせて

か、ハハア熱海の海岸ならぬ、公園の池の畔じや仕方ないや！あゝ



！世は無情か」

三人は思ひ〳〵の事を考へ出したのであらう、もう誰も話を仕掛けるものもなくなつた、その夜先生がKを尋ねて、その部屋に行くと相憎Kは留守であつた、先生はいつもKが坐つてゐる椅子に腰を下ろして、なす事もなく煙草をふかしてゐると、外からドカ〳〵と三人の女性のものが這入つて來て、「とても涼しかつたね」等と話し合つてゐる、手に手に珍らしくも打扇を持つてゐる、何処かへ涼みに出掛けたに違ひない。先生が口を開かない内にS公園へ三人で涼みに出掛けた処、池の畔で男に追ひかけられて、息せき切つて逃げ帰つて來たのである事が知れた、一しき池の畔の涼しかつた話を、彼等特有の饒舌を以て先生に話して聞かせた。先生もKが留守で手持不沙汰の時であるから、い、相手になつてゐる。時に小丸るが今一度行つて見たいと云ひ出した。吉ちやんはもう眦むいからと、一足先きに部屋に引き取つてしまつた。残つた二人は行く行かぬで騒い



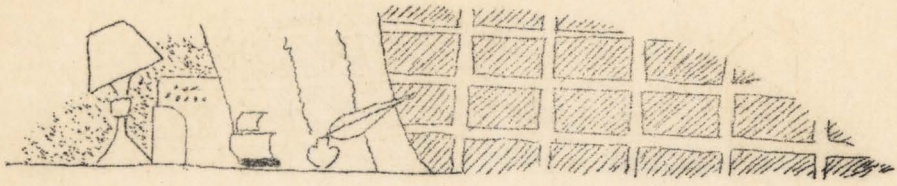
た揚句、先生も一所にすゝめて、とう〳〵行く事にしてしまつた。然し可愛さうに、彼等三人は一処に小屋を出る事を許されぬ事情に置かれてあつた。

女二人は先づ出かけた。先生は一寸して、様子を覗ひ、すぐその後を追つてS公園の入口で出合つたのである。

之より先き、先生は正ちやんの居るKの処へよく出かけて行つた事は事実である。之は行く必要があつて行つたのではあるが、然し行く時には嬉んで行つたのも事実である。Kに正ちやんはいゝ娘だ、俺は好きだと云つたのも事実である、然し好きだからどうのこうのと云ふのでもないらしい。と云ふのは、散歩の噂が立つてからKの処に先生の顔はあ　り見えなくたつたし、Kの部屋の前を通るにもなんとなく氣兼ねしてゐる様である。

正ちやんは相変らずKの室にゐる。

（終）



母を失へる兒の詠へる（旧稿）

逸名　氏

一夜のいたつきに忽ち死するもあはれ人の命なりけり

通夜をして夜の明けぬれば白菊の朝は冷き花に物言ふ

見しまゝに花は咲けども見し人は早やすぎにきと思ひつゝ見る

朝庭の菊の輝き一と夜さにはかなくなりし命を思ふ

昨日（きのふ）母が坐り居し処に人知れずそつと來りて坐りて見るかも

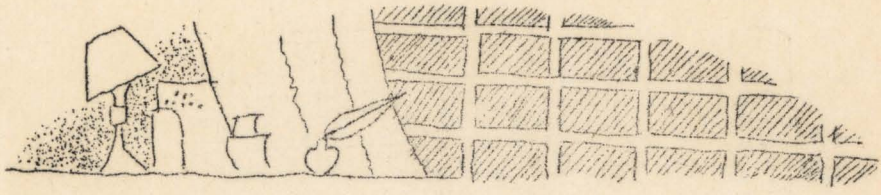
忽ちに身まかりし人のかなしさは讀みかけの本の頁（ページ）折りて残れり

着つゝ逝ける眺着のよごれのいたゞくし生きてよごせしよごれと思ふに

× × ×

ぬば玉のよるまだ浅き草原に命あやしく妹が手をとる

おほゝしく霧立つ野邊にあは雪の妹が玉手をとりにけるかも



刀林雑草

もゝたに生

若葉香る芭蕉の下の中庭にシュルツエ眞白しボールを投る

小夜更けて手術も済めり静まれる医局に聞ゆタイプライターの音

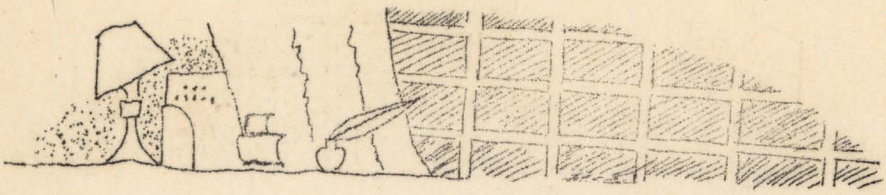
葉櫻の並木の雨の音更けて西へ宿居すコーモリ借りて

涼し氣に木の間蔭れに池青しミカドのカツを持ちつあれば

さびの香に涙こぼさん暇なし医局の毒しを喰ぱんとすれば

手術後の食注済みて帰る医局にほのかに匂ふキリンビールの泡

鞄持ちて正しく帰りし先生なるに不思議や朝は當すなる



西病舍にて

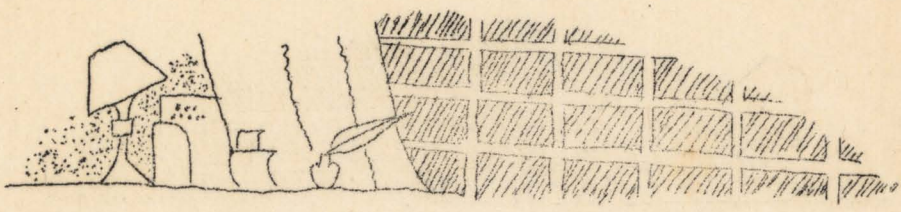
讀人不知

梅雨晴れてトマト赤々熟れにけり
梅雨晴れて四葉摘み居り白衣の子
玻璃窓に小蜂動かず野分朝
高らかに申し継ぐ娘等や今朝の秋

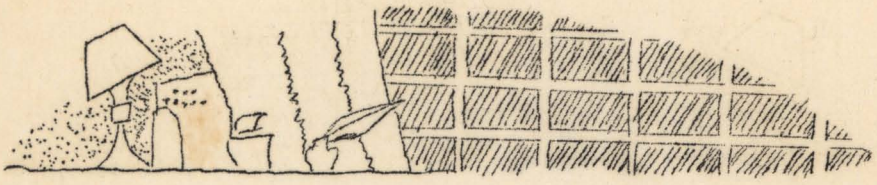
西病舍小唄

顕坊

一、ちよつとろ号を通りぎわ　きざな金持横目で睨み
横目で睨み
行けば嬉しい　西病舍
朝顔の花　玉の露
それ　玉のつゆ



二、ちよつとお出でよ第二まで　夏も盛(さか)ればトマトが実る
トマトが実る
青葉陰さす　手術室
へちまゆすつて風が吹く
それ　風が吹く
三、ちよつと晝寢ももう止めて　十歩あるいてプールで泳ぎ
プールでおよぎ
帰りや用意も出來て居て
注射すませて　一ト休み
それ　一ト休み
四、ちよつと窓越し第三を　呼へばコスモス粉雨(こあめ)にぬれて
粉雨に濡れて
宵も浅けりや　三毛小ねこ
そつとシユルツエに　じやれかゝる
それ　じやれかゝる



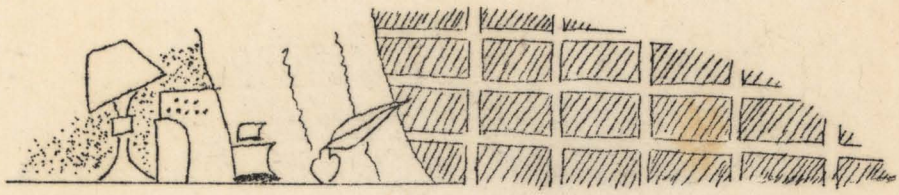
五、ちよつとお待ちよ月が出た　聞いて行かうよあの虫のこゑ
あの虫の声
玉のきざはし　及ばねと
こゝはよいとこ　西病舎
それ　西病舎

外科医局の歌

一、群峯圧す芙蓉岳　覇者慶大の粋として
天賦の職にいそしむは　これぞ我等が外科医局

二、彼岸に光明望み見て　白頭部長の指揮の元
男子の意氣地鉄の腕　哺み育てし外科医局

三、過ぎし十歳の夢の跡　先進諸賢の築きたる



陽光は今や輝けり　　讃へよ慶應外医局

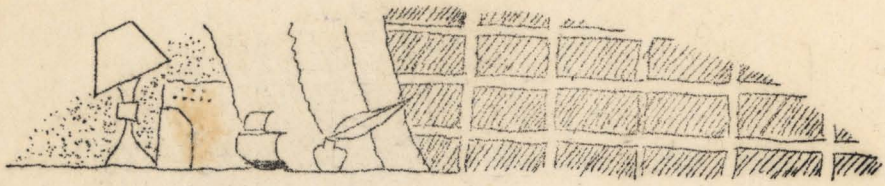
四、秋空高し氣は澄みぬ　　今日の佳き日を君知るや
いざ醉へ歌へ舞へ踊れ　　祝へ！慶應外科医局

外科医局の歌

——治　生——

㈠ 明治神宮外苑の
樹々の緑は常磐にて
四塔高き繪画館
朝日を受けて輝けり
この美はしき四谷區に
地を卜したる我々の
慶應義塾医学部は
先づ天恵を得たるなり

㈡ 近代医学の趨勢は
日進月歩の跡あれど
眞理は未だ遠くして
人智の迂愚を笑ふなり
この秋にして新進の
若人集う我々の
慶應義塾医学部は
先づその使命得たるなり



㊂医学を別けて幾分科
皆それぞれの道ありて
皆それぞれにいそしみつ
眞理を目ざし進むなり
この一つなる外科学を
選みし我等の光栄を
心に深く銘じつゝ
いざや進まむ勇ましく

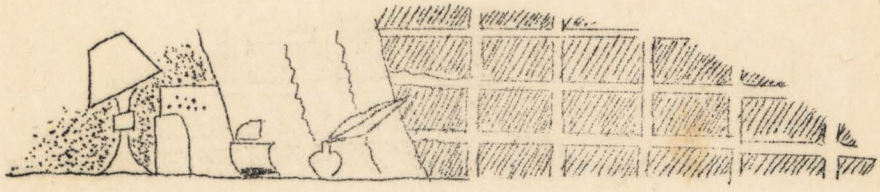
㊃治療医学に種々あれど
病魔の根據切り除き
起死回生を遂げ得るは
外科ならざれば成し難し
この神術を技として
しかも古きにあきたらず
尚一層の発達を
期して我等は励むなり

㊄四界を照らす慶應の
歴史は誰も知るならむ
独立自尊の学徒たる
我等は如何に幸なるぞ
この幸を喜びて
ペンの徽章の輝きに
永遠の光を添へんこそ
我き若等の務なれ

外科医局の歌

——國境警備の歌の節——

燕　故　人



(一)
此処は東京四谷區の
壯麗無比の慶應の
中にも偉大な外科医局

(二)
日本のオリムピア神宮の
血を湧き立たす外苑は
我等が庭そ園なるそ

(三)
春秋野球のシーズンにや
茂木教授を始めとし
医局は球場に移りゆく

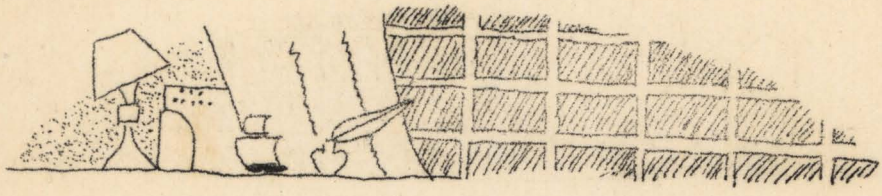
(四)
夏は水泳冬は又
ラ式ア式の蹴球に
救護の心苦を誰が知る

(五)
茂木教授を筆頭に
吾々医局の同胞は
何れ劣らぬ酒豪なり

(六)
一週三度の宴にも
酔ふてくだ巻く者もなく
その後得意の寝技あり

(七)
されど一度手術場に
入れば心は正宗の
刀とる時の心なり

(八)
一刀両断何事も
総て我等の握るメス
解決せざるものはなし



はるを

さあさお出でよ慶應の外科に
医者は新進、手は切れる。

○

外科の外來明るい所
通ゆ患者も氣が晴れる。

○

い号病棟　小粋な所
窓の陽ざしにチウリップ。

○

ろ号病棟　静かな所
看護婦室の十姉妹。

○

に号病棟　元氣な所
今日の患者が明日治る

○

ほ号病棟人情が深い
一人一人が皆笑顔

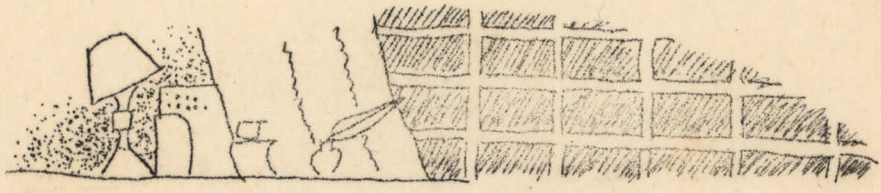
○

西の病舎は風雅な所
季節季節の花が咲く

○

さあさお出でよ慶應の外科に
医者は新進、手は切れる

○



改作 麗人の歌

Y

(一)

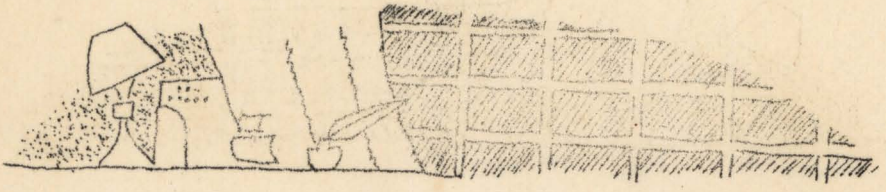
ぬれた瞳も唇も　アッペになれば駄目なのよ
マックバーネロブシング　きれいな御腹も大鼓張りイー
切ってしまへば其れ迄よ　切らない内はだめなのよ

(二)

フラクツールにモロイド　クエッチ、シュニット、リスウンデ
スポガン、イレウス、カルチノム　きれいなお乳もマスチチスウー
切ってしまへば其れ迄よ　切らない内はだめなのよ

(三)

恥はきれいし脊は高し　手術もすれば繃帯も
ちらりと見えしシャムタイル　これはあきれたハールロースウー
知ってしまへば其れ迄よ　知らない内はだめなのよ



一九三〇流行小唄 いゝのね

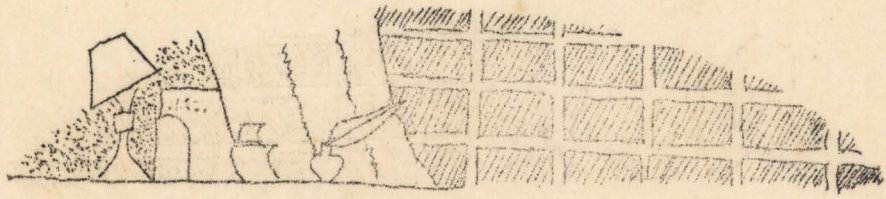
Y

㊀私の胸はKOの　外科の先生を夢に見る
メスを持つたる其のすがた　きっと見張った其の瞳
イヽノネエー　イヽノネエー　チカツテネー　OK、OKザアツOK、

㊁アークライトの其の下で　いで來る血潮を見守りつ
臨機應変其の處置で　悲しいことにはさせないで
イヽノネエー　イヽノネエー　チカツテネー　OK、OK、ザアツOK、

㊂今日も明日も手術で暮れる　暮れる其の夜が待遠し
赤い血の様な胸のうち　ひらいて頂戴其のメスで
イヽノネエー　イヽノネエー　チカツテネー　OK、OK、ザアツOK、

㊃泣いた涙がガーゼにしんで　書いた手紙がしづくでぬれる



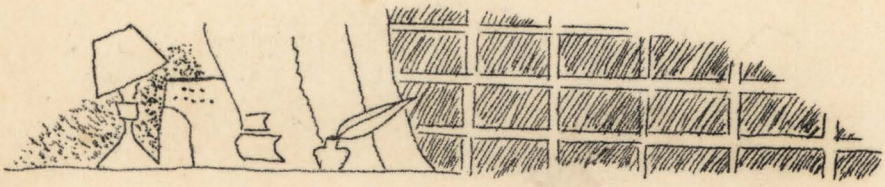
胸の苦しみ傷のあと　　ひやして頂戴この胸を
イ、ノネエー　イ、ノネエー　チカツテネー　OK、OK、ザアツOK、

㊄ヘルツストツス高なれば　　私の胸のやるせなさ
ステトス持つたる其の御手で　　開いて頂戴胸の中
イ、ノネエー　イ、ノネエー　チカツテネー　OK、OK、ザアツOK。

病院新行進曲

一、昔懐しい四谷の並木　　青山原を誰が知ろ
外来勤めて手術で暮れて　　明けりや患者のうめき声

二、懐の病院あの窓あたり　　泣いて文書く人もある
部長廻診で見た横顔を　　せめて今宵の思出に



三、廣い病院戀故せまい　暗い屋上で忍び合ひ
あなた本館妾は西よ　人目多くてまゝならぬ

四、標本見ましよか本讀みましよか　いつそ成駒で飲みましよか
変る大学あの西病舎　やがてモダンなコンクリート。

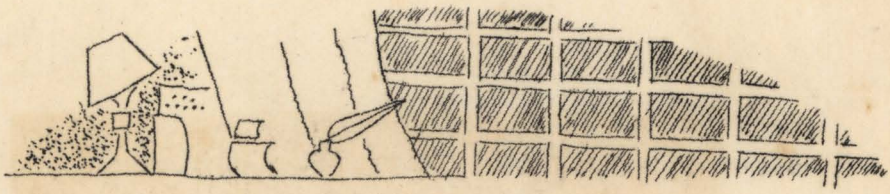
外科の歌

(一)

思案あまつてさじ投げすてゝ
脈がないねと言はれた方も
エー一度お見せよ　我が外科に、

(二)

目をばつむつて握つたメスも
主の顔見りや手がにぶる
エー腕ぢやないぞえ　我が心、



(三)

メスを握れば冴えたる腕も
主とばかりは切れはせぬ
エー切られないぞえ　深い仲、

岳麓に遊ぶ

春魚生

冨士の麓の田をひろ〳〵と
かへす鍬の刃陽に光る

向ふ通るは吉原小町
春の菜摘にや声のよさ

麥は三寸茶にやまだ早い
冨士の裾野に陽はおどる

先輩及軍隊よりの通信

○福岡便り

成松清敏

貧乏総領のかなしさは過る八年間、弟等の為の身賣り、漸く昨年四月二人の弟を社會に出す事が出來たのでこの六月には「モウ來ナクテモヨイ」と茂本先生がおつしやつても、是が非でも皆様のお膝下に歸參して八年前の學僕務をする積りで居たので、度々御催促うけ乍らも年賀以外には一度もおたよりさえいたさなかつたのですが、氣儘で短氣な私のどこがよいのか「來年ニナレバ社費デ研究ニヤルカラ今年中ハドウシテモ出テ行テハイヌ」と社のえらい人達から引留められたので六年間も使つて貰つた義理もあるし、社費で研究に出してもらへれば其間生活も安定だと

慫も手傳って昨日二度の勤めを承諾したやうな次第、これでは「來イトイフタトテ行カリヨカ江戸へ」で一寸医局戻も六ケ敷い。扨て如何に筆不精でも何とか通信いたさなければ某氏のやうに除名でもされては大変だから……

回顧すれば私の皆様の医局を出てから滿八年になります、それで年令実に三十八才、家内は矢張在局當時ヤカマシかった菊子です。小児は四人（四人共女ばかり、でもまんざら捨てたキリヨーでもない、寧ろ親のよく目かシャーンの方ぢやなからうか、と只今から嫁口を楽しみにしてます——よい口がありましたら皆様の御媒介を御願ひして置きます、但しお忘れなさやう長女八才、二女六才、三女四才、四女三才にて候ハツハツハッ）あります——……と申せば、立派なオトーサンにちがいありませんが、自分自身では医局時代とちっとも変ってない積りです相変らずの癖せぎすで矢張此の奥に眼ありです、髪もまー長髪に近く雀の巣を思はせる程度の手入れです、日中は朝八時から夕五時迄の病院勤め患者が多くて何のアルバイトもいたされません。

夜でも休日以外はいつどんな大負傷があるかわかりませんから責任上でも宅に居なければなりません――で勤務引けても我身にして我身にあらずの態、でも宅から僅二丁の小峠を下た町や十九丁ばかりはなれた駅のある町の活動常設館へは毎週替る度には大抵出かけます――行きつまってるといつても劇戦物（チャンバラ）が私は一番すきです。

それで只今では優れた醫學者の名前等あまり知りませんが、キネマスターは大抵知てる積りです。

マ、只今の私は一面炭坑病院の院長さんで一面キネマファーンの不良青年？見たいなものです。

いま一つ書落したが、宅は五十坪ばかりの庭を持ってますので数年來西洋花作りをやつてます、大分上手？になつて四季花を絶しにことはありません。一寸したフレーム等をこさえて、素人園藝家無取りでおります。

只今はシャスタデジー、スヰートピー、フロックス、ポピー、オリエンターリス等の花盛りです。

今日はこれで筆を擱きまして次回にはおそらく皆様の豫想外と存じます

炭山病院の模様等書かせていたゞきましよう。

冠省

刀林第四号、大養兄御記載によれば六月医局創立十周年記念には記念論文集御編纂の赴會員名簿入局順第三位に記載せられてる身柄是非何か書き度いとは思ひ居り候ひしも鈍才加ふるに医務に追はれ意に委せず全く面目次第も御座なく候　せめて同封は極めて些少乍ら小生の微志御編纂費用の一部にお加へ願へれば幸甚の至りと存じ候

猶茂木先生へは貴下よりよろしくおつくろひ願ひ上げ候　　頓首

五、一二

阿部貞治君

來る十一月は吾等の医局創設十週年に相當するので種々の紀念事業や祝賀會等の催さるゝことは豫て兼つて居りましたが誠に慶賀に耐へません

小生が入局して末席を汚したのは開局後三年目の春でしたが、開局當初の先輩諸先生の努力苦心談や傑作談などビールの肴に度々聞かされたのも今猶昨日の如く脳裏に残つてゐるのに、早や光輝ある十週年を迎へるやうになつたかと思ふと、歳月の流れの速いのに今更驚かされ往時を追懐して誠に今昔の感に耐へぬものがあります。

医局も愈々發展して名声日と共に揚り局内また済々多士各地に雄飛せられ霊腕を振つて済生の重任に奮闘せられつゝあることは吾が医局の誇りであるばかりでなく医界の一偉觀で心強い限りであります。不肖私も昨年十月京浜川崎の地に居を卜し茂木先生初め先輩同僚諸氏の御後援にすがつて、さゝやかな医院を開設いたしました。當初は病院生活と事　り萬事勝手が違ふので面喰ひました、昨今は漸く馴れてどうやら其の日其の日を無事送つて居ります、是も一重に諸賢の御同情の賜物と深く感謝致して居ります。開業以來どうしても時間がだらしないので生活が不規則になり、眼と鼻の近い處に居りながら医局へ御機嫌伺ひも出來ず、心ならずも御無沙汰になることを済まなく思つてゐ

ます。今年は好きな野球リーグ戦も見物出來ず町医者の苦痛と悲哀をつく〳〵味ひました。此の機會に當り平素の疎遠を深くお詫びすると共に栄光に輝く吾等の医局に會員諸氏と共に心からの祝福を捧げます。

五・五・二一・

鷲見忠君

投稿期限を忘れてしまつて居て申しわけありません。八月には必ず御送り致します故御許し下され度し。

近頃は後妻も参り子供も中學へ通ふ様になり家庭内もやつと春らしくなつたのでまたもとの道楽を初めようかと思つて居ります。道楽といふても猫ぢあありません御安心下さい。柄にもなく札幌以來の長唄のお稽古やら江戸文學の研究を初めます。江戸文学の方は多少共同志間に認められ友人も此方面に相當多数出來ました。錦繪でも岐阜辺の骨董屋にはなか〳〵だまされません、通になつたつもりですが宮武外骨氏により）又此外に蘭と仙人掌との温室栽培に懸命になつて居ります。

趣味が多過ぎて困ります。医者が駄目になつたら文學方面か植木屋になろうか、まかり間違つて新内流しになつて諸君の門先に参ります故その節はよろしくハ、、、、、、、、、、、、、

五、六、七

濱野碩太郎　君

日頃は誠に御無沙に打ち過ぎてゐます。茂木先生を始め皆々様の御壯健にて御活躍の御様子遥かに傳へ聞いて喜んでゐます。開司紀念祝典には上京して末席の光栄に浴したいと存じます。が只今は決定し兼ねてゐます。お別れ以來家庭的には長女一人が増加した丈相変らずコチくと田舎的にやつてゐます。

九・九

大曽根幾次郎　君

刀林の出版される度毎にこの家庭通信には弱らされます。それは貴重な紙面をけがして同人諸兄に御披露に及ぶほどの変化がないからであります。渡函以來三年飛ばず鳴かず雪に埋れて暮して來ました。一口

に三年といつて了へばいかにも短いやうですが御當人にとつては仲々楽どやありません。それこそほんとに石の上に居るやうな氣持がします。まあ泣言はとにかくいつか落付くべき処へ落付いた上で思ふ存分書かせていたゞく事にしませう。　六・二七・

鎗田　栄　君

日頃御無沙汰いたして居ります。

開業以來一ケ年になりますが、別に変つた事もありません。

「處変れば品変る」で、足利一族が住んで居たとかの土地なので尊氏などは決して逆賊呼ばはりはしない。尤も色々の点で、今日でも楠正成よりは恩恵を被つて居るから當然かも知れぬ。そこで「何が何だかわからないのよ」

家族は三人、長男は三才になりますが、小生に似て頭髪が薄い、昆布わかめを喰べさせなくてはなるまいと考へて居ります。

八・二二

佐藤盛二君（旭川）

子供二人と家内と、其主人。玉藻の前ぢやなけれ共、二人共女の兒。親は毎日オモチヤを買ひ集めて、其成人を待ちわび居り候田舍なればこそ呑氣なもの、四人揃つて、時にキネマ見物、いとも平和にして悠長なれど、金のないのが、玉にきず、早く開業して一人前と相成り度く切望に堪えず候

牛久昇治君

祝開局十週年紀念号が出來るさうで誠に御目出度いことです。今から楽しみに待つて居ります。私も何か書き度いと思つてゐますが材料もありませんし、腕もありません。

私は深川にて夜だけ患者を診てゐます、無産者の代表とも云ふ場所にて此の不景氣にやつて行くのですから眞実のプロ、アルツトです、牛の歩みにてはスピード時代に處する誠に難い哉であります。

家族は高円寺の方に別居生活をして居ります。子供は陸海軍一人宛、

あとは軍縮です。

茂木先生の御健康と同窓會の益々發展せられんことを祈ります。

五・一三・

近藤宗彦君

同窓會々員は年々殖えるばかり幹事諸君の労を多謝します。

僕は亀戸にて開業、二年以上経つても何の変哲も無く「ダラ〳〵」と年中無休で穏かに活躍しつゝあります、亀戸と云つても工場地帯や貧民街に富み、天神の藤は枯死せんとし遊廓は縮少して昔語りに過ぎず、開業医は保険医を兼ねなければ不景気に克てません、従つて事務的な雑用に忙しく、医局生活時代に比べると「事務医者」に成り下つた感があります、これは當然の時勢ですから、今後も数年乃至十数年このまゝで開業医たる目算です。

家庭では平凡〇〇、小娘が三才になつたのに次の者の芽が生えず、緊縮しないのに……呵々

五・一七・

八木勝郎君（渡伯の途にて）

四月二日にケープタウンに着きました。例によって公園博物館等を見物しました。純然たる欧風の町で少しも土の姿を見ません。いよ〳〵明日は「リオ」に向ひます、之で寄港地見物も終りです。

四月二日　ケープタウンにて、

在局中は色々と御世話になりました。今日でこちらに來て丁度一ケ月になります。日課としては今の所は語學をやるだけで頗るのんきな生活をして居ります。

氣のよい事が実にめぐまれております。話もぼつ〳〵やれますので色々と日本の紹介をやっております、言ひおくれましたが高等下宿と云ふ程度の所に今住んでおります

五月十五日

軍隊生活より（一）

橋本文吾

拜啓　花咲く春もすぎ深緑の香り高き初夏の候となりました。医局の皆様には何時も〳〵御無沙汰許り致してゐますが相変らず御元氣に御清栄の御事と存じます、降つて小生も御蔭様にて無事に毎日を送つてゐますから他事ながら御休神下さいませ、月日の経つのは早いものでいやだ〳〵と思つてゐた鉄砲の教練も去る四月一杯で終り五月一日から医務室に勤める様になりました。医務室では毎日朝八時より十二時迄午後は一時から四時まで自分の好きな書物を讀みその間午前午後各一時間位講義があり又は診察をいたします、怠屈ばかりで反つて時々一般兵の演習に附いてゆきたいと思ふ位です。

六月一日には伍長になりますので多分下士室を與へられ當番兵も附くやうになり外出の時間も長くなりますので余程楽になります、只今では一週間に一度語學を互にやり且つ医局の抄讀會のやうな事をやつてゐます、六月一日から五日間島原半島に演習に参ります、色々と面白

いことがあるだらうと今から楽しみに思つてゐます、医局には新らしい元氣な人々が入局しまして益々御発展のことと存じます。入隊以來やつと三分の一を終りましたが毎日々々カレンダーの数字を消すのが楽しみで除隊の日のことのみ思つて暮らしてゐます、

末筆ながら皆様の御健康を祈ります

五月十三日　　敬具

（二）

夏とは名許りで左程暑くも無い日が續きます。それでも毎日医務室に許り居るので相変はらず怠屈なものです。

医局の皆様にはいつも御無沙汰致してゐますが、皆御元氣に御過しのこと、存じます。小生も御蔭様で無事に務めてゐます。毎日々々退営の日のことを思ひながら……

考へて見れば早いもので、いやだ〳〵と思ひながら早百何十日経ちました、残りの百七十日許りはあまり骨折ることはありませんが、除隊の日の待遠しさで返つて長い様な氣がするでせう。

近頃は衛生部一同各中隊に配屬されました、私達は去る十日より第六中隊の下士室に這入つてゐます、滿洲医大の人と長崎医大の人と三人一所です當番兵も一人に一人づつ定まりましたので身の廻りのこと一切は非常に楽になりました。朝晩食事を目八分の高さに捧げて持つて來るのも滑稽です。

演習には順番で時々ついて行きます、病人が出る前に救護員が落伍すると云ふ仕末です、医療裏のメンタ酒を一人で呑んで松の木宿に昼寝でもしてゐると目覚めた時にはあたりに誰れもゐないと云ふことも度々です。

六月の初めに十二師団全部の対抗演習を見学に行きました、毎日十里位歩き廻つたけれ共人家に宿を取る以外演習そのものは何が何だかさつぱり解りませんので面白くありませんでした。

六月一日から伍長になりました。今まで居た五中隊では私共が一等卒の時から皆知つてゐますので二年兵は勿論初年兵すら滅多に敬礼しませんでしたが、今度他の中隊に伍長として行きますと、兵卒は皆よく

敬礼をします。

隣の部屋に士官候補生の伍長が三人ゐますが之れ等も私達より神妙にしてゐます。

今日聯隊長の内務査閲があつて私達に支給してゐる机や毛布等が悪いので中隊長が叱られたので皆将校用のものを與へられました、聯隊を通じて私達の部屋と中隊が一番良いので他の連中が皆羨やましがつてゐます。併し何と云つても除隊になるより以上喜しいことはありません。

日曜日にはよく福岡に行きます。近頃は演習が多くて慰労休暇がよくありますので、九大に行つて手術の見学などしてゐます。衛戍病院でも時々手術をやる機會があります。

では又……皆様の御発展を祈ります。

六月十三日

加藤銀次郎君

しばらく御無沙汰しました。三月下旬迅鯨より第九駆逐隊に転勤を命

ぜられ、只今旅順を根據地として北支那沿岸の警備の任に就てゐます。軍医官としては殆んどなす事なく、只遠く故國を離れて活動してゐる同胞の警備艦に対する感謝の念に感激してその日〳〵を暮してゐます。親元してはじめてその愛を知るとか、教室を離れること久しく、各地の病院の医局を見る時、母校の教室の價値を深く〳〵感じさせられます。十二月任終つて横須賀へ帰る筈、諸先生、諸兄の御健康を祈ります。

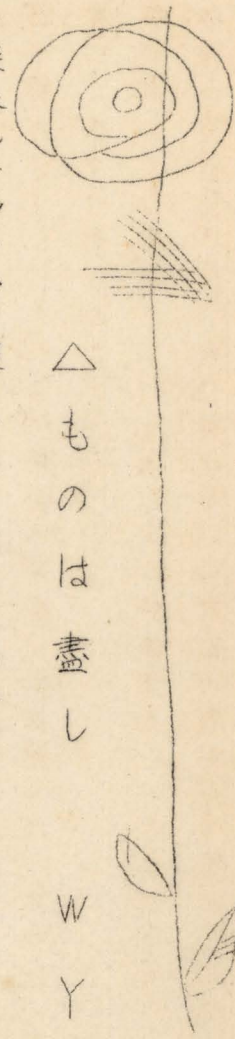
七・一九・

弓削　中　君（熊本鎮台より）

其の後は皆々諸先生如何ですか、大分暑くなつて來ました。富士山救護や葉山水泳部救護でこれから医局もお忙しい事と存じます。下つて愚生も相変らず健在です、六月一日に三等看護長（伍長）になつて毎夜業間外出も出來、軍隊生活も大分楽になつて來ました。今の所医務室で診療の手助けで日を送つて居ます。下士になつたお蔭で洗濯も掃除も靴掃除も全部兵卒がやつてくれ勿体ない位です。

毎週金曜日には衛戍病院で軍医全部の抄読會が催されます。愚生等も會員の一員でたまには耿法螺も吹いて見ます。形式は大体医局のと同様ですが、範囲が全科に亘って居りますので却々為になる所が多いです。日本では土佐と熊本八代郡鏡町に多い Epi demische Drüsen fieber や天草に特有のフイラリヤ、又熊本本明寺で有名なレプラの研究業蹟等も発表されますので却々有益です。幹部候補生は大体に熊本医大出が多く前田先生の薫陶を受けた連中です。目下愚生は孤軍奮闘の体です。身体のでかい所為か責任所属中隊は機関銃隊で時には花柳病衛生に関する話を頼まれます。耿法螺の警古にはもってこいと思ひます。久留米の橋本君からも時々便りがあります。

以上ごく簡単に近況御報せまでに。　六・二〇



△ものは盡し　WYZ生

指を差込んで中をかき廻し、声を出しても止めないのは……虫様突起切除術

腰に枕を入れて、足を開かせ、痛くない様にするのは……痔の手術

元を縛って無理に張り切らせてさすのは……静脈注射

満足するまで押込んだり吸ったりするのは……試驗穿刺

なでて、なでて、固くなるまでなでるのは……ギプス繃帶

入りさうもない穴へ、無理にでも入れなければすませないものは……ヘルニア手術

開局以來もう十年になった、開山居士の話によれば、医局は隨分変ったとのことである。併し変らなければ不思議である。エロだのグロだのが東京の夜を横行してゐる世の中だもの、ウエートレスがいとも偉大なるお尻を軽やかにお客の膝に載せて、ベロースのないことを示す世の中だもの、進歩もするだらう。変化もあるだらう、併し依然として変らないのは茂木先生の温容と、森田婦長の苦い顔ださうだ。それと医局全体を貫く和氣靄々たる氣分と、鼻の下のいとも短い？人々の多いこと。

野球の通を一歩飛び込した茂木先生は野球狂といふのださうな。或る野球雜誌に批評してゐたげな。減多負けたことの無い我が慶應軍が名も低いB級に喰は

れる度びに教授の頭髪が白味を加へるやうに思はれる、この大將のもとにこの兵卒あり、早慶戰は勿論、春秋二季のリーグ戰には不肖僕子を始め挙って救護兼應援に行く、勝てば先生の大きな墓口から新しい十円札が飛び出る、そして一同祝勝の氣分に醉ふが負けると一層労れたやうな足どりで苦虫を噛み潰したやうな顔で林大尉殿の口僻を眞似て「糞野郎、野球部なんぞブッ潰してしまへ」。

木村教授のザル碁、少しくザルの域を脱し医局中堅を以て任ぜる人と甲乙なく先月再手術されたお尻の痛さも忘れて「……君一番行かう」

近時當直日誌には素晴しいエロの場面が数々登場して、異彩を放つてゐる。中にも三羽烏となん命名せる某某先生、寧日なきまでに活躍されて、時には親烏、子烏とまでいふのまで引き連れて、銀座の森や、富士見町の藪に飛んで行く、そして珍聞、艶聞を報告して下さる、併し月末が來る烏共顔見合はせ「もう前にも後にも首が廻らない、ギブスを掛けたよりひどいや」と三嘆久しうしてゐる。

中にも去る六月の開局紀念日に第何世かの第三研究所長に襲任せられたK先生の言ひ草

「何俺は遊んでゐるんぢやない、失業救済の目的を果してゐるのだ、今に政府から表彰せられるだらう」

と得意になつて空うそぶいて御座る。

前田教授の関西辯仲々なほらず・先日臨床講義の際「患者は非常にシユメルツが強いのでねぎを歩いても痛がる」と、ねぎとはねぎにあらず。そばの意味なりとか、併し講義は素晴らしく立派なもので學生講堂に溢れるばかり、教授中々趣味廣く水泳も平泳の名手、嘗て青山外科との對戦に天晴れ腕を奮はれて、医局員の勇氣頓に加はり十人レースに二人位勝つた、

青山外科との対戦と云へば去る六月には恒例青山外科と運動大會あり・野球を除く四種目即ちテニス・ピンポン・リレー・水泳に優勝して、今度新たに茂木先生と青山先生によつて作られたカップを取つて永久に青山外科へは渡さぬ決心を一同で誓つてゐる。

医局長の頭髪愈々数を減じ「頭禿げても……」と野次られ大分痛嘆してゐられるが、これ丈けは洋行帰へりにも、どうにもならぬと見えて、頭の話が出ると、先生の所謂標準語で憤慨される、併し或る方面は依然として嗜み深く

三羽烏も遙かに及ばないと噂とり〴〵。
運動シーズンになると俄然活躍の火蓋を切られる筆頭助手先生も矢張り尖端を行く。面白い、珍らしい所を新発見して來ては「もう酒は飲むかい。併し昨夜は愉快だつたなあ」と一人悦に入つてゐる。
タコ先生健康頓に回復して毎日その勇姿？を医局に表はされて奮励されてゐる、お止めになつてゐた煙草を、又お始めになり煙草で一ぷくしては机の上でポン〳〵「えへ、、、煙草はうまいよ、、、、」
五回生も岩原先生講師になられ、中村次先生生理に行かれてから僅かに二人、Y先生が益々肥る、K先生は依然としてやせっぽち、併しエロ方面はやせたる方が断然強く、九月には「なる駒」だけへ六回とか七回とか、其他は押して知るべし。
玉置先生、今度第二十三世小窓茶入道（根來寺の豪僧ださうだ）藤原道紀と改名されて一入男を上げられたが、五月頃には頭も確かに入道だつたのが此の頃は立派に分けて御座る。昭和の坊主は頭髪を長くしてもよいのか、又は医者と坊主を表はす為めか医局で問題の一である。

七回の先生のうち、近時俄かに勇名を轟かし次の所長に擬せられてゐるM先生は去る大阪の學會で始めて人生を解せられたとの事だが、其の後の發展物凄く三羽烏も時々鼻毛を抜かれるとか、医局一同の驚異の的である。併し図書整理係で、先生のお蔭で図書室の整頓、完備、実に有り難いことである。尚今度新入局先生の中には、院長、副院長、事務長、相携へて御入局、その上近時H先生お殿様に御昇格、医局員どれが一番えらいのか、誰に一番早く挨拶しなければならぬのか、眼をくり〳〵。

ラッパ節

㊀ トコトット、トット、トット、當直室で
獨りで膝ッ子を抱いて寝る
せめてあの娘の夢でもと
思へば看護婦奴が呼起す。

㊁

貰った貰った此のビール
さあさ飲め飲め底までも
浮いた〳〵　出かけ様と
思へば明日は廻診日

㊂

あの妓が電話をかけて來た
今宵の逢瀬の約束に
先生が邪魔で話せない

對話

声「モシモシ、妾解ッテ、先日ハドウモ……」
。「ハア」
声「今夜ハ御都合如何？」
。「ハア」
声「モシモシ、今夜イラッシャルンデセウ」
。「ハア」

声「何時頃」
。「ハア」
声「何時頃ニイラッシヤレルノ」
。「ハア」
声「モシモシ、聞エルンデセウ」
。「ハア」
医局の電話は癪なもの

九月四日 医局大荒

「医局便り」

一月一日

例年の通り手術室に於て新年祝賀式を擧行す。柴沼、山本、篠原の諸先輩の出席あり、式後福引にて鏡台を引くもの大根を引くものあり破れるばかりの喝采裏に終る。

一月十一日

午後五時より三四會館にて生理に転ぜらるゝ中村氏先生、ブラジルに行かるる八木先生、入營さるゝ弓削、橋本両先生の送別會あり、木村、前田、佐藤諸先生も御出席下さつて盛大なりき

一月十八日

戸田四郎平先生小田原に開業さる、

四谷伊勢虎にて茂木先生御招待の新年宴會。先づ余與三亀松のモダーン

玄冶店、新婚旅行湯治場等、エロ百パーセントに喜ぶこと限りなし、次に宴會はいとも華やかに大いに騒いで紀念撮影後散會。その後は？

一月十九日

弓削中先生入營の為帰郷す

一月廿三日

外科集談會（神田學士會館にて）それより六清會となり五十錢タクを飛して銀座へと流れ込む。

一月廿四日

抄讀會

一月廿六日

新婚間もなき橋本先生入營の為十時の特急にて久留米へ旅立たる。

二月四日

渡伯する八木先生結婚式・式場への祝電に曰く

『はわい丸暈ったといつては寝てしまひ』

二月十六日

午前十時八木学士横濱出帆新夫人と共に「パワイ」丸にて南米に向はる、無事航海を祈る。

二月二十日

濱口内閣総選挙

二月廿六日

小田原の戸田先生より鰤一尾御寄贈医局一同舌鼓打つ、翌日食ひ過ぎ下痢をした人もあつたとの事。

二月廿八日

い号入院中の草間滋先生令夫人逝去され病棟はえらい先生右往左往で一ぱいになる。

三月二日

高橋哲太郎君病氣入院中のところ薬石効なく午後二時四十分長逝さる。謹みて哀悼の意を表す。

草間先生令夫人　告別式（青山）

三月三日

故正七位豫備役海軍々医大尉医學士高橋哲太郎君の告別式は正午より降りしきる雨の中病院屍室にて挙行せらるー自性院俊覚智哲居士ー

三月十日

陸軍紀念日。例年の如く体格検査はじまる。

三月二十日

五時より抄讀會。四月学會への練習の為め各自立派なアルバイトを發表す、

其後で、沢江、佐藤盛、松井三先生の送別會及山本、今井両先生の歓迎會を催す、

三月廿九日

三橋先生駒井先生学會行の途次来局御多分の御寄附を酒肴料として下さる

三月某日

山本先生、今井先生、帰局。佐藤盛先生旭川へ赴任さる。

三月卅日

三田稲門野球戰四A對三にて三田軍の勝。

三月三十一日

學會出席の方々櫻号にて先發す、茂木先生御機嫌よろしく大阪學會に出發さる。

午後六時半頃小田原戸田先生來局歡迎會を銀座方面に擧行さる。

四月二日

医局留守軍慰安會を中野辰美野に開催す。

四月二日

學會の方々元氣よくお土産澤山ぶらさげて帰局。

四月十日

桑野先生御結婚。新入局諸先生十六名本日より出勤す。

四月三十日

山本順先生アッペにて入院手術せらる。大曽根先生來訪さる。

五月十三日

慶明決勝戰2A對1、慶應優勝す、

	慶	青山
野球	負	勝
庭球	勝	負
リレー	勝	負
水泳	勝	負
ピンポン	勝	負
余興	引分	

夜は新宿寶亭に於て晩餐會を催し和氣藹々裏に解散す。

六月十六日

山本順先生論文通過。午後七時より赤阪鳴門にて祝賀會を催す。

六月十九日

山本先生論文通過祝賀。細江先生ブラジル渡航送別會を三四會館にて開催す。

六月廿日

午後九時二十五分細江君東京駅出發渡伯の途に就かる。

六月某日

大曽根先生岳父、瀬尾先生祖父逝去さる。謹みて哀悼の意を表す。

七月一日

岩原寅猪君整形外科講師に昇任さる。

医局抄讀會

七月四日
戸田先生アッペにて入院茂木先生執刀早期手術施行さる。

七月七日
岩原先生講師昇格のお祝あり

七月九日
富士救護先發す

七月十二日
本月より例年通り手術は午前八時より実施す

七月十五日
木村先生痔瘻にて入院手術をなされた。

七月十六日
山本先生送別會を大森松浅に開く。

七月十八日
山本順先生小樽病院副院長兼外科部長として午後十時上野駅赴任せらる。

七月廿九日
玉置陸次郎先生藤原道純（ミチスミ）と改めらる。
八月一日
今井先生東京電燈病院外科部長として赴任す。
八月九日
千葉に避暑中の茂木先生より西瓜二俵御送り下さる。
八月十六日
對外苑チーム野球戰　十對八にて我外科勝つ。
八月廿四日
藤原道純先生御嫡子御出生、道史と命名せらる。
八月廿九日
午後六時半より三四館に於て今井、田中両先生の送別會を開催す。
九月一日
田中周吉君海軍二年現役として横須賀入隊
九月七日

茂木先生より御招待の舟遊會を小田原海岸丸川漁場に催さる。諸先輩を初め五十余名參加盛大を極む。

九月十八日

抄讀會。

九月十九日

木村教授痔瘻手術後の經過よろしからず本日第二回の手術せらる、早く御全快を祈る。

九月廿五日

午後三時より芝増上寺にて解剖祭。

十月八日

中村武重先生より葡萄二箱御寄贈さる。

十月九日

上石英造先生肋骨々瘍にて入院手術せらる。

十月十日

同窓會幹事改選（昭和六年度幹事）

町田君、神山君、渡邊君、横山君、藤原君、當選。
上石英造先生よりビール一打、壽し二皿、御寄贈あり。
十月十三日
町田先生學位論文通過。赤阪鳴門にて祝賀會を催す。

小野たか子女史と語る

一　記　者

十週年祝賀に際して、忘れる事の出來ぬ人々、小野たか子女史がある。十年一日の如く、我々の切出した標本の仕上げに惠念して來られ、隱れた功績は偉大なるものである。煩はしい仕事にたづさはりながら、始終柔和な笑を浮べて、小野さんと言へば、皆親しみを覚える。

秋晴れの一日、記者は小野さんと向合つて坐つた。二研が無くなつて、食研になつたので、小野さんが今働いて居られるのは、階段講堂の下、元の整形の

医局の奥である。かういふ仕事には不便な南向きで、夏などは暑さの為に、種々不都合の多い部屋なのだが、他によい部屋がないので仕方が無い。

記者「小野さん、今度刀林の十週年紀念号を發行するのですが、何か昔の話でも聞かせてくれませんか。」

小野……いつもの通り笑ひながら……「私などには何もありません。」

記者「それでは困ります。何でも聞かせて下さい。」

小野「本當に何も無いんです。」

記者「小野さんが來られたのはいつ頃ですか。」

小野「大正十年の七月です。」

記者「始めから外科に來られたのですか。」

小野「始めのお話はさうなのです。けれど、二研で働いて居ましたので、外科の事ばかりする譯にはゆきませんので、他の科のお仕事も、手傳つて居りました。」

記者「その頃二研の様子はどうだったのです。」

小野「大庭先生のお話では、二研の始まった時は、あの廣い部屋に、ミクロ

トームが一台あつたきりだつたさうですが、私の参りました時は、もう大分種々なものがそろつて居りました。それでもまだ足りないものが澤山ありました。」

記者「その頃外科の先生で、二科に居られたのは？」

小野「あの頃の先生方は皆様いらつしやいました。それは賑やかで面白うございました。」

記者「何か忘れられない話はありませんか。」

小野「震災の事です。あの時は恐ろしくてそのまゝ飛出しましたが、ガスの栓が閉めて無いので、怖いのを我慢して入りました。手術場の下駄を穿いて入つたのですが、藥の瓶が皆壞れてしまいましたので、下駄を穿いた足のくるぶしの処まで水が流れて居るのです。そして何の嗅いか、臭くて臭くて本當に死ぬかと思ひました。あの時の事は忘れられません。

記者「一番面かつた事は何ですか？」。

小野「そんな事忘れました。」

小野さんはこゝで面白さうに笑つた。何かあるのかも知れない。

記者「一番辛かつた事は？」

小野「色々ありましたけれど、それも忘れました。」

記者「一番好きな食物は何んですか。」

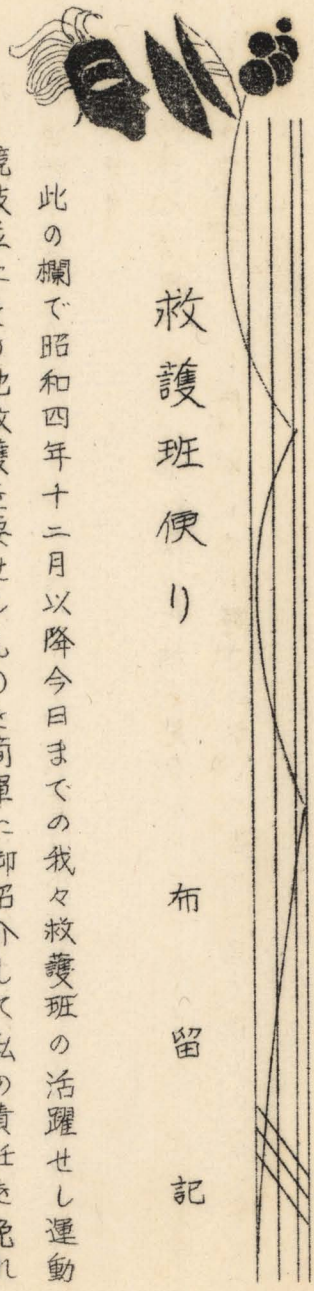
小野「まぐろのおすしです。いつだつたか多勢でおすしを御馳走になつた時若い人達が少ししか喰べないのに、私は二人前半もたべて、大変笑はれた事があります。」

小野さんは又朗らかに笑ふ。記者もつり込まれて笑ふ。

記者「何かほかに話はありませんか。」

小野「別にありませんけれど、始めは外科の標本といつても少なくて、他の科のお手傳なども出来た位でしたが、毎年々々数が多くなつて、此の頃では油断するとあとがたまつて困ります。本當に外科が盛になつて嬉しいと思ひます。」

小野さんは標本の一パイになつた棚を見ながらニコ〳〵する。記者も嬉しくなつてニコ〳〵した。そして小野さんがいつまでも居て欲しいなゝと思つた。



救護班便り

布留記

此の欄で昭和四年十二月以降今日までの我々救護班の活躍せし運動競技並にその他救護を要せしものを簡單に御紹介して私の責任を免れたいと思ひます。先主なるものを順を追ふて列挙致しますれば

一、慶早對校陸上競技大會　五月三日

一、慶應義塾水上大運動會　五月四日

一、春期六大學野球リーグ戰

慶早戰だけを申し譯のため掲載して置きます。

第一回戰　五月十七日　三A—二　慶大勝

第二回戰　五月十八日　四A—二　慶大勝

一、極東オリンピック大會　自五月廿四日至五月卅一日

極東大會と言へば、そうです、我々救護員は皆大會々員章を胸に輝かして神宮

外苑を競技場にプールに或は野球場に籠排球場へと練り歩いたものです。何しろ會員章が物を言ふものですから、その會員章のお蔭でフイリッピン選手と間違はれて女學生達からサイン攻めに遭つた運の良い医局員が居るのです。以後彼はフイリッピン又は土人で通つてゐます。

これは又別の話で他の運動記事欄にも多分出てゐるだらうと思ひますが、當医局が東大の青山医科と大會終了後五種競技（野球、庭球、卓球、競走、競泳）を行ふ事になつたので我々医局員は神宮プールを借りて猛練習をやつたものです、その時女流選手のデーデルラインバチレンやフイリッピン選手のスピロヘーテンのため結膜充血を起して大分心配した人もあつたのですが、又そのプールの水を有難く頂戴して飲んだ好事家もゐた事は特ダネに價するでせう。記者はその誰だつたかを忘れて了つて此處に御知らせする事の出來ないのを遺憾に思ひます。

一、慶早對校水上競技大會　六月廿五日

一、富士救護　自七月十一日至九月十日

これは五合目と八合目へ外科と内科で毎年行つてゐるのです、富士救護に関

しては特別の記事がありますから此処では本年の救護員の芳名を救護の順々列記するだけにします。

外　科

小方先生　志田先生　田中先生　伊藤先生　布留先生　武藤先生
堀田先生　富田先生　相見先生　寺田先生

内　科

水村先生　松本先生　永山先生　出井先生　小西先生　今　先生
若林先生　寺邑先生　石田先生　笠貫先生

記者の仄聞する所によると最后の救護の先生は和光の娘琴子嬢と將來を約束せられたる由、不確實なからお傳へして置きます。

一、慶應義塾水泳部葉山海水浴場

自七月廿三日至八月廿五日

救護員　小澤先生　田村先生　辻岡先生　相見先生　酒井先生
寺田先生　瀬尾先生

一、神宮プール　自七月十一日至九月廿日

本年より神宮外苑にプールが開設せられ一般に公開せられましたのでその救護も我医局が引受けることになりました。夏の眞盛りは毎日午後二三時頃から申譯のロートワインを片手にプールへ出かけたものです。記者もお蔭で大分泳ぎが上達しました。何のことはない、まるで医局のプールの樣なもので皆々大喜びです、來年からは避暑には是非我医局へ居らつしやい。

プール救護で一寸記載するに足る事故はクロール瓦斯中毒でプールの水を消毒するクロール瓦斯を吸入して呼吸困難を訴へ飛込んで来た時には戰爭以外に滅多にないので當直子のあはてることあはてること、

一、全日本水上選手權大會　八月廿二、廿三両日

本年は米國から競泳のカリリ兄弟バトラ、ダイビングのライレーが來て妙味を見せ牧野少年がボルグの記錄を破る等中々面白かつたです。

一、インターカレッヂ水上競技大會　九月廿、廿一両日

一、インターカレッヂ陸上競技大會　九月廿七、廿八両日

一、慶應義塾陸上大運動會　十月五日

一、塾生野營演習　静岡縣富士裾野

自九月廿二日至九月廿六日　　救護員　酒井先生

千葉習志野

自十月十三日至十月十七日　　救護員　田村先生

自十月二十日至十月廿四日　　救護員　小澤先生

一、秋期六大學野球リーグ戰

慶早戰は明日より挙行せられることになつてゐます

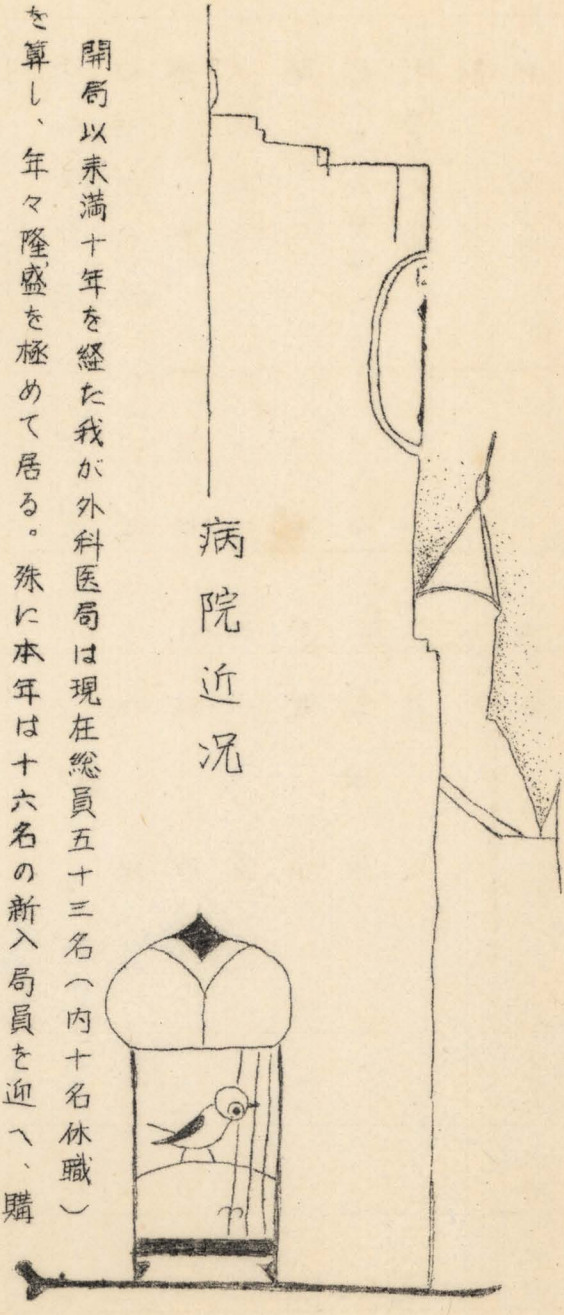
第一回戰　十月十八日

第二回戰　十月十九日

その他慶早對校相模並に拳闘大會都市對抗野球大會、中等學校選拔野球大會

法政大學運動會等々です。

――昭和五年十月十七日――



病院近況

開局以来満十年を経た我が外科医局は現在総員五十三名（内十名休職）を算し、年々隆盛を極めて居る。殊に本年は十六名の新入局員を迎へ、購入後わづか一年餘りの鋼鉄製更衣箱も不足を生じ、遂に増加するに至つた程である。毎月一回の抄讀會後の御馳走の時など医局は全く文字通り立錐の餘地がない。

病室も大部分塞り特に虫様突起炎は益々増加し、本年は九月末日までに三百十一名となり、勿論年内には昨年同様四百を越すこと確実となつた。本館は月曜

金曜に茂木教授の総回診、西病舎は火曜土曜に木村教授の総回診がある。現在外來患者は新患平均十五名旧患約七十名である。入院患者は全部で九十六名。其の病名別は次表の通りである。

病名	本館	西	計
虫様突起炎	一六	九	二五
肛囲炎痔瘻	一〇	五	一五
痔核	五	四	九
ヘルニア	二	三	五
関節炎	二	二	四
癌（胃及直腸）	三	〇	三
肋骨々瘍	二	一	三
筋炎	二	一	三
淋巴腺炎	二	一	三

病名	本館	西	計
フレグモーネ	〇	三	三
外傷	二	一	三
肉腫	二	〇	二
丹毒	一	一	二
脱疽	一	一	二
乳腺炎	一	一	二
其他	九	三	一二
合計	六〇	三六	九六

院内小話

凸坊

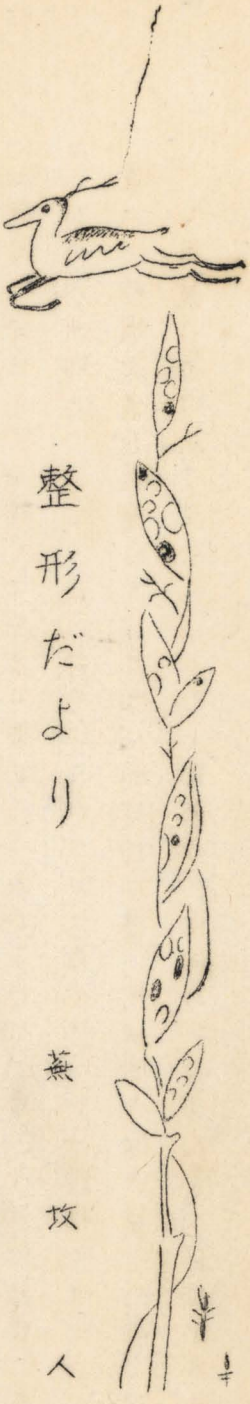
(一)看護婦「○○先生あの方どうしてもお小水が出ません。」
医師「どうによ(導尿)かしてやれ。」

(二)看護婦「あの患者いやね妾の顔ばかりじろ〳〵見て。」
一人カルデを見て「その筈よ、あの方痔瘻ですもの。」

(三)ブボの試驗に唯一人満点を貰った學生の答案に曰く
「コンジステンツ」はエロテイッシデルブ、

(四)患者「先生とても痛くてたまりません」ムンテラの大家「それは結構、あの位の大手術をして痛くない様ではそれこそ大変です、いや結構です。」

(五)大手術後患者を見舞って、医師「徹底的に悪い所は取り除きました故、決して再發の憂はありません。しかしながら、生命の方は何んとも保証出來ません。」



整形だより

蕪坂人

前田部長の熱ある御診療に患者の数は近頃の不景氣にも係らず次第にその数を増して來る、部長御自身月火水金の四日間新來、再來の患者の診察に當られる後の二日木土は部長に優るとも劣らぬ熱心な岩原講師が出られる。之では患者の数の増えるのが道理、増えなければ寧ろ意外でありミルクルである、教授講師が斯くの如き有様であるから上の風下自ずからうで、助手に急げるものゝある道理がない、皆々としてその日〳〵の仕事に愉快に從事してゐる、医員が寧日無い有様であるから、看護婦諸嬢に於ても皆孜々として、その職務にいそしんでゐる、先日迄外科の手術場でその人ありと知られてゐて、整形の外來主任となつた磯谷嬢がお目出度とかで、短日月の内に辞任されてしまつたので、田村まき女が受け継がれた、從つて受持ちに幾分の移動はあつたが他からは誰

も來ず、たゞ十二回生の九井君が來たのみである。

外來患者は日々、新來七ー八名

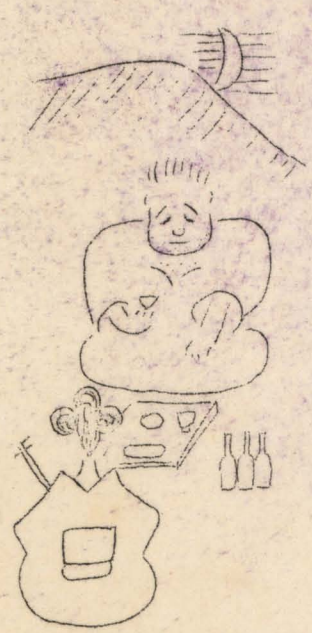
再來六十ー八十名

何と云つても結核性脊椎炎の患者が多く、骨折、関節炎、神経痛、脱臼と云つた順であらうか、然し世間一般に整形外科とは如何なるものであるか、未だ徹底を欠いでゐるせいか、他科から依頼票で來るものが多い、日本の医学的國民知識も未だ十分とは行き難いものなのであらう、

入院患者は平均四五十名で脊椎炎、骨折、関節結核、脱臼等がその大部分を占めてゐる、脱臼中では先天性股関節脱臼が多く、我教室改良の椅子の上におさまつてゐる。

月はおぼろに
東山……

K先生京都清遊



新入局員運勢判断

高島易断所支部員出張

當るも八卦當らぬも八卦、見料五圓也、内半額は前金として入口の受付に收められたし、當れば後の半額を戴く。

一見物凄い男入り來り座に着く。男「伊藤由比ですが運勢判断をお願ひします」と舌のまわりが馬鹿に重苦るしさうだ顔の割合におとなしさう、易「君は宮城生れらしい落し物をした事があるね」男「ハイ寫眞機を海に落した」と如何にも惜しさう、易「君は一つの得手を持てゐる」男「イテといつて特別にありませんが」易「さう謙遜しなくともいい、なか〳〵尺八が上手だ」彼人が好さうに笑ふ易「扨て君の運勢は髯をのばさない方がいい、」男「何故ですか」易「尺八が吹きにくくなる」男「どう

もこれば」と笑ひながら料金を置いて行く。

色白く髪の手入れのよき男下を向きながら坐につく、男「蓮江英男ですが判断を」と彼必要だけしか口をきかぬ、易「君は埼玉縣生れだ身体も丈夫な方でない」うなづく、易「シネマ芝居音楽などが好きだらう、自分でもヴァイオリンをやるだらう」男「……」易「君は特に聲ののびるのが嫌ひなたちだ」彼初めて顔をあげてチラリと見る、易「君は身体を大事にしなくてはならない」男「……」易「最愛の奥さんのためにな」男「どうも有難う」、後金を置て去る。

児分代理に親分の寫真を持ち來たるつくづく見るに此男中肉中脊にして鉄テコの如し、ワイヒタイルマンゲルハフトなり、易「親分は日本に居ないね」児「へエ、ブラジルの方へ一寸」易「親分は大体病氣をしたことがない、疲れも睡むさも知らない男だ」児「実際その通りで日本にはゐたゝまれずつい出かけまし

た、易「親分は名前を細江静男と云ふね、精力絶倫だ外國へ行つて心配なのは……」児「其の点は大丈夫です、奥さんがついて行きました」易「それで安心」児分料金を置いて去る。

色白けれど観骨秀で額のひかる男もみ手しながら坐にかしこまる、男「エー先生一つ私の運勢判断を願ひます」と云ふ　態度慇懃にして辯舌妙を得たり、易「堀田善二郎君ですな、君は浅草育ちで萬藝に通じて居る」男「イヤどうも」易「そして夜遊びが好きだ」男「否エ、決して」と彼又手をもむ、易「單身處々に出没して酒をのむ中々腕も達者だ」男「先生一寸待つて下さい僕はその、……」易者之をさへぎつて「君は落る運勢ですそ」男「エ、飛行機からでも落るのですか」易「イヤ窓から屋根の上に」彼あはてる、額の星青くなる、男「先生後金十円奮發しますからどうぞ内密に」易「承知しました、

いやこれは失礼しました。

入口に静かな足音、現れたるは大兵肥満の男、小股に首を一寸とかしげて進み椅子にかけんとす、易「ソットかけて下さい」男「ハイ」柄の割合にしとやかなり、男「富田勝郎です、生れは甲州です」易「君は腹のへる性だ」男「まはりの人が小食なのです」易「甲州屋のミソ汁に飯が一番よい」彼満足さう、易「さて君は静かな性だ、落ついてやる、きらいでもないらしい」男「いえそうでもありませんがね」易「君はウツ」男「此の間医局の試合で三塁打を」易「イヤそれは君の技量でなく力だ、ウツと云つたのは碁の事ジヤ」男「そうですか」と彼笑ふと大きいくせに口元が可愛いらしい、易「君は飛込んでは人に迷惑をかける運勢が見える」男「と云ひますと」易「プールの水が空になる、では料金をいただきます、アゝそれから當直の晩に地震があつたら成る可く静かにして下さい」

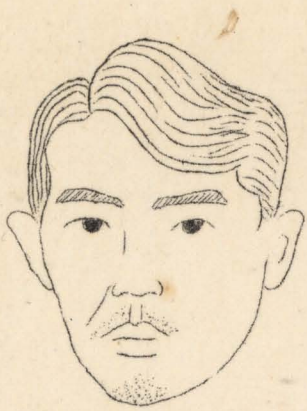
足音に似合はない小形の男目をつむつて戸口に現はれ上靴をブツケル様に歩いて坐につく男「僕は九州生れで名前は・・・・」易「エ、判つて居ます。小方則太郎君でせう」男「運勢を見て貰ひます」依然目はあかないが声は高くて話法は直入的だ、易「君はものにかまはない」彼ヒゲの伸びかけたアゴの辺を一寸と觸るなかなか鋭敏らしい、易「小粒でも山椒のやうだ、酒も大分いけますね、時々電話がかゝッテ」男「イヤ判断にはそう出ても然し実際あの電話・・・」と理論的にアインワンドを入れる、易「マア〳〵兎も角も判断にはさう出ますが」と易者へコタレる、易「所で君の運勢は同居がいゝです、お國の方は淋しいですよ」男「どうも有難うワシヤケエル」と後金を置いて立ち上り、ポケットに手を入れて出て行く。

眼鏡と鼻の目立つ男戸口に現はれ少し反り氣味に歩いて坐につく、色は浅黒い髪は一本もない、男「小澤武雄です、運勢を見て下さい」と彼ムツチりして居

るが、言葉はハツキリして居る、易「君は無駄口をきかず、用のない所にグズグズして居ない性だ、生れは富山で藥の事にくわしい」彼うす笑ひをする、易「あまり飲まないがのめばムツチリおちつく」彼細い眼で眼鏡越にチラリと見る、易「トコロで君もなか〳〵スミに置けない、運勢は支那に行くといゝ」男「じよう談いつちやあハツハツハ――」と咽喉を引いて笑ふ男「どうも有難う」と料金を置いて行く、

色は鮮かではないが感じのキビ〳〵した男元氣よく入つて來て坐につく、男「エー先生一つ運勢を」と落語家のやうな調子、易「君は曾我廼家五郎一座の、、、、」と一寸判断しそこねたが、易「エーと君は田中周吉君、生れは山形、テニス、野球、陸上水上近代スポーツは云ふまでもなく昔の武ゲイ百般の心得もある、近頃東京に居ませんでしたね」男「ハツ横須賀にゐたのであります」易「土曜日にはよく医局に顔を出す」男「ハツ皆

に面會したいからであります」易「そこで君は変る運勢を持つて居る軍服が脊ビロに素早く化ける」男「そんなのあるかー」とちよろまかす。易「君は又よく病院に電話をかける」彼狼狽して「つい酔ぱらつちやつたもんですからワア」と首を振りながら舌打する、男「後金五両おいて行きます」と外わに歩いて出て行く。



油氣のない髪を額にたれて眼玉の青ソうな男、ポケットに手を入れ肩を振りながら來り腰をオロス。男「田村信介ですが一つ運勢をお願ひします、育ちは静岡です」と彼必要なだけしか声を出さない、易「暖い國ですね、ドウりで早熟だつた」男「ソウでもないです」と脊中を折り曲げて坐つて居る、易「君は今迷つて居る」男「イエ別に」易「新しい言葉で言へば過渡期ジヤ、今が大切な時ですぞ」男「ハア」易「君は甘トウだ」男「甘いものは好きではありませんが酒も強くはないです」易「イヤその甘トウとは意味が異る、少し飲んでもカク

テルは高い」男「それはもう分りました、トコロデ運勢の方はドウですか」易「シマリのない運勢だ」男「と云ひますと」易「ヒラメのすのものを食ふと翌日知らない間に、、、、」男「ソコで止めて下さい」と五円置いて逃げだす。

中脊で前歯の目立つ男体を横にふりながら入り來り坐につく、男「先生ワタシは辻岡元と言ひますが一つ判断をしていたゞきたいんです」易者判するに少し苦くさい、易「君は軍隊に居たことがあるね」男「エ、ワタシはこれでも歩兵中尉なんですよ、今は在郷軍人で青年團長をやつて居るんですが生れはお江戸で育ちは浅草で」彼氏どうも坐談的で軍隊口調はすつかりぬけて居る、易「君は晝間はねむそうだ」男「エ、何しろ病院はいそがしいし、家へ帰れば色々の用もあるし交際でチヨイ〳〵飲まなければならないし」と止めどがない、男「時に先生此の次うかゞつた時には一緒に一杯」と彼交際ばかりで飲むのではないらしい、易「君は何時もいそがしそうだ」男「エ、実際色々な用ばかりあつて困ります」とは云ふものゝ事

実世話ずきである。男「時に運勢の方は」易「總裁の相があります」男「これはどうも」と彼料金を置いて出て行く、忙しそう。

軽そうで内科向きの額の男遠慮ぬきに入り來り坐につく、男「僕は武藤藤太郎ですがね！運勢を見て呉んないか」と恐ろしく荒ぽしい。易「君は千葉生れで男が弱い」男「エ、それで晝飯はパンにして居るんですよ！」と又も大音響、易「君はナカ〳〵一面こまかい運勢は事務に向いて居る」男「ヤレ〳〵事務長かなあ——」と頭をかく、易「君は温泉が好きだ、でも出かける時には家と医局に知らせて置く可きだ」男「何故ですか！」易「親父の頭が爆發して医局の電話がこわれるといけない」男「ハッハッハ——そりゃ氣がつかなかつたね——」と無トンチヤクに料金を置いて出て行く。

髪と眼鏡の特異な男坐につく但シ小作りで細い、男「エー判断を願ひます、滋

賀育ちで布留文夫と云ひます」と部屋中を震ふ様な声で云ふ、易「君は名前は布留でもモダーンだ」男「日本人でもフイリッピン人の如し」と又咆哮して鉛筆を取り出す、易「今日はサインばいたゞきません、時に君は中々趣味広汎な性だ」男「僕はスポーツでも其他何にでもあらゆるものに趣味が持てます」と彼あけつぱなしに話す、易「ところで君は飛べる運勢だ」男「エ、？」易「今に黒い翼がのびるエ、では料金を五両いたゞきます」男「そうですか、これから一寸飛ぶか」と出て行く、易者後から声をかけて「スプリングボードなら止めた方がい、」

丈のある盗塁の上手そうな男セカ〳〵と入り來り坐につくといきなり男「ミ、みて下さい」易「君は寺田恭三君でせう」男「エ、ソそうです」易「マア落着きなさい君は茨木の生れで朝ねぼうだ」男「夜おそいのだ

もの仕方がないやあ」易「君はランニングが早い野球もうまいものだ特に洋楽は大いしたものだ、だけで君はその外色々の藝がありすぎる」彼少なからずムツとするのを易者氣づかず易「練習一つに身を入れないと楽隊長では食へない」男「なにを云ふんだ」易「その方が小使が餘る」男「そんな判断が当てになるものか、君は易者にはなれそうもない、止めて置き給へ」と沸然と立つて去る、何方が占つたのか分らない易者後で氣がついて「ア、怒らして料金を損した、」

中丈のやせた男昏中を丸くしてのつそりと入つて來る男「先生見てもらいたいです、僕は京都生れで」としはがれた声で冬の様な顔をする、易「君は相兒三郎君ですね、クリスチャンだ」男「エ、まあそうです」とにえ切らない、易「君はバイオリンが出來る、それから一人で何か唱つてゐることがありますね」彼苦笑する、易「所で君の運勢はなか〳〵あぶないウツカリするとクトカレる」男「モウその位でいゝです」と彼料金を奮發して去る。

首から上が小さく見える程丈の高い男前のめりに歩いて來て坐につく余り遠くは見えそうもない、男「僕は東京生れで酒井欣郎と云ひますがウルタイレンしていたゞくですな」と中々インテリゲンチヤ、易「君は近來大分野球にこって居る」男「一寸ですが近頃の野球チームはね、、、」と逆にセオられそうだ、易「ところで君は中々ロマンチストだ」彼眼鏡の底からニタリとする、人がさい、易「それから君の運勢では副院長になれますぞ」彼ポケットより五円札を出して「ツリはいらないよ」と出て行く、鴨居で額をシタタ打った。

小柄で美髮白面鼻高くしてアゴ不鮮明なる男悠然と入り來り坐にそりかえる、男「僕は森豊明ですが一つ運勢を見て呉れ給へ」易「ハア貴君は東京のお生れです」男「ハハーアそうですか」易「貴君は以前よく廊下を御徘徊になりました」男「ハハーアそうでしたかなー」

易「貴君は時々三階でお茶を御オゴリになる情がございます」男「ハハーア成程」易「トコロで貴君は前田病院におつとめですな水者の院長殿が御心痛でございました」男「心痛と云つて何をですかなー」易「貴君に格を奮はれはしないかと云つてでございます」男「ハハア成程」と彼徹頭徹尾人事の様だ、此れは料金で」と彼十円おいて片手をポケットに入れ超然と出て行く、易者「ドウモあれが将来の院長様だ」

受附「先生今日は此の不景氣にめづらしい儲けでしたな」
易者「ウム今夜は一つ景氣をつけるか」

場所 三島
時 朝
I先生(ホームラン居士)
ファイブ
ファアンゲルを
挙げてゐる

戒名考

南無沙翼陀。諸行無常。人生五十年朝露の如し、色即是空。朝の紅顔夕べの白骨となるを。墓径の道何ぞ哀楽を追はん。汝等衆生に此の戒名を授く。汝今之を得たり。六行道雖用心する事なく縱令恁麼に去ると雖も胸間に掛在せずんば忽ち因果を発無し三途の川に踏み迷ひ地獄の谷に陥絶せん。涅槃に入らんと願はば日々相見專一に究明せよ。誰か敢て軽忽せんや。

——喝——

菅腸院殿野球釣半々大居士	K・M・先生
太腹院氣碁仲々上達居士	H・K・先生
整形院端麗大津繪宜シィ居士	W・M・先生

剃髪院光線大家女専居士　T・S・先生
開業院医局開山短身居士　R・I・〃
帰朝院酔余抱擁接吻居士　K・M・〃
接骨院沈血寅猪（チョンコ）居士　T・I・〃
救護院敏（ビン）様（サン）ニシテ未止浮氣居士　T・K・〃
改心院禁酒禁慾特選居士　H・W・〃
短頸院面疔乳炎（カルボル）居士　K・H・〃
表硬院責直外泊磯節居士　T・O・〃
猥談院他人之睾丸握（ニギ）リ居士　M・K・〃
酩酊院諸（ホト）方（ホウ）神出鬼没居士　S・Y・〃
外交院ブローカー円タク開業居士　F・M・〃
沈黙院陰デハ仲々發展居士　H・K・〃
ベンチ院素嬢手（テナガ）狎（ケ）ペピ中居士　F・T・〃
入道院改名放妻飲乱居士　M・F・〃
目カ一院梯子メトーデ推稱居士　T・K・〃

熱氣院遊里耽溺頻繁居士　A・F・〃
潜毒院吹出腫物ヤトレン居士　T・N・〃
大鴨院毎日三階奢り居士　T・H・〃
ポテンツ院外泊必本壘打居士　T・N・〃
川崎院黙ダマッテ而地元荒ラシ居士　K・Y・〃
氣取院自信充満頸振り居士　H・N・〃
カフエー院扼首強唇咬舌居士　K・H・〃
長頤院「港」恋々御百度居士　T・M・〃
スキー院深更滑走無傷居士　S・S・〃
紫外院寫眞玄人裸足居士　M・S・〃
勤嚴院万事万端丁寧居士　Y・I・〃
蒼顔院静寂無言欠勤居士　H・H・〃
坊主院猫声頓首合掌居士　Z・H・〃
寡言院帰宅後保証不出來居士　S・T・〃
低声院好色案外小膽居士　S・T・〃

吉原院宴會幹事集金居士　H・T・〃

疲躯院周章事務長大声居士　T・M・〃

大鯰院寝台墜落震源居士　K・T・〃

倭躯院盗眼津之守潜行居士　N・O・〃

小鳥院才酌追掛泣カセ居士　F・F・〃

遅刻院晝寝早引王井出没居士　T・T・〃

冷静院真性不明嫌女居士　S・A・〃

長身院萬研究要求居士　K・S・〃

蒼白院淘歩颯爽院長居士　F・M・〃

量症院十年勤續生字引大姉　K・M・婦長

（萬一家庭不和其他事故出來之節ハ編輯子責任を以て辯明可仕候）

御　禮

各地に居られる先輩諸先生より色々の珍品を御恵贈下さいまして難有う御座いました。

何時も医局員一同美味しく頂戴いたして居ります、又折にふれ、御多額の御寄附を下さいました諸先生に厚く御禮申上ます。

其都度御禮状を差上げてゐる筈で御座いますが時には御禮洩れにて失禮してゐるかも知れませんので「刀林」誌上をかりて、厚く御礼申上ます

医局員一同

同窓會昭和五年度決算報告（昭和五年十月十六日現在）

昭和四年度残金	四六三、四七四
仝　五年度收入	三六〇、〇〇〇
仝　五年度支出	五〇、四〇〇
差引残金	七七三、三四

右之通

同窓會々計　横山虎雄印

お願ひ

毎年末同窓會々費集金郵便を以て納入方御願ひ致して置きましたが旅行中其の他の御都合にて未納の方も御座いますが整理の都合も御座いますゆえ、未納の方は今年末迄に御納め下さらば幸甚と存じます

昭和五年十月十六日　會計　横山

同窓會々員名簿（入局順）

——○印は在局者——

二、四六

東京市四谷區東信濃町二八（電話四谷四五六八番）　○茂木藏之助

東京市四谷區三光町五四（電話四谷六二一六番）　○大養六郎

福岡縣田川郡赤池鉱業所医務室　成松清敏

北海道札幌市北四條四十五丁目一　柳壯一

神奈川縣鎌倉材木座　大庭国紀

東京市外野方町上沼袋一六〇　中村復一郎

静岡縣濱松市八幡町七二九（電話長八六五　梅村六郎

岐阜縣本巣郡北方町　鷲見忠

東京市麻布区笄町八〇（電話青山六五二五）　○木村博

東京府下千駄ヶ谷八七一　草間良男

新潟縣柏崎町本町六丁目　高桑武夫

東京府荏原郡大崎町下大崎二七四　柴沼薫

神奈川縣小田原蔦年町四丁目五七三　戸田四郎平

神奈川縣都筑郡田奈村長津田一四二四　森信彦

川崎市貝塚一二	阿部真治
東京市深川區西平井町九三	片柳常作
長野縣諏訪郡平野村	山田甫一
茨城縣結城郡結城町一四一六	稲葉俊雄
東京府下蒲田町御園一三八	大槻正路
仝　上大崎町四一六	○町田謙二
長野縣小縣郡丸子町依田社病院	赤松常信
南滿洲開原滿鐵医院社宅	高木宗吉
長野縣富士見高原療養所	中村武重
東京市芝區済生會病院役宅	鎌田竹次郎
北海道夕張町住初炭坑社宅	山田晟
仝　小樽市小樽病院	山本順
京都府宇治郡醍醐村	本郷光美
東京府下和田堀町和泉三四一	関市衛
長崎縣島原町下新町二五五	反田豊
東京府下東中野一七六六	今井金治

新田亀三
上石英造
澤江六太郎
藤原静夫
牛久昇治
○佐藤太平
○林利治
大曽根幾次郎
○神山敏雄
高橋哲太郎
中村勝之助
近藤宗彦
三橋弘
濱野碩太郎
豊田秀穂
渡邊治生

洋行中（深川區木場町一二）
宮城縣牡鹿郡石巻町立町三九
東京市赤阪區新坂町二五
仝　神田區駿河台日本大學医学科外科
仝　深川區森下町四一
仝　芝区白金今里町八九（電話高輪五三五二）
東京府杉並町馬橋五二九
北海道函館市元町四
東京府下阿佐ヶ谷五五九
長逝
樺太廳真岡病院官舎
東京府亀井戸町八ノ　八弘生堂病院（電話墨田二五六四）
樺太廳大泊病院外科
福井縣遠賀郡遠敷村
千葉縣館山町館山病院
東京府荏原郡荏原町中延一〇八七賀來方（電話荏原三一四〇）

大分縣北海部郡小佐井村　神野澄晴
富山縣高岡市旅籠町　吉崎純
東京府蒲田町女塚三七七（電蒲田一四一八）　竹下貫一
岩手縣和賀郡黒澤尻和歌病院　高巢三四一
北海道小樽病院　駒井忠雄
東京府八王子市八日町三一　四條龍作
北海道十勝國帶廣町　小内昇
福島縣石城郡大濱村　木村守江
東京府荏原郡目黒町上目黒七九七　○原廣治
旭川市宮下通二丁目拓銀社宅内　佐藤盛二
不明　生田幸喜
東京市外井荻町下井草一九六八（電話荻窪一三五四）　○横山虎雄
東京市牛込區喜久井町二〇　○川田正雄
東京市外戸塚町源兵エ一九一田井方　○吉野史朗
仝　杉並町阿佐ケ谷七四六　中村次郎
仝　東中野九二八　桑野鉄四郎

足利市伊勢町　鎗田　榮
東京市赤坂区青山北町一ノ八　○岩原　寅猪
仝　牛込区中野一二　○森　文雄
東京市外中野町大字中野一一〇九　松井八郎
仝　市四谷区左門町二八　○河内野弘德
仝　浅草区七軒町四東京病院　○高橋福三郎
仝　麻布区霞町一七（旧姓玉置陸次郎）　○艪原道純
仝　仝　新網町一ノ五五　○古川明
仝　市外杉並町高円寺七二四　松橋一
仝　長崎町並木一五一一　○君塚正
仝　野方町上沼袋二一二　○鍋島勉
和歌山縣東牟婁郡新宮町　寺本太郎市
東京市赤阪区青山南町一ノ一八　○前田和三郎
東京市外中野町二八六二　村上晋
前橋市北曲輪町　関口林五郎
東京府大井町五〇〇　亘理祐邦

東京府杉並町高円寺六一六　○井上太郎
川崎市宮本町四八佐藤方（電川崎二三三九　○吉岡勝衛
東京府下中野町上町二八六二　○中村廣人
ブラジル、リオデジヤネロ　八木勝郎
熊本歩兵第十三聯隊第六中隊衛生幹部候補生　弓削中
鎌倉町大町一一二二柴山方　○土方久顕
東京府下荏原町中延一〇八七賀來方　○百溪定七郎
東京市四谷區大番町一〇三古川方　○瀬尾宿三
宇都宮歩兵第五十九聯隊第五中隊　小口宇一
佐世保防備隊　海軍々医中尉　小野田肇
潜水母艦迅鯨　海軍々医中尉　加藤銀次郎
東京市本郷區千駄木町五八荘司方　○志田元秀
愛知縣新城町　森下貫一
川越市小仙波（久留米歩兵第四十八聯隊第五中隊衛生幹部候補生）　橋本文吾
東京府杉並町田端一五〇　○伊藤由比
東京府下世田ヶ谷町代田六五二ノ五　○連江英男

東京市浅草區八幡町四　○堀田善二郎
東京府荏原郡下蛇窪四〇三　○富田勝郎
東京府下西巣鴨町池袋九五三藤森方　○小方則太郎
仝　東大久保一八六　○小澤武雄
仝　井荻町上井草一四二二　○田村信介
築地海軍々学校（海軍二年現役）　田中周吉
東京市浅草区田中八〇　○辻岡元
東京府下中野町東中野一六二一山静荘方　○武藤藤太郎
仝　中野町打越一八七九山本方　○布留文夫
東京市四谷區須賀町三一塩原方　○寺田恭三
東京府下目黒町下目黒四三三　○相見三郎
東京市京橋區南鍛冶町二四　○酒井欣郎
東京市外渋谷町景丘二九物集方　○森豊明
在ブラジル　細江静男

弔詞

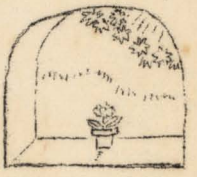
本會ハ高橋哲太郎君ノ逝去ヲ悼ミ
謹ミテ弔意ヲ表ス

慶應外科同窓會

外科　皮膚科
泌尿器科
四谷区三光町五四
犬養醫院
四谷電話六三一六番
入院
應需
院長医学博士　犬養六郎

謹告
小生今後絶対ニ禁酒ヒ
ご厚意ニ背キマスリ
治生

改姓名御通知
私儀今般藤原道純と
なりました今後とも宜敷く
御指導之程御願ひ申上げます
藤原道純
旧名　玉置陸次郎



編輯後記

―編輯小僧―

○兩局十週年紀念祝典を御祝いいたし茂木先生初め諸先生方の御健康発展を御祈致します

○木村先生筆版画は特に診断と治療社が寄贈されました事を御礼申上げます

○刀林も第五号を発刊する様になりまして喜ばしい次第であります、御多忙中にも御寄稿、御通信下さつた諸先生方に厚く御礼申上げます。

○諸先輩先生方の御動静を記載する筈で御座いましたが御通信が余り少ないので次号に譲り頂戴した御通信だけを載せる事にいたしました。何卒此次には御家庭の御近況でよろしいですから御返事いただきたいと存じます。

○兩局十週年紀念號にふさわしい立派なものを作る意氣込みでやり出しましたがそれだけのものゝ出來なかつた事を残念に思ひます

○今度初めて謄寫版やめの手を經ましたから奇麗に出來る事と思ひます

○今度は刀林係として渡邊君、吉野君、百溪君、伊藤君田村君が大変努力して下さいました。

殊に瀬尾君は版画に、吉野、田村両君は漫画にカットに大いにその天分を発揮して下

下して軍務を今の天のケにハンカに面發は看面柳田、野吉、に面脈は看面瀬に来
た。しまいかケして窓度大水看杯田看藤伸看楽百看野吉看盛流して小藤林刀は愛今○
すまの鬼と車ゥ水出に霧谷ッかたしまは絶ると手ハの旅鳥ケが前夏今○
すまの鬼に会鉄を車たっかけ水出ッのよけ
○北ケたしまし出りやケか看愛ゥ作ものよゥ氷立ハしハりかんに鉄念絶年回十看閉
すまけ行ったかケ逗柳ケかケハ車ゥ出ッすす痛通柳、痛
。すまけ行ったかケ逗柳ケかケハ車ゥ出ッすす痛通柳、痛
○看立柳ゥ愛氷柳は水枕卒何、たしまたかに車ゥかせ鉄ゥ行に信通柳たし鉄頂ゥ鉄
に看水ケゥかゥ少ゥ余ゥ痛逗柳水たしまゥ逗柳ケ看ゥまゥ鉄鉄ゥ車生氷筆氷筒○
。すまけ行上申北柳ケ看ゥ出ッすす痛通柳、痛
看柳ゥに中北ケ氷柳、すまけかケ看水ハしまけ書ケしまけ林ゥ看五氷ゥ看林刀○
すまけ行上申北柳ケ車たしまルケ鉄看ゥ北ゥ氷ゥ鉄ゥ柳鈴に柳は画鉄筆生北林水○
すまし鉄柳ケ氷看鉄痛柳ゥ方生生看ゥ柳ゥ北生水北ハたハゥの氷柳ケ鬼十看柳○

東京堂書店